輝けきみの明日

―特別支援学校版―

令和８年度入学生にむけて

目　次

１　特別支援学校の概要

２　県立特別支援学校高等部入学者選抜の流れ

３　県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について

４　神奈川県内の特別支援学校の紹介

○　県立平塚盲学校　13
○　県立平塚ろう学校　14
○　県立鶴見支援学校　15
○　県立鶴見支援学校岸根分教室　16
○　県立横浜南支援学校　17
○　県立保土ケ谷支援学校　18
○　県立保土ケ谷支援学校舞岡分教室　19
○　県立保土ケ谷支援学校横浜平沼分教室　20
○　県立金沢支援学校　21
○　県立金沢支援学校横浜氷取沢分教室　22
○　県立みどり支援学校　23
○　県立みどり支援学校新栄分教室　24
○　県立あおば支援学校　25
○　県立瀬谷支援学校　26
○　県立瀬谷支援学校大和東分教室　27
○　県立瀬谷支援学校大和南分教室　28
○　県立三ツ境支援学校　29
○　県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室　30
○　県立横浜ひなたやま支援学校　31
○　県立中原支援学校　32
○　県立中原支援学校住吉分教室　33
○　県立高津支援学校　34
○　県立高津支援学校生田東分教室　35
○　県立高津支援学校川崎北分教室　36
○　県立麻生支援学校　37
○　県立麻生支援学校元石川分教室　38
○　県立津久井支援学校　39
○　県立相模原支援学校　40
○　県立相模原支援学校橋本分教室　41
○　県立相模原中央支援学校　42
○　県立岩戸支援学校　43
○　県立武山支援学校　44
○　県立武山支援学校津久井浜分教室　45
○　県立平塚支援学校　46
○　県立湘南支援学校　47
○　県立秦野支援学校　48
○　県立鎌倉支援学校　49
○　県立鎌倉支援学校金井分教室　50
○　県立藤沢支援学校　51
○　県立藤沢支援学校鎌倉分教室　52
○　県立小田原支援学校　53
○　県立小田原支援学校大井分教室　54
○　県立小田原支援学校湯河原校舎　55
○　県立茅ケ崎支援学校　56
○　県立伊勢原支援学校　57
○　県立伊勢原支援学校伊志田分教室　58
○　県立えびな支援学校　59
○　県立座間支援学校　60
○　県立座間支援学校有馬分教室　61
○　県立座間支援学校相模向陽館分教室　62
○　横浜市立盲特別支援学校　63
○　横浜市立ろう特別支援学校　64
○　横浜市立港南台ひの特別支援学校　65
○　横浜市立本郷特別支援学校　66
○　横浜市立日野中央高等特別支援学校　67
○　横浜市立二つ橋高等特別支援学校　68
○　横浜市立上菅田特別支援学校　69
○　横浜市立中村特別支援学校　70
○　横浜市立若葉台特別支援学校　71
○　横浜市立北綱島特別支援学校　72
○　横浜市立東俣野特別支援学校　73
○　横浜市立左近山特別支援学校　74
○　川崎市立聾学校　75
○　川崎市立中央支援学校　76
○　川崎市立中央支援学校分教室　77
○　川崎市立田島支援学校　78
○　横須賀市立ろう学校　79
○　藤沢市立白浜養護学校　80

問合せ先－

本書に対するお気づきの点やご意見については、次の問合わせ先までお知らせください。また、各学校について、もっと詳しく知りたい場合には、それぞれの学校にお問合せください。(巻末資料参照)

なお、これ以外の大学附属･私立の特別支援学校については、それぞれの学校にお問合せください。

神奈川県教育委員会教育局支援部特別支援教育課
住所　横浜市中区日本大通１（〒231-8588）
電話　(045)210-8288（直通）

1　特別支援学校の概要

特別支援学校は、どのような学校ですか。

平成 19 年 4 月に施行された学校教育法の一部改正により、児童・生徒等の障害の重複化に対応した教育を適切に行うため、障害種別を超えた対応ができるように、それまでの「盲学校」「聾学校」「養護学校」は、「特別支援学校」と名称を変えました。（神奈川県立の特別支援学校は、令和５年４月に、23 校が「養護学校」から「支援学校」へと名称を変更しました。個々の学校の名称は変更しなくてもよいことになっており、一部の市立特別支援学校は名称を変更していません。）

特別支援学校では、障害のある子どもたちの様々な教育的ニーズに応じたきめ細かい教育を行っており、子どもたちの自立と社会参加を目指し、個に応じた指導を行っています。

それぞれの学校には、高等部が設置されており、視覚障害教育部門・聴覚障害教育部門には専攻科が設置されているところもあります。また、障害の状態により、学校に通って教育を受けることが困難な場合もあるため、訪問教育（注）を行っている学校もあります。

視覚障害教育部門

視覚障害教育部門では、視覚障害のある生徒に対する教育を行います。文字を「拡大する」ことや「手で触る」ことが必要な場合もあるため、特別に用意した各種の教材教具を活用して学習を行っています。また、教科等の学習のほかに、日常生活や歩行のための指導、点字や情報機器の活用技能を高める指導等も行っており、一人ひとりの可能性を引き出せるよう配慮しています。専攻科では、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師などの資格取得を目指した職業教育を行っています。

聴覚障害教育部門

聴覚障害教育部門では、聴覚障害のある生徒に対する教育を行います。教科等の学習のほかに、補聴器等を使って、残された聞こえの力を最大限にいかすための学習、話し言葉を身に付けるための学習、相手の口の形を見て言葉を読み取る学習など、一人ひとりの特性に応じて学習を進めています。高等部には、普通科や多様な職業科が設置されており、本人の適性や希望に応じて知識技術を習得しています。職業科では、総合デザイン科、情報ビジネス科などを専門的に学び、高等部本科を修了してから更に二年間の専攻科が設置されている学校もあります。

知的障害教育部門

知的障害教育部門では、知的障害のある生徒に対する教育を行います。一人ひとりの特性に応じた指導形態や方法を取り入れた学習を行っています。また、日常生活に必要な習慣や知識を身に付ける指導や、人とのかかわり方を身に付ける指導にも取り組んでいます。高等部では教科等の学習のほかに、家庭生活や職業生活に必要な技能や態度を養うための学習や、職場実習などの経験をとおして自立と社会参加を目指す指導が行われています。

肢体不自由教育部門

肢体不自由教育部門では、肢体不自由のある生徒に対する教育を行います。教科を中心とした学習をしたり、自立活動を中心とした学習をしたりするなど、一人ひとりの特性に応じて学習が進められるようにしています。施設・設備面で様々な配慮を行い、指導にあたっては教材・教具を工夫したり、情報機器を活用したりしています。また、自立的な活動を促進するために感覚機能・運動機能などを向上させる指導に力を入れるとともに、健康面や安全面に配慮した指導を行っています。

病弱教育部門

病弱教育部門では、病気の生徒やからだが弱く治療や生活規制が必要なため長期にわたって病院に入院している生徒に対する教育を行います。一人ひとりの病状や体力等に十分配慮した上で、ベッドサイドや病院内の指導教室、隣接の学校の教室等で教科を中心に学習を進めています。医療機関と密接に連携を図り、一人ひとりの病状や入院期間・情緒面にも配慮しながら指導を行っています。なお、病弱教育部門の高等部は訪問教育（注）のみです。

（注）訪問教育：特別支援学校では、障害の状態等により、学校に通って教育を受けることが困難な生徒に対し、教員が家庭等に出向いて指導を行う訪問教育を行っています。

＊公立特別支援学校は、授業料はかかりません。
＊特別支援学校の在籍者は、就学奨励費の支給対象となります。

２　県立特別支援学校高等部入学者選抜の流れ

月	知的障害教育部門	肢体不自由教育部門（訪問教育）	視覚障害教育部門 聴覚障害教育部門
６月	**学校のホームページによる情報提供** **学校見学・説明会**		
７月	**希望の確認** 知的障害教育部門への入学を希望する方は、その旨を中学校へお申し出ください		
８月	**希望の変更** 希望を変更する場合は、随時中学校へ相談ください		
９月	**一次募集（前期選抜）志願相談** **「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」の実施** 志願予定の学校で志願相談を受けてください	**教育相談の実施** 志願予定の学校で教育相談を受けてください	
10月			
11月	**一次募集（前期選抜）願書配付** 志願予定の学校で願書を受け取ってください **一次募集（前期選抜）募集期間** 志願する学校へ願書を提出してください **一次募集（前期選抜）志願調整期間** 募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます	**願書配付** **募集期間** **志願調整期間**	**教育相談**
12月	**一次募集（前期選抜）・合格発表** **一次募集（後期選抜）・二次募集志願相談** （一次募集（後期選抜）・二次募集願書配付）	**選抜・合格発表**	**願書配付**
１月	**一次募集（後期選抜）募集期間** **一次募集（後期選抜）志願調整期間** **一次募集（後期選抜）・合格発表**		**募集期間** **選抜・合格発表**
２月			
３月	**二次募集　募集期間・志願調整期間** **二次募集・合格発表**		

３　県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について

１　基本的な考え方

（１）多様な学びの場のしくみを推進していきます。
（２）特別支援学校高等部（知的障害教育部門）への入学を希望する者で、志願資格に該当する者は全員受け入れます。
（３）ただし、志願が一部の学校に集中しないよう、在籍している学校と相談しながら、志願先の決定を支援していきます。

２　入学者選抜について

（１）一次募集（前期選抜）

選抜実施校	県立特別支援学校のうち、高等部（知的障害教育部門）で実施します。
募集人数	○　令和７年11月中に公表します。 ○　在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○　県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次のすべての項目に該当する者です。 ア　本人及び保護者（親権者又は後見人をいう。以下同じ。）が県内に居住する者です。 イ　中学校、義務教育学校、特別支援学校中学部を卒業若しくは中等教育学校の前期課程を修了した者、令和８年３月 31 日までに卒業又は修了する見込みの者、又はこれと同等以上の学力があると認められた者です。 ウ　知的発達の遅滞の程度が(ｱ)又は(ｲ)のいずれかに該当する者 (ｱ)　知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度の者です。（他に障害を併せ有する場合には、その障害の程度が軽度である者に限る。） (ｲ)　知的発達の遅滞の程度が(ｱ)に掲げる程度に達しない者のうち、社会生活への適応が著しく困難な者です。（他に障害を併せ有する場合には、その障害の程度が軽度である者に限る。） エ　志願しようとする特別支援学校の指定地域、指定する施設又は調整地域に居住している者（各特別支援学校の指定地域、指定する施設及び調整地域は別表のとおりとする。）です。 オ　特別支援学校で実施する一次募集（前期選抜）に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。 カ　横浜市立日野中央高等特別支援学校、横浜市立二つ橋高等特別支援学校、横浜市立若葉台特別支援学校、又は川崎市立中央支援学校分教室の令和８年度入学者選抜の志願をしない者です。
志願相談	○　各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」を実施します。 ○　志願を予定している学校で志願相談を受けてください。 ○　在籍校をとおして申し込んでください。
志願方法	○　志願できる学校は１校です。 ○　志願先の学校に入学願書を提出します。（入学願書は指定した期間内に各特別支援学校で配付します。在籍校から案内があります。写真の貼付が必要です。） ○　志願調整期間中には、募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます。

選抜日程	○　志願相談受付期間：令和７年９月２日（火）～10月10日（金） ○　志願相談期間　　：令和７年９月５日（金）～10月17日（金） ○　願書配付期間　　：令和７年11月５日（水）～11月７日（金） ○　募集期間　　：令和７年11月17日（月）～11月19日（水） ○　志願調整期間　　：令和７年11月20日（木）・11月21日（金） ○　選抜日　　：令和７年12月４日（木） ○　選抜予備日　　：令和７年12月５日（金）～12月12日（金） のうち、各学校が指定する日 ○　合格発表日　　：令和７年12月11日（木）～12月15日（月） （合格通知発送日）
選抜内容及び選抜方法	○　選抜日に、(1)学力検査、(2)体力・運動能力の検査、(3)面接（本人及び保護者）、(4)その他校長が指定する内容を実施します。 ○　万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。（入学先が決まらなかった者は、一次募集（後期選抜）を志願してください。）
抽選を実施する場合の特例規定	○　基本的な考え方に基づき、より支援が必要な者ができるだけ指定地域の近くの学校で学ぶことを目的とするため特例規定を定めています。 ○　次に該当する受検者は、特例扱いとし、原則として抽選の対象とはなりません。 【特例規定】 別表の「指定地域」に居住する者若しくは「指定する施設」に入所している者又は入所が決まっている者のうち、療育手帳Ａ１、Ａ２及びＢ１の取得者。ただし、療育手帳Ｂ１の取得者は、療育手帳Ａ１、Ａ２及びＢ１の取得者の総数が募集人数に満たない場合に限り、特例規定に該当することとします。 ○　県立特別支援学校分教室の受検者には、特例規定は該当しません。 ○　ただし、小田原支援学校湯河原校舎については、本校と同じ扱いとします。

（２）一次募集（後期選抜）

選抜実施校	○　一次募集（前期選抜）終了後に公表します。
募集人数	○　一次募集（前期選抜）終了後に公表します。 ○　在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○　県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次の項目に該当する者です。 ○　一次募集（前期選抜）の志願資格のアからウの全てに該当する者です。 ○　県立の特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の令和８年度一次募集（前期選抜）を志願した者又は県内の市立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の令和８年度入学者選抜を志願した者のうち、合格になっていない者です。（志願したものの自ら受検しなかった者、合格を辞退した者を除きます。） ○　特別支援学校で実施する一次募集（後期選抜）に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。
志願相談	○　各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」を実施します。 ○　志願を予定している学校で志願相談を受けてください。

志願方法	○　志願できる学校は１校です。 ○　志願先の学校に入学願書を提出します。（入学願書は、志願相談終了後に、その場で配付します。写真の貼付が必要です。） ○　志願調整期間中には、募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます。
選抜日程	○　志願相談受付期間：令和７年12月18日（木）・12月19日（金） ○　志願相談期間　　：令和７年12月19日（金）～令和８年１月７日（水） ○　募集期間　　：令和８年１月８日（木）・１月９日（金） ○　志願調整期間　　：令和８年１月 13 日（火）・14 日(水) ○　選抜日　　：令和８年１月15日（木） ○　選抜予備日　　：令和８年１月16日（金）～１月23日（金）のうち、各学校が指定する日 ○　合格発表日　　：令和８年１月 22 日（木）～１月 26 日（月）（合格通知発送日）
選抜内容及び選抜方法	○　選抜日に、(1)学力検査、(2)体力・運動能力の検査、(3)面接（本人及び保護者)、(4)その他校長が指定する内容を実施します。 ○　万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。
抽選を実施する場合の特例規定	○　特例規定はありません。

（３）二次募集

選抜実施校	○　一次募集（後期選抜）終了後に公表します。
募集人数	○　一次募集（後期選抜）終了後に公表します。 ○　在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○　県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次の項目に該当する者です。 ○　一次募集（前期選抜）の志願資格のアからウの全てに該当する者です。 ○　国公私立の特別支援学校及び高等学校（高等専門学校を含む）の合格になっていない者です。（合格を辞退した者を除きます。） ○　特別支援学校で実施する二次募集に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。
志願相談	○　各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談)」を実施します。（なお、志願相談では一次募集（前期選抜）の志願資格のアからウについて確認をします。二次募集のその他の志願資格については募集期間に入学願書で確認します。） ○　志願する者は指定する学校で志願相談を受けてください。
志願方法	○　志願できる学校は１校です。 ○　志願先の学校に入学願書を提出します。（入学願書は、志願相談終了後に、その場で配付します。写真の貼付が必要です。）

選抜日程	○　志願相談受付期間：令和７年12月18日（木）・12月19日（金） ○　志願相談期間　　：令和７年12月19日（金）～令和８年１月７日（水） ○　募集期間　　：令和８年３月２日（月）・３月３日（火） ○　志願調整期間　　：令和８年３月４日（水） ○　選抜日　　：令和８年３月５日（木） ○　選抜予備日　　：令和８年３月６日（金）～３月 13 日（金） のうち、各学校が指定する日 ○　合格発表日　　：令和８年３月 12 日（木）～３月 16 日（月） （合格通知発送日）
選抜内容及び選抜方法	○　別途指定する内容を、選抜日に実施します。 ○　万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。
抽選を実施する場合の特例規定	○　特例規定はありません。

３　志願者数が募集人数を上回った場合の対応について

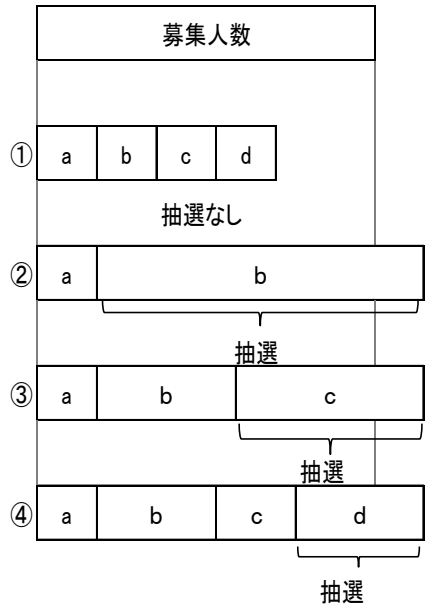
抽選の基本的な考え方

（１）県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜制度では、入学を希望する者で志願資格に該当する者は全員受け入れます。ただし、志願が一部に集中しないよう、在籍している学校と相談しながら、志願先の決定を支援していきます。この基本的な考え方から、各特別支援学校で募集人数を定めています。

（２）志願者数が募集人数を上回った場合に抽選を実施します。入学先が決まらなかった者は志願先を変更することになります。

（１）一次募集（前期選抜）

【県立特別支援学校本校及び県立小田原支援学校湯河原校舎の場合】



a　指定地域内の居住者で特例対象者のうち療育手帳A取得者

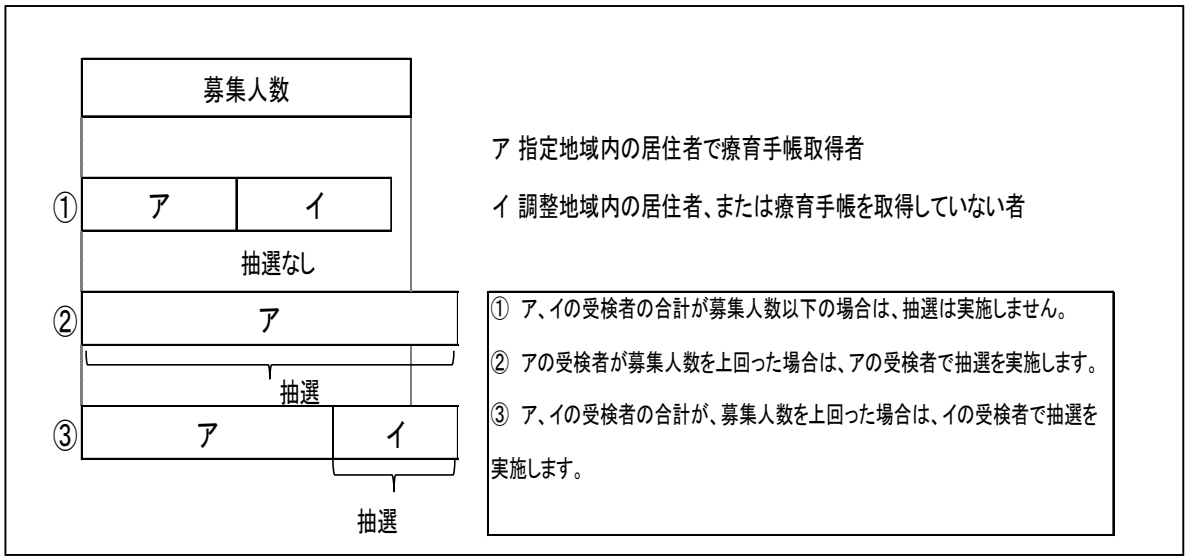
b　指定地域内の居住者で特例対象の者のうち療育手帳B1取得者

c　指定地域内の居住者で特例対象外の者のうち療育手帳B2取得者

d　指定地域内の居住者で、a、b、cに該当しない者、調整地域内の居住者

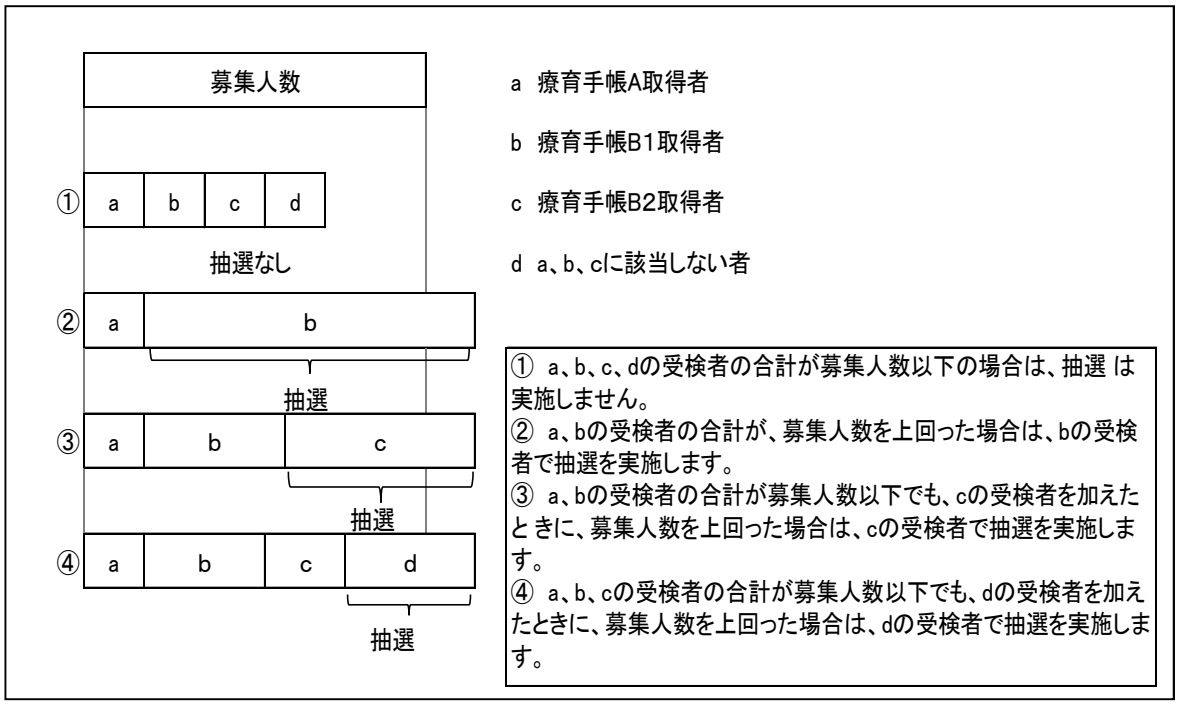
① a、b、c、dの受検者の合計が募集人数以下の場合は、抽選 は実施しません。
② a、bの受検者の合計が、募集人数を上回った場合は、bの受検者で抽選を実施します。
③ a、bの受検者の合計が募集人数以下でも、cの受検者を加えたときに、募集人数を上回った場合は、cの受検者で抽選を実施します。
④ a、b、cの受検者の合計が募集人数以下でも、dの受検者を加えたときに、募集人数を上回った場合は、dの受検者で抽選を実施します。

【県立特別支援学校分教室の場合】



（２）　一次募集（後期選抜）及び二次募集

【県立特別支援学校本校及び県立小田原支援学校湯河原校舎の場合】



【県立特別支援学校分教室の場合】

○　居住地域、所持手帳の等級に関係なく、志願者全員で抽選を実施します。

４　県立特別支援学校分教室について

県立高等学校内で教育活動を展開しています。特別支援学校本校とは施設設備等の教育環境が異なることから、次の２項目を条件とします。

①「集団活動中心の学習が可能であること（健康面・生活面で常時の配慮を必要としないこと）」 ②「自力通学が可能であること」

○　「集団活動中心の学習が可能であること（健康面・生活面で常時の配慮を必要としないこと）」、「自力通学が可能であること」の２項目を条件として「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」時に志願資格を確認させていただきます。

○　なお、給食がないので、昼食を用意していただきます。

５　その他

（１）選抜予備日以外の選抜日程は、土曜日、日曜日、祝日等の閉庁日を除きます。

（２）中学校又は特別支援学校中学部の既卒者の受検について

既に、中学校又は特別支援学校中学部を卒業した方で、県立特別支援学校の受検を希望する者は、特別支援教育課が相談窓口となります。状況により、希望に添えない場合があります。

別表

令和８年度　県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の指定地域等

学 校 名	教　室　名　等	指定地域及び指定する施設	調　整　地　域
鶴見支援学校	本　校	横浜市鶴見区、横浜市神奈川区、横浜市港北区、川崎市川崎区、川崎市幸区、川崎市中原区	「指定地域」以外の地域（注２）
	岸根分教室	横浜市、川崎市	
保土ケ谷支援学校	本　校	横浜市西区、横浜市中区、横浜市南区、横浜市港南区、横浜市保土ケ谷区、横浜市戸塚区、すみれ園	
	舞岡分教室	横浜市	
	横浜平沼分教室	横浜市、川崎市	
金沢支援学校	本　校	横浜市磯子区、横浜市金沢区、横須賀市（注１）、横浜訓盲院	
	横浜氷取沢分教室	横浜市	
みどり支援学校	本　校	横浜市神奈川区、横浜市旭区、横浜市港北区、横浜市緑区、横浜市都筑区、ぶどうの実	
	新栄分教室	横浜市、川崎市	
あおば支援学校		横浜市青葉区、横浜市都筑区、横浜市緑区、川崎市麻生区	
瀬谷支援学校	本　校	横浜市旭区、横浜市泉区、横浜市瀬谷区、大和市、ぽらいと・えき、くるみ学園	
	大和東分教室	横浜市、相模原市、藤沢市、大和市、綾瀬市	
	大和南分教室	横浜市、藤沢市、大和市、綾瀬市	
三ツ境支援学校	本　校	横浜市保土ケ谷区、横浜市旭区、横浜市泉区、横浜市西区、横浜市瀬谷区、大和市	
	横浜緑園分教室	横浜市、大和市、藤沢市	
横浜ひなたやま支援学校		横浜市戸塚区、横浜市泉区、横浜市瀬谷区、相模原市南区（注３）、藤沢市、大和市	
中原支援学校	本　校	横浜市鶴見区、横浜市港北区、川崎市幸区、川崎市中原区、川崎市高津区、川崎市中央療育センター	
	住吉分教室	横浜市、川崎市	
高津支援学校	本　校	横浜市港北区、横浜市都筑区、川崎市中原区川崎市高津区、川崎市宮前区、川崎市多摩区、川崎市麻生区	
	生田東分教室	横浜市、川崎市	
	川崎北分教室	横浜市、川崎市	
麻生支援学校	本　校	横浜市青葉区、横浜市都筑区、川崎市高津区、川崎市宮前区、川崎市多摩区、川崎市麻生区	
	元石川分教室	横浜市、川崎市	
津久井支援学校		相模原市緑区	
相模原支援学校	本　校	相模原市緑区、相模原市中央区、相模原市南区、厚木市、愛甲郡愛川町、相模はやぶさ学園	
	橋本分教室	相模原市、厚木市、座間市、愛甲郡愛川町	
相模原中央支援学校		相模原市中央区、相模原市南区の一部（注４）	

岩戸支援学校		横浜市金沢区、横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町、三浦しらとり園	「指定地域」以外の地域（注２）
武山支援学校	本　校	横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町、三浦しらとり園	
	津久井浜分教室	横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町	
平塚支援学校		平塚市、秦野市、中郡大磯町、中郡二宮町、精陽学園、子ども自立生活支援センター	
湘南支援学校		平塚市、小田原市、中郡大磯町、中郡二宮町、足柄上郡中井町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
鎌倉支援学校	本　校	横浜市港南区、横浜市戸塚区、横浜市栄区、横浜市磯子区、鎌倉市、藤沢市、逗子市	
	金井分教室	横浜市、鎌倉市、藤沢市、逗子市	
藤沢支援学校	本　校	横浜市泉区、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、高座郡寒川町	
	鎌倉分教室	鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市	
小田原支援学校	本　校	小田原市、南足柄市、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町、光海学園、わらべの杜	
	大井分教室	小田原市、南足柄市、中郡大磯町、中郡二宮町、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町、秦野市	
	湯河原校舎	足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
茅ケ崎支援学校		茅ヶ崎市、高座郡寒川町	
秦野支援学校		秦野市、平塚市、小田原市、南足柄市、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
伊勢原支援学校	本　校	厚木市、伊勢原市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村、平塚市、海老名市、七沢学園	
	伊志田分教室	平塚市、厚木市、伊勢原市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村	
えびな支援学校		厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、高座郡寒川町	
座間支援学校	本　校	相模原市中央区、相模原市南区、海老名市、座間市、綾瀬市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村、厚木市	
	有馬分教室	相模原市、茅ヶ崎市、厚木市、海老名市、座間市、綾瀬市、高座郡寒川町	
	相模向陽館分教室	相模原市、藤沢市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市	

※１　「指定地域」からの志願を原則とする。

※２　「指定する施設」に入所する者で他の本校や分教室を志願する者及び「指定する施設」を除く他の施設に入所する者については、その施設の所在地で地域を確認する。

※３　入学資格のある者が募集人数より多い場合は、抽選により入学者を決定する。

（注１）　横須賀線以北に居住している者に限る。

（注２）　通学時間や災害時の対応等を考慮して判断する。

（注３）　最寄駅が小田急江ノ島線の地域に居住している者に限る。

（注４）　相模原市中央区内に所在する中学校の通学区域に居住している者に限る。

４　神奈川県内の特別支援学校の紹介

	神奈川県立	ひらつかもうがっこう 平塚盲学校	

所在地：〒254-0047　平塚市追分 10－１

電　話：0463-31-0948

ＦＡＸ：0463-31-5996

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsuka-sb

創　立：明治 43 年４月９日（中郡盲人学校として）

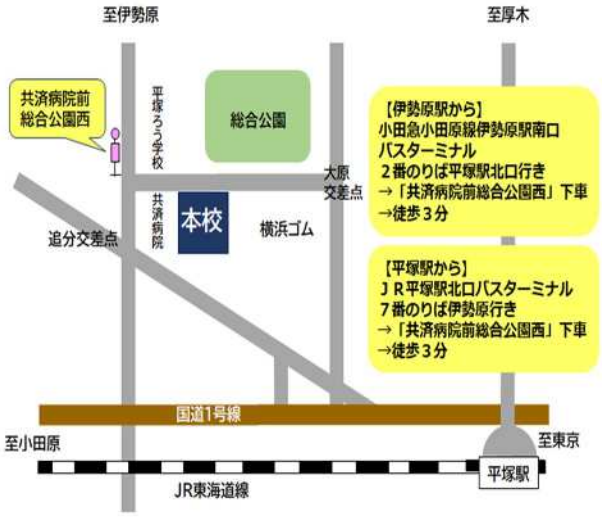
学　部：幼稚部・小学部・中学部

高等部（本科・専攻科）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
本　　科	3	2	7	12
専　攻　科	5	6	5	16

（生徒数については令和７年５月１日現在）



Ⅰ　学校の概略

本校は、明治 43 年、私立中郡盲人学校として開校し、後に神奈川県に移管され、令和７年で 115 周年を迎える歴史と伝統のある学校です。県のほぼ中央に位置しています。

道路を隔て、広さ 30．３ヘクタール、10 万本の木々が植えられた平塚総合公園、さらに湘南平や大磯高麗山等、豊富な自然環境に恵まれた学校です。

Ⅱ　教育の概要

本校は、県立唯一の視覚障害教育部門を単独設置した特別支援学校です。幼稚部から高等部までの幼児児童生徒への教育課程、高等部において、あん摩マッサージ・はり・きゅうの専門的な職業教育を行う課程があります。個々の教育的ニーズに応じた支援に基づく教育を実践しており、また、通学に困難のある児童生徒に対して通学を保障するため、寄宿舎を併設しています。

１　高等部　本科普通科、本科保健理療科

高等部本科には、高等学校に準じた教育を行う課程と、視覚以外の障害を併せ有する生徒の教育を行う課程のある本科普通科、高校の普通教科の学習に加えマッサージ等の勉強も同時におこなう本科保健理療科があります。本科保健理療科は、あん摩マッサージ指圧師の国家試験の受験資格が得られます。ともに、生徒一人ひとりの視覚の状況等に応じたきめ細かな指導を行っています。

２　高等部　専攻科理療科、専攻科保健理療科

高等部専攻科は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の課程である専攻科理療科、あん摩マッサージ指圧師の課程である専攻科保健理療科があります。学習の中心は、解剖学、生理学、病理学などの専門基礎科目と東洋医学、理療理論、臨床実習などの専門科目です。１年次、２年次の学習は専門基礎科目が中心となります。３年次の学習は専門科目、特に外来の患者さんの治療を行う臨床実習が中心となります。国家試験の受験資格を得られます。

	神奈川県立	ひらつかろうがっこう 平塚ろう学校	

所在地 ： 〒254-0074　平塚市大原２－１
電　話 ： 0463-32-0129
ＦＡＸ ： 0463-32-1646
ＵＲＬ ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsukarou-sd
創　立 ： 大正14年４月１日
学　部 ： 幼稚部・小学部・中学部・高等部

高等部生徒数（令和７年５月１日現在）

	１年	２年	３年	計
本　科	11	6	1	18
専攻科	0	0		0

＜　学校案内図　＞

●ＪＲ東海道線平塚駅北口より
・神奈中バス伊勢原駅南口行
共済病院前総合公園西(約10分)
・平塚盲学校前循環
平塚盲学校前（約10分）
下車 徒歩２分

●小田急線伊勢原駅南口より
・神奈中バス平塚駅行
共済病院前総合公園西(約30分)
下車 徒歩２分

本校は、幼稚部・小学部・中学部・高等部が設置されており、乳幼児期からの早期の相談・支援、幼稚部から高等部までの一貫した教育、高等部における専門教育を主とする学科、専攻科における特色ある職業教育を行っています。
早期から障害の状態を的確に把握して、聴力の活用、手話も含めた総合的なコミュニケーション手段を身につけ、自立心と協調性を養い、社会生活に適応できる力の育成をめざしています。その実現に向けて、保育や教科指導をはじめ、補聴システム・ICTなど様々な機器の活用、自立活動指導の充実を図っています。
高等部では、本科に普通科と総合デザイン科、情報ビジネス科、専攻科には総合生活デザイン科、情報応用ビジネス科、理容・美容科を設け、生徒の社会自立に必要な教育を行っています。

【　高等部学科紹介　】

〇本科（３年）

☆普通科　＜進学をめざしたカリキュラム＞
・確かな学力の定着を図り選択科目を取り入れ、個々の生徒の志望に合わせた学習を展開し大学等への進学を目指します。

☆総合デザイン科，情報ビジネス　＜社会自立に向けた職業教育を柱としたカリキュラム＞
・もの作りや情報処理の学習を通し、産業界に適応できる基本的知識や能力を育成します。
・普通教科との連携、指導方法の充実により豊かなコミュニケーション能力を育てます。
・社会参加への力と職業意識の育成を目指します。

〇専攻科（２年）

☆総合生活デザイン科，情報応用ビジネス科，理容・美容科　＜実際的な技能の習得を目指したカリキュラム＞
・各資格取得を目指し、積極的に指導・支援を行います。
・積極的な職場実習や職場開拓の推進など、進路指導の充実を図ります。
・円滑な人間関係を築き、自らの能力を発揮できる人材の育成を目指します。

【 本科・専攻科で取得可能な資格と受検可能な各種認定試験 】
ビジネス文書実務検定１～４級　情報処理検定１～３級
簿記実務検定１～３級　珠算電卓実務検定１～３級
被服検定１～４級
理容師・美容師国家試験受験資格（専攻科理容・美容課程）

	神奈川県立	つ る み し え ん が っ こ う 鶴 見 支 援 学 校	

所在地：〒230-0071　横浜市鶴見区駒岡四丁目 40 番１号

電　話：045-573-4787

ＦＡＸ：045-584-8502

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsurumi-sh/

創　立：昭和 55 年１月１日

学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	28	25	27	80

（生徒数は令和７年５月１日現在）

教　育　目　標

○明るく、元気で、生きる力を持った児童生徒の育成に努める。

・健康で明るい生活のために、基本的生活習慣を育てる。

・自ら学び、考え、行動する力を養う。

・人を思いやる心、感動する心など豊かな人間性を育てる。

高等部の教育目標

○「自分らしく豊かに生きる青年」の育成に努める。

・自ら選択し、自ら行動できる力を育てる。

・地域の人々と積極的に関わる力を養う。

・社会人として豊かに活動できる力を養う。

高等部日課表

曜日	月			火			水			木			金		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
9:00	着替え・個別課題														
9:20	HR														
9:35	体力作り			作業学習（途中休憩10分）			体力作り			体力作り			作業学習（途中休憩10分）		
10:05															
10:10	保健						保健			保健					
	休み時間						休み時間			休み時間					
10:15	課題別学習						課題別学習			課題別学習					
10:45	休み時間						休み時間			休み時間					
10:50	生活単元学習	音楽	保健体育				家庭	生活単元学習	生活単元学習	音楽	保健体育	美術			
11:50	配膳														
12:25	給食														
12:45	下膳														
13:00	余暇														
13:10	休み時間														
13:15	美術	生活単元学習	音楽	総合			LHR/委員会 13:40			保健体育	家庭	生活単元学習	生活単元学習	美術	家庭
							着替え・個別課題 13:45								
							HR								
14:15	清掃活動						下校１４：１０			清掃活動					
14:30	着替え・個別課題						（同好会）（１５：１０下校）			着替え・個別課題					
14:50	HR									HR					
	下校１５：１０									下校１５：１０					

＜学校案内図＞

神奈川県立

つるみしえんがっこうきしねぶんきょうしつ

鶴見支援学校岸根分教室

所在地：〒222-0034　横浜市港北区岸根町 370 番地
（県立岸根高等学校内）

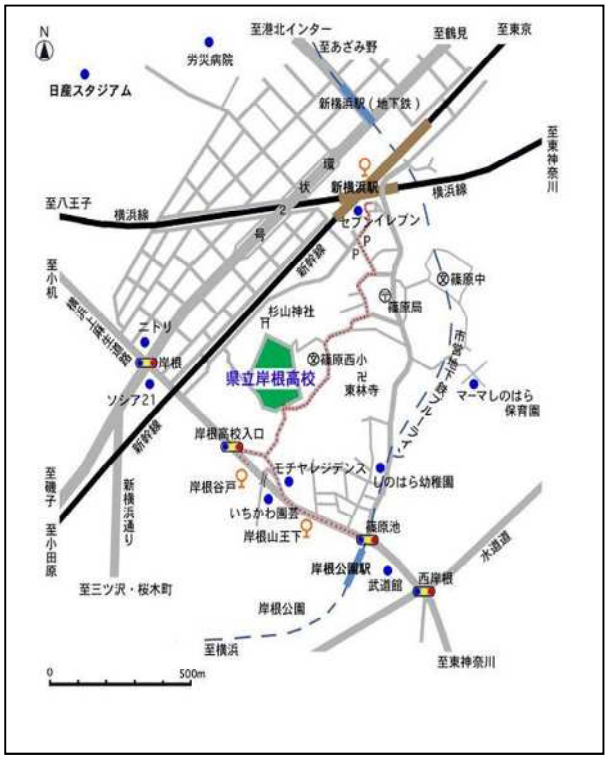
電　話：045-439-3050

ＦＡＸ：045-401-0138

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsurumi-sh/

設　置：平成 17 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）



＜分教室生徒数＞（生徒数は令和７年５月１日現在）

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	14	15	15	44

☆新横浜駅から　　徒歩　15 分
☆東神奈川駅から
　横浜市営バス 39 系　緑車庫・中山駅行で
　　岸根谷戸下車　徒歩 5 分
☆横浜駅（or あざみ野駅）から
　　横浜市営地下鉄（ブルーライン）
　　岸根公園駅下車　徒歩 10 分

高等部の教育目標

○ 豊かな社会生活を過ごすための力を育む。
・長所を伸ばし自己肯定感を育てる。
・経験を通し自己選択、自己決定、自己実現の力を養う。
・同年代との関わりから築かれる人間関係形成力を伸ばす。
○ 将来の社会的自立に向けた力を養う。
・社会的マナーを育成する。
・経験を通して社会的スキルを習得させる。
・卒業後の自分の生活についてのイメージを育てる。

分教室の学年目標

１年：自己選択「よく見て選ぶ」
２年：自己決定「自ら決めてチャレンジする」
３年：自己実現「将来を見つめ自覚を持つ」

＜岸根分教室の特色＞

岸根分教室では、１、２年生のインターンシップ（職場体験）や２、３年生の現場実習をはじめ、岸根高校や地域との交流を通して、多くの人とコミュニケーションを取る機会がたくさんあります。

＜分教室で学ぶこと＞

①いろいろなことにチャレンジし、できることを増やす。
②友だちと一緒に、充実した高校生活を送る。
③社会に出るための力をつける。

岸根分教室　　日課表

	月			火			水			木			金		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
8:50–9:10	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR
9:15–9:40 Ⅰ	保健体育（体つくり）			体つくり（職A班毎）			保健体育（体つくり）			保健体育（体つくり）			保健体育（体つくり）		
9:50–10:40 Ⅱ	国語			職業A			国語						保健体育		
10:50–11:25 Ⅲ	数学						美術	音楽	家庭	生活単元	生活単元	生活単元	国語		
11:30–12:00 Ⅳ	LHR												数学		
12:40	昼食事前指導														
12:50–13:25	昼食														
13:25–14:25 Ⅴ	家庭	美術	音楽	職業A			職業B			音楽	家庭	美術	総合学習	総合学習	総合学習
14:25							HR	HR	HR						
14:40	清掃			清掃			14:25下校			清掃			清掃		
14:55–15:15	HR	HR	HR	HR	HR	HR				HR	HR	HR	HR	HR	HR
	15：15下校									15：15下校					

神奈川県立

よこはまみなみしえんがっこう

横浜南支援学校

所在地：〒232-0066　横浜市南区六ツ川 2-138-4
（神奈川県立こども医療センター内）

電　話：045-712-4046　**ＦＡＸ**：045-742-9710

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-minami-sh/

創　立：昭和 52 年

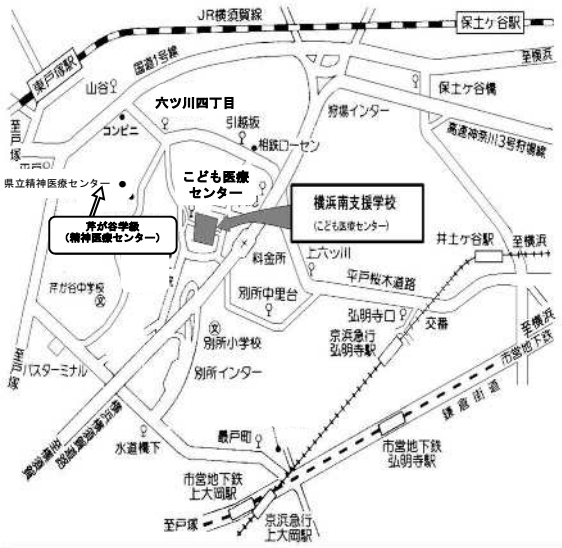
学　部：**・本　校**：小学部・中学部・高等部
（病弱教育部門）

・芹が谷学級：中学部（病弱教育部門）
〒233-0006　横浜市港南区芹が谷 2-5-1
（神奈川県立精神医療センター内）
電話/FAX　045-822-0266

高等部生徒数（生徒数は、令和７年５月１日現在）

	１年	２年	３年	計
病弱教育部門（重心施設訪問）	2	5	2	9

＜学校案内図＞



【利用交通機関】

●京急「弘明寺」駅よりバス。（こども医療センター経由）東戸塚駅東口行き、戸塚駅東口行き→こども医療センター下車。

●JR「東戸塚」駅よりバス。（こども医療センター経由）井土ヶ谷下町行き→こども医療センター下車。

本校は、県立こども医療センターに併置された病弱特別支援学校です。また、県立精神医療センターに訪問学級を設置しています。

（１）**本校の高等部は、県立こども医療センター内の「重症心身障害児施設」（愛称：ひだまり）に入所している生徒を対象としています。県立こども医療センターの「病棟」に入院・入所している方や、在宅の方は本校に在籍することはできません。**

（２）授業は、重症心身障害児施設内において重心部門として行っています。

（３）重心部門の学習のめあては、「健康の維持・増進をはかる」「感覚や身体機能の活性化をはかり、自発的な活動を引き出す」「人や社会と関わることで、人間関係の育成や心理的な安定をはかる」「個々に応じたコミュニケーション手段の拡大・向上をめざす」「ライフステージを見据えて、個々の豊かな生活をめざす」です。

（４）個々の実態や個別の指導計画に合わせて、集会や校外活動等も設定しています。

神奈川県立

ほどがやしえんがっこう

保土ケ谷支援学校

所在地：〒240-0026

横浜市保土ケ谷区権太坂１－８－１

電　話：045-714-0126

ＦＡＸ：045-742-9716

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hodogaya-sh/

創　立：昭和 51 年１月１日

学　部：小学部、中学部、高等部

（知的障害教育部門）

利用交通機関
●ＪＲ保土ケ谷駅東口からバス８分「権太坂」バス停下車徒歩７分
●ＪＲ東戸塚駅東口からバス 10 分「境木中学校前」バス停下車 徒歩 10 分

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門（本校）	37	28	32	97

（生徒数については令和７年５月１日現在）

１　学校教育目標

○児童生徒の主体的な行動を大切にし、協働的な学びと個別最適な学びの中で自立と社会参加の基礎となる力を育てる。

○センター的機能による地域への支援を充実させるとともに、地域と協働した取組を広げ、共生社会の実現を目指す。

○校内外の危機等に対し、学校関係者が安全で安心できる仕組みを構築する。

２　学部教育目標

①教科指導・職業教育等を通して基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、現代的な諸課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。

②道徳教育や体験活動等を通して、生徒の自己理解、他者理解を進め自分や相手を大切にできる人物を育てる。

③体育や健康に関する指導を通して、心身の健康の維持や社会生活に必要な知識や体力を身につけられるようにする。

④自立活動や教育活動全体を通して、自立と社会参加に必要な資質を養う。

３　令和６年度高等部（本校）卒業生の進路状況

（各人数）

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援Ａ	就労継続支援Ｂ	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
4	0	0	1	11	2	18	1	0	4	41

神奈川県立

ほどがやしえんがっこうまいおかぶんきょうしつ

保土ケ谷支援学校舞岡分教室

所在地：〒244－0814

横浜市戸塚区南舞岡３－36－１

（県立舞岡高等学校内）

電　話：045－823－9654

ＦＡＸ：045－825－5412

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hodogaya-sh/

開　設：平成16年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

舞岡分教室生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

（生徒数については令和７年５月１日現在）

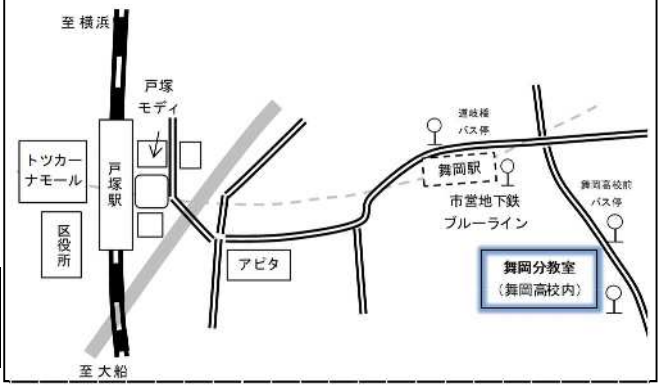
＜学校案内図＞

利用交通機関

●横浜市営地下鉄『舞岡駅』下車　徒歩15分

●JR 戸塚駅下車　東口８番乗り場　江ノ電バス「舞岡台循環」行

「舞岡高校前」バス停下車　（バス乗車は12分間程度）



舞岡分教室は、平成16年に神奈川県立舞岡高等学校内に開設されました。『生活する力』、『働く力』を教育課程の骨子に据え、学びの場を地域に求めて様々な学習を展開しています。

「職業」の授業や校内実習では近隣のスーパーや農園、事業所の協力を得ながら働く学習に取り組み、地域との関係が深められています。

＜校内実習＞

また、舞岡分教室の特色のひとつとして、「田んぼ」作業があります。近隣の舞岡公園の田んぼで、ボランティアスタッフの方々の指導を受けながら年間を通して米づくり（食育）の学習を行っています。

４月の田起こしに始まり、田植え、草取り、秋の収穫・脱穀までを行い、最後は１年間の苦労と収穫の喜びを感じながら収穫祭を行っています。豊かな自然の中で、普段味わうことのできない体験となっています。

＜田んぼ・稲刈り＞

分教室のある県立舞岡高等学校とは、体育祭、校内の緑化を推進する植樹整備、竹の宴（七夕行事）、桔梗祭（文化祭）などで「共生社会の実現」に向けて、舞岡高校生との交流を行っています。

＜舞高文化祭・製品販売＞

令和６年度高等部（舞岡分教室）卒業生の進路状況　（各人数）

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援Ａ	就労継続支援Ｂ	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
10	1	0	0	4	0	0	0	0	0	15

	神奈川県立	ほどがやしえんがっこうよこはまひらぬまぶんきょうしつ 保土ケ谷支援学校横浜平沼分教室	

所在地：〒220-0073
横浜市西区岡野１－５－８
（県立横浜平沼高等学校内）

電　話：045-328-2010

ＦＡＸ：045-328-2011

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hodogaya-sh/

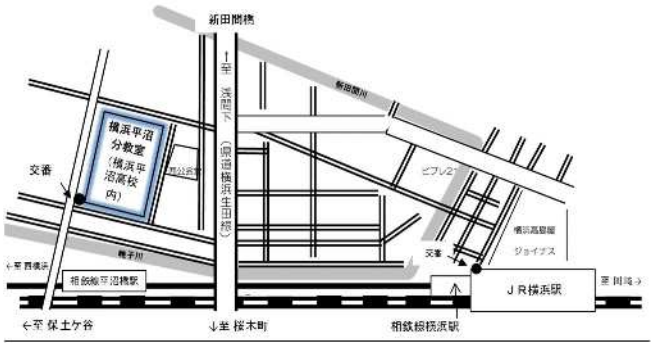
設　置：平成 22 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●横浜駅みなみ西口から徒歩 10 分
●相鉄線　平沼橋駅から徒歩３分



横浜平沼分教室は平成 22 年に保土ケ谷支援学校の２箇所目の分教室として神奈川県立横浜平沼高等学校内に開設されました。横浜平沼分教室は、横浜平沼高等学校及び近隣地域との関係を構築しながら、分教室の中だけでなく、より実践的な学習を展開していくことを目指しています。

『生活する力』、**『働く力』**を教育課程の骨子に据え、職業の授業では校内作業だけでなく、近隣の公園の清掃作業、花壇作り、高齢者介護施設での清掃作業など、学びの場を地域に求めて実践的な学習を展開しています。

【本分教室の特色】

○学校生活全般において礼儀や姿勢、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなど社会人になるために必要な生活習慣を３年間で身につけています。

○思春期を迎え、卒業後の生活にむけて、「心と体」という授業（身体面の変化、心理面の変化、適切なコミュニケーション）を学年ごとに段階を追って行っています。

これらを通して、自立と社会参加を目指し、働くため・社会人になるための準備をしていきます。

横浜平沼高等学校

教室

令和６年度高等部（横浜平沼分教室）卒業生の進路状況　（各人数）

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援Ａ	就労継続支援Ｂ	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
7	1	1	0	2	1	0	0	0	3	15

	神奈川県立	かなざわしえんがっこう 金沢支援学校	

所在地：〒236-0051　横浜市金沢区富岡東 2-6-1
電　話：045-770-0456（職員室）
ＦＡＸ：045-775-4121
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawa-sh
創　立：平成 19 年４月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
　　小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	35	31	28	94
肢体不自由教育部門	7	4	6	17

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

学校案内図

金沢支援学校(本校)までの行き方
- シーサイドライン**鳥浜駅**下車徒歩８分
- 京急**富岡駅**下車徒歩 25 分

徒歩順路 ┅┅┅▶

＜金沢支援学校の教育＞

1　特別支援学校として、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを受け止め、地域との協働を通して自立と社会参加の基礎となる生きる力を育むための教育を進めます。
2　個々の障害及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導の実践を目指します。
3　特別支援学校におけるセンター的機能を発揮し、支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた支援を行うとともに、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図れるよう支援します。

＜高等部の教育課程＞

神奈川県では「共に学び共に育つ教育」を推進しており、本校においても共生社会の実現に向けて推し進めております。自立と社会参加のために必要な力の育成を目指し、自分らしい生活のあり方を学び、実現する力、健康で安全な生活を送るための力、生活を豊かにするためのコミュニケーションの力など、生きる力を育むためのキャリア教育を推進しています。

＜令和６年度高等部の進路状況＞（知的障害教育部門 27 名、肢体不自由教育部門３名）

就職：１名　　福祉施設：28 名　　その他：１名　　計　30 名

	神奈川県立	かなざわしえんがっこうよこはまひとりざわぶんきょうしつ 金沢支援学校横浜氷取沢分教室	

所在地　〒235-0043
横浜市磯子区氷取沢町 938 番地の２
電 話　045-778-1065
ＦＡＸ 045-778-1066
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawa-sh/
設 置：平成 23 年４月１日
学 部：高等部（知的障害教育部門）
分教室生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

（生徒数については令和７年５月１日現在）

学校案内図

横浜氷取沢分教室までの行き方
●徒歩　京急「能見台駅」「京急富岡駅」より23分
●バス　京急「能見台駅」より「横浜氷取沢高校行き」終点「横浜氷取沢高校」下車徒歩１分
京急「金沢文庫駅」・JR「洋光台駅」より「下ヶ谷」下車徒歩５分

＜分教室の概要＞

金沢支援学校横浜氷取沢分教室は、平成 23 年より現横浜氷取沢高等学校内に開設され、今年度は男子 33 名、女子 12 名、計 45 名の生徒が学んでいます。施設は校舎１階に各学年のホームルーム教室と多目的室、職員室、保健室があり、グラウンドの一部も分教室として整備されています。その他、体育施設、音楽室、美術室、調理室といった特別教室を高校と調整しながら授業を行っています。登校は８時 50 分、下校は 15 時 10 分（水曜日 13 時 50 分）で 50 分授業を基本としています。

＜分教室の目指す教育活動＞

将来自立し、社会参加していけるよう、「生きる力」を身につけるための教育活動を行っています。

＜分教室と本校との連携＞

分教室の教育課程は、本校高等部の教育課程を基に編成し、主要な学校行事や学部・学年の行事に加え、進路支援・教育相談などについても本校と連携して取り組んでいます。

＜横浜氷取沢高等学校との連携＞

横浜氷取沢高等学校の体育祭や文化祭などに参加し、高校との交流を図っています。分教室の授業では授業内容に応じて高校の音楽室、調理実習室、体育館などを使用し、より実践的な学習ができる環境を整えています。高校の生徒と同様に図書室や購買部（売店）も利用できます。

＜令和６年度の進路状況＞

就職：６名　福祉施設：９名　その他：０名　　計 15 名

神奈川県立

みどりしえんがっこう
みどり支援学校

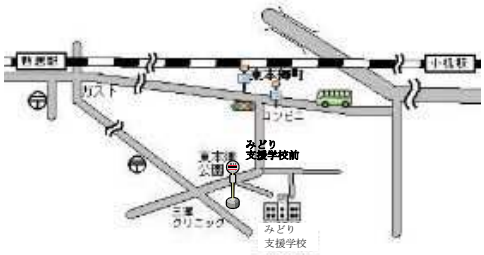
所在地：〒226-0002 横浜市緑区東本郷五丁目18番1号
電　話：045-471-7941
ＦＡＸ：045-474-4707
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/midori-sh
創　立：昭和53年４月
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部（本校）生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	19	27	24	70

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●ＪＲ横浜線　鴨居駅より徒歩20分
●ＪＲ横浜線　鴨居駅・小机駅より市営バス39系統
「東本郷町」下車　徒歩７分
鴨居駅より市営バス鴨居・東本郷線
「みどり支援学校前」下車　徒歩３分



本校には、緑区をはじめ、神奈川区、都筑区、港北区など、広範囲から生徒が通ってきています。

右下の日課表にある「作業」「選択活動」「体つくり運動」「生徒会・委員会活動」は３学年合同で学習しています。その他の教科等については、学年やグループ単位で学習しています。「生活単元」では、主に行事の事前・事後学習や、心と体について、働くことについて、消費者教育についてなど、卒業後の生活に必要な内容を学習しています。また、「みどり防災デー」として全校で防災学習に取り組んでおり、災害に適切に対応する力を育むため、安全な行動の仕方や防災時のきまりの大切さなどついて学んでいます。

【主な行事（予定）】

５月　３年修学旅行
６月　３年現場・校内実習
　　２年現場体験・校内実習
　　２年進路校外学習　　１年遠足
７月　模擬投票
９月　２年宿泊学習
　　みどり防災デー
10月　３年現場・校内実習
　　２年現場体験・校内実習
　　１年校内実習　　１年進路校外学習
11月　学習発表会
１月　３年卒業遠足
２月　生徒会役員選挙
３月　高等部卒業式

《参考：１年生の日課表》

	月	火	水	木	金
1	ＨＲ				
	体つくり運動	作業	体つくり運動		
2	課題別学習※1		課題別学習※1		
3	生活単元		音楽	生活単元	美術
4					
5	家庭	作業	ＬＨＲ※2	体育	選択活動
6			ＨＲ		
7	清掃ＨＲ	ＨＲ		清掃ＨＲ	

※１「課題別学習」＝国語・数学・自立活動
※２ 月に１回「生徒会・委員会活動」

神奈川県立

みどりしえんがっこうしんえいぶんきょうしつ

みどり支援学校新栄分教室

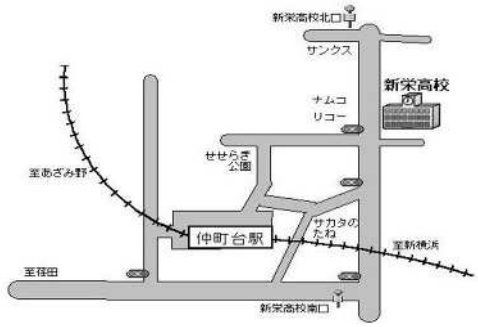
所在地：〒224-0035 横浜市都筑区新栄町１番１号
（県立新栄高等学校内）
電　話：（０４５）５９１－６４４３
ＦＡＸ：（０４５）５９１－６４７２
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/midori-sh（本校）
設　置：平成16年４月
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部（分教室）生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	13	15	13	41

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●横浜市営地下鉄　仲町台駅より徒歩 10 分
●東急東横線　綱島駅より東急バス勝田折返所行き
「新栄高校北口」下車　徒歩 10 分



平成16年度に高等部の分教室が新栄高校内に設置されました。神奈川県内の特別支援学校の高等部として初めて設置された分教室です。今年度で22年目となりました。

分教室では、校内の学習活動にとどまらず、広く地域社会の中で共に成長できる教育を目指しています。そのため、地域資源を積極的に活用し、定期的に地区センター、図書館、事業所等で授業を展開し、職業教育の充実を図っています。キャリア教育では、自己理解や他者理解をはじめ、心と体について、働くことについて、消費者教育や政治参加教育についてなど、卒業後の生活に必要な内容を学習しています。

《参考：**１年生の日課表**》

	月	火	水	木	金
1	HR・体つくり運動				
2	音楽	作業	数学	国語	理科/社会
3	国語	作業	家庭	情報	美術
4	数学	作業	家庭	情報	美術
5	職業	作業	保健体育	総合	LHR/道徳
6	清掃・HR		保健体育	清掃・HR	清掃・HR

授業は、日課表の波線つきのものが全学年合同、そうでないものは基本的に学年別で行います。各学年のつながりを大切にしながら、主体的・対話的な学びに取り組んでいます。

入学式などの行事には、本校と一緒に参加します。修学旅行も本校３年生と合同で実施します。また、新栄高校と体育祭や文化祭を通じて交流をしています。

神奈川県立

あおばしえんがっこう

あおば支援学校

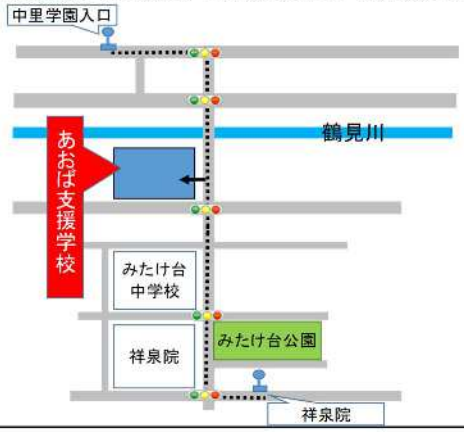
所在地：〒227-0041　横浜市青葉区上谷本町 109 番地
電　話：045-978-1161
ＦＡＸ：045-978-1160
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/aoba-sh/
創　立：令和元（2019）年 11 月 1 日（条例設置）
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
　　小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	4	1	1	6
知的障害教育部門	26	26	33	85

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●東急田園都市線 藤が丘駅又は青葉台駅下車、バス（青 01）「祥泉院」下車　徒歩 10 分
●東急田園都市線 市が尾駅下車、バス（柿 23、市 43、青 27）又は小田急線 柿生駅下車、バス（柿 23）「中里学園入口」下車 徒歩 10 分



◆基本理念＜コンセプト＞
思いを紡ぐ　優しいあおば

◆使命＜ミッション＞
・一人ひとりの確かな学びを支える
・地域とともに歩み、地域に貢献する

◆教育目標
・自立と社会参加のために、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行い、生きる力を育てる
・地域とともに学校づくりを推進し、地域に貢献する教育活動を創造する

	月	火	水	木	金
1	HR				
2	体つくり	作業	体つくり	作業	体つくり
3	体育	作業	音楽	作業	美術
4	国語・数学	国語・数学	LHR①	国語・数学	生活
5	生活	作業	LHR②	作業	生活
6	探Q！	作業		職業	生活
7	HR			HR	

高等部肢体不自由教育部門1年生の日課表

	月	火	水	木	金
1	HR				
2	体育	作業	体つくり	作業	体つくり
3	体育	作業	音楽	作業	美術
4	情報／国語・数学	作業	情報／国語・数学	作業	美術 清掃
5	社会・理科	作業	国語・数学	作業	家庭
6	探Q！	作業		職業	LHR
7	HR			HR	

高等部知的障害教育部門1年生の日課表

◆高等部で育みたい力

学びに向かう力　学びを生かす力
（挑む）新たなことに挑戦し、社会生活に活用する力を育む
（つなげる）積み重ねた学びをもとに地域社会の中で学び続ける力を育む

人やものと関わる力
（築く）自分や相手を大切にし、より良い関係を築く力を育む
（支えあう）社会とのかかわり方と自らの役割を考え、地域の中で支えあう力を育む

自分の心と体に向き合う力
（整える）自分の心と体の状態と上手に付き合い、調整する力を育む
（切り拓く）より良い社会の実現のために、自分の心や体、個性を発信する力を育む

高等部の標準服

◆高等部の教育と進路指導について
本校では、生徒がこれまでに身に付けてきた力や、本人・保護者の気持ちを大切にしつつ、上記の「高等部で育みたい力」をつけることを目標とした学習活動を進めます。進路については、単に進路先を決めるだけでなく、そこで働き続けることや地域でより充実した生活を送ることに注目し、それを実現するための教育（移行支援教育）を行います。
そして、生徒が学校で育んだ力をもとに、地域での自立した生活と地域貢献を実現することを目指します。

神奈川県立

せやしえんがっこう

瀬谷支援学校

所在地：〒246-0005 横浜市瀬谷区竹村町 28-1

電　話：045-302-1617

ＦＡＸ：045-304-2950

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh/

創　立：昭和 46(1971)年１月１日

学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

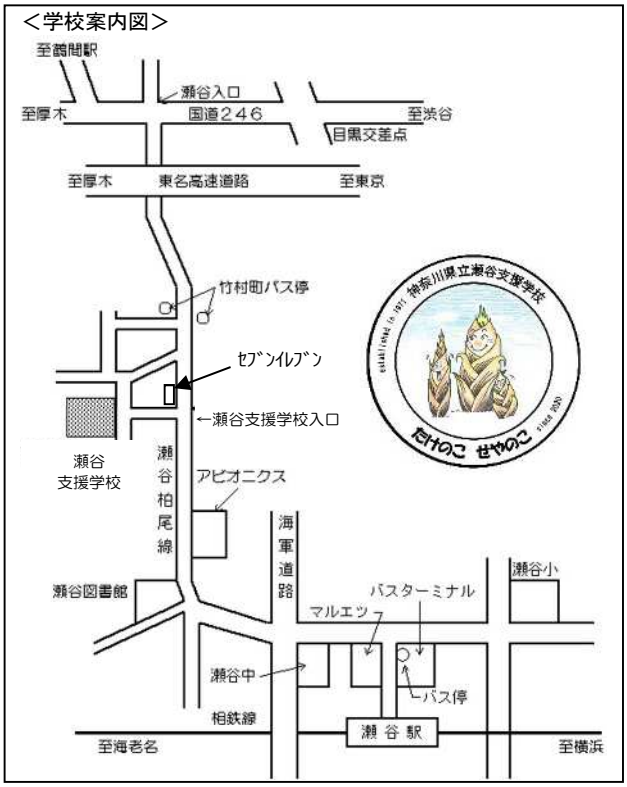
高等部生徒数　*本校

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	36	26	31	93

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

利用交通機関

●相鉄線瀬谷駅北口より
　神奈川中央交通バス「鶴間駅行」「八幡神社行」「マークスプリングス行」乗車「竹村町バス停（所要時間約10分）」下車　徒歩５分



自立と社会参加に向けて、３年間を見通した系統的・継続的な指導を行っています。

・社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につけ、地域での生活を楽しめる人

・ルールやマナーを意識して好ましい人間関係を築ける人

・働くことへの意欲や意識を高め、積極的に物事に取り組める人

・主体的に学び、考え、自立に向けて自己選択、自己決定できる人

を目指し、自立に向けた学習、生活を豊かにする学習を設定し、学年全体、グループ別、個別など学習内容に応じた人数編成をしています。また、年齢にふさわしい行動や人との関わりができるように生活指導も重視しています。

【作業学習】木工・手工芸・農園芸・紙工・ﾘｻｲｸﾙ・ｸﾘｰﾝｻｰﾋﾞｽの六つの班があり、３学年縦割りの集団で行います。

【部活動】月に一度、水曜に活動しています。サッカー・陸上バスケ・ダンス・ウォーキング・和太鼓・アートなどがあります。

【進路指導】本人の適性や保護者の意向を大事にし、一人ひとりに適した進路が選択できるように努めます。

大事にしたいこと・・・わかる授業と仲間づくり

	月	火	水	木	金
9:00-9:30	ホームルーム				
9:30-10:10	体力つくり				
10:10-10:50	1年 国語・数学・自立活動 2年 家庭 3年 体育	作業学習	社会生活／総合 1年 体育 2年 ホームルーム 3年 ホームルーム	1年 美術 2年 国語・数学・自立活動 3年 家庭	1年 家庭 2年 音楽 3年 美術
11:00-11:40	1年 国語・数学・自立活動 2年 家庭 3年 音楽	作業学習	社会生活／総合	1年 美術 2年 国語・数学・自立活動 3年 家庭	1年 家庭 2年 体育 3年 美術
11:40-12:00	日常生活の指導（配膳指導）				
12:00-12:20	給　食				
12:20-13:00	日常生活の指導（片つけ・歯磨き指導）				
13:00-13:40	1年 体育 2年 音楽 3年 国語・数学・自立活動	作業学習	1年 ホームルーム 2年 ホームルーム 3年 ホームルーム	1年 音楽 2年 美術 3年 国語・数学・自立活動	1年 国語・数学・自立活動 2年 国語・数学・自立活動 3年 音楽
13:50-14:30	ホームルーム 14:10	作業学習	ホームルーム 14:10	1年 体育 2年 美術 3年 国語・数学・自立活動	1年 音楽 2年 ホームルーム 3年 体育
14:30-15:10		ホームルーム 15:10		ホームルーム 15:10	15:10

	神奈川県立	せやしえんがっこうやまとひがしぶんきょうしつ 瀬谷支援学校大和東分教室	

所在地:〒242-0011 神奈川県大和市深見 1760

電　話:046-264-2061

ＦＡＸ:046-264-2062

ＵＲＬ:https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh

設　置:平成 17 年 4 月 1 日

（本校　昭和 46 年１月１日　創立）

学　部:高等部（知的障害教育部門）

分教室生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	9	12	36

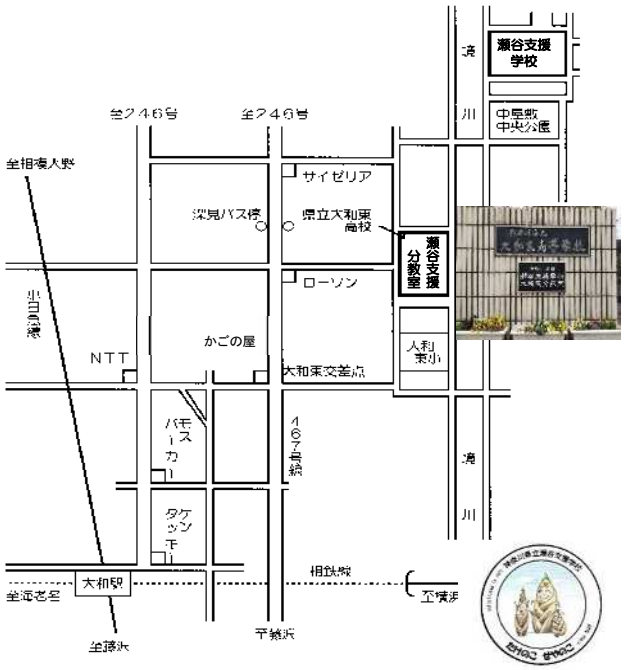
（生徒数については、令和7年5月1日現在）

利用交通機関

●相鉄線・小田急線大和駅より徒歩 20 分

●大和駅より神奈川中央交通バス「一の関経由鶴間駅行」乗車「深見バス停（所要時間約５分）」下車 徒歩 10 分

＜学校案内図＞



県立大和東高校（本校から川を渡って大和方面に 10 分ほど歩いた所）の１階に分教室はあります。各学年１クラスで、ほとんどの教科学習は学年ごとに行っていますが、学年縦割りや全学年での授業もあります。各授業の内容は、将来の生活を充実させるために必要な知識や技能を身につける学習とあわせて、「自分のことを知る」「自分のことを自分で決める」「自分に自信をもつ」「仲間を大切にする」ことを大切にした学習や行事などを設定しています。

学校周辺は、自然や様々な施設に恵まれ、体力つくりで境川のサイクリングロードで走ったり、職業の時間で定期的に会社や施設、畑などで作業したりしています。また、「選択」という授業を設定しています。生徒が自分の課題を考えてグループを選び、目標を決めて取り組んでいます。部活動はバスケットボール部・アート部が活動しています。

【 交流 】

本校、他の分教室との交流として、本校の作業班バザーに参加しています。音楽発表会やサッカー大会を大和南分教室と一緒に実施しています。持久走大会は、大和南分教室や県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室と合同で開催しています。

また、大和東高校との交流として、高校の文化祭（東翼際）に参加しています。

【 進路指導 】

進路指導については、個々の生徒に応じた卒業後の生活の準備に向け、取り組んでいきます。職業の時間には、近隣の企業等への体験実習も積極的に取り入れています。

	神奈川県立	せやしえんがっこうやまとみなみぶんきょうしつ 瀬谷支援学校大和南分教室	

所在地：〒242-0014　大和市上和田 2577

電　話：046-279-6577

ＦＡＸ：046-279-6578

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh

設　置：平成 24 年 4 月 1 日

（本校　昭和 46 年 1 月 1 日　創立）

学　部：高等部（知的障害教育部門）

分教室生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	8	5	11	24

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

利用交通機関

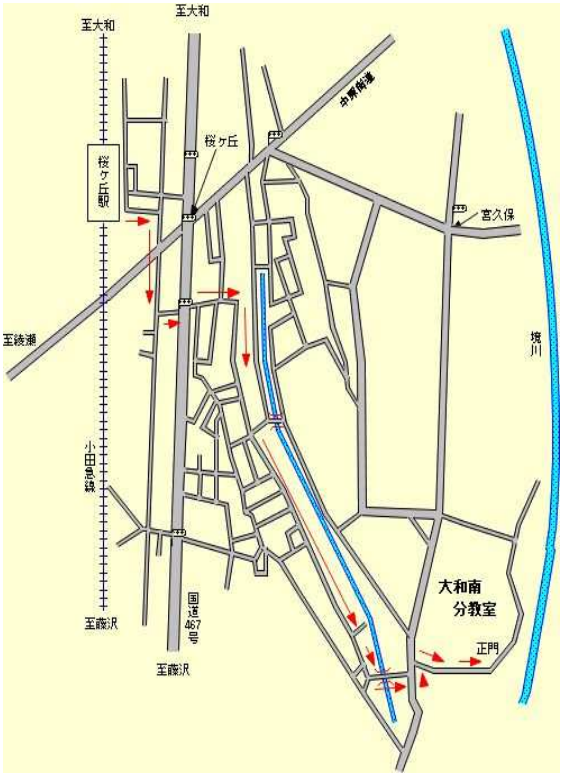
●小田急江ノ島線「桜ヶ丘駅」下車、徒歩 25 分

●神奈中バス「上和田団地バス停」下車、徒歩８分

●やまとん号「大和南高校停留所」下車、徒歩３分

●神奈中バス「ひなた山第一バス停」下車、徒歩 25 分

＜学校案内図＞



大和南分教室は県立大和南高校内にある分教室です。各学年１クラスで、ほとんどの授業は学年ごと行いますが、教科や活動によっては学年縦割りグループ、分教室全学年で学習する場合もあります。

大和南分教室の特色は、仲間と協力して活動に取り組み、その成果を発表する機会が多いことです。授業「選択」では、生徒自身が参加したい授業を選び、仲間たちと活動した成果を学期末ごとに発表しています。

また、将来の生活を充実したものにするために、生徒自身が「自分に自信を持つ」「自分の考えをしっかり伝えられる」「自分のことを自分で決める」「仲間と協力する喜びを知る」ことを目指し、日々の教育活動を行っています。

【 交流 】

本校、他の分教室との交流として、音楽発表会やサッカー大会を大和東分教室と一緒に実施しています。持久走大会は、大和東分教室や県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室と合同で開催しています。

また、大和南高校との交流として、高校の文化祭（南翔祭）に参加しています。

【 進路指導 】

卒業後の進路について「自分で考え、自分で選び、自分で決める」ことができる進路指導を心がけています。また、進路面談では意向をしっかり聞き取るなど、生徒や家庭に寄り添いながら進めています。

神奈川県立

三ツ境支援学校（みつきょうしえんがっこう）

所在地：〒 246-0021　横浜市瀬谷区二ツ橋町 468

電　話：045-365-3711

ＦＡＸ：045-361-9695

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/mitsukyo-sh

創　立：昭和 46 年 1 月 1 日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

小学部･中学部･高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

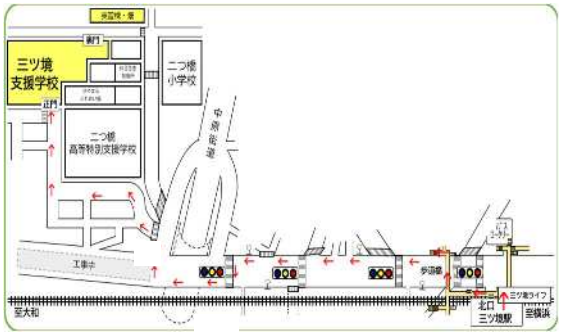
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	50	40	44	134
肢体不自由教育部門	2	2	11	15

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関：相鉄線三ツ境駅下車

●相鉄線三ツ境駅より、徒歩約 15 分です。



本校の教育目標

自ら学び、表現する力を育てる

（１）心身の健康を大切にできる　（２）自分の意見・気持ちを表現できる

（３）他の人と調和できる　（４）社会とつながり、参加できる

＜中庭の桜＞

高等部の内容

肢体不自由教育部門では、生徒の発達段階に合わせて、社会に関心をもち、自己理解を深めて社会に巣立っていくよう指導しています。各教科の指導のほか、自立活動では、健康の保持、心理的安定、感覚の活用、着脱・食事・排泄の日常生活動作の指導、コミュニケーションの指導などを行っています。

また、活動の仕方や学習環境を工夫していくことで、生徒たちが主体的に学校生活を送ることができるよう支援しています。

知的障害教育部門では、特別支援学校中学部や中学校における教育の成果をふまえて、将来、社会参加に必要な基礎的知識や技能の向上を図っています。また、作業学習や学校行事を通して、自立した社会生活や職業生活に必要な知識、技能、態度などの指導をしています。さらに、校内や校外での実習を通じて、実際に働く体験を学習活動の中で行っています。学部・学年集団での活動を通して、生徒一人ひとりが自ら学び、成長できるよう支援しています。

	神奈川県立	みつきょうしえんがっこうよこはまりょくえんぶんきょうしつ 三ツ境支援学校横浜緑園分教室	

所在地：〒245-0003　横浜市泉区岡津町2667
県立横浜緑園高等学校内

電　話：045-811-5231

ＦＡＸ：045-811-5232

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/mitsukyo-sh

設　置：平成21年４月１日（瀬谷西高等学校に設置）
令和５年４月１日（横浜緑園高等学校に移転）

学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	8	13	13	34

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関：相鉄いずみ野線緑園都市駅下車

●相鉄いずみ野線緑園都市駅より、徒歩約15分です。

●横浜緑園分教室は、県立横浜緑園高等学校の南棟１階にあります。

本校の教育目標

自ら学び、表現する力を育てる

分教室の教育目標

（１）心身の健康への関心を高め、自ら生活習慣を調整する
（２）自己の考えや感情を主体的に発信する
（３）他者の考えを尊重し、認め合う
（４）自立に向け、働くことへの意欲を醸成する

＜正　門＞

分 教 室 の 内 容

分教室では、卒後の就労を一つの目標とし、自立と社会参加する力を育てます。「職業体験」の授業では、近隣企業や公共施設等の協力をいただき、実際に働く体験を学習活動の中で行っています。「作業」では３学年を数グループに分けた縦割りで、１日を通して作業を続ける力を育てます。各教科の授業は、学年別、３学年合同等、教科によって様々な形態で行っています。水曜日の放課後は月２回程度、分教室内で部活動を行っています。文化部ではイラスト描画や制作、運動部では主に走ったり、卓球等の球技の練習をしたりしています。

＜分教室多目的グラウンド＞

神奈川県立

よこはまひなたやましえんがっこう

横浜ひなたやま支援学校

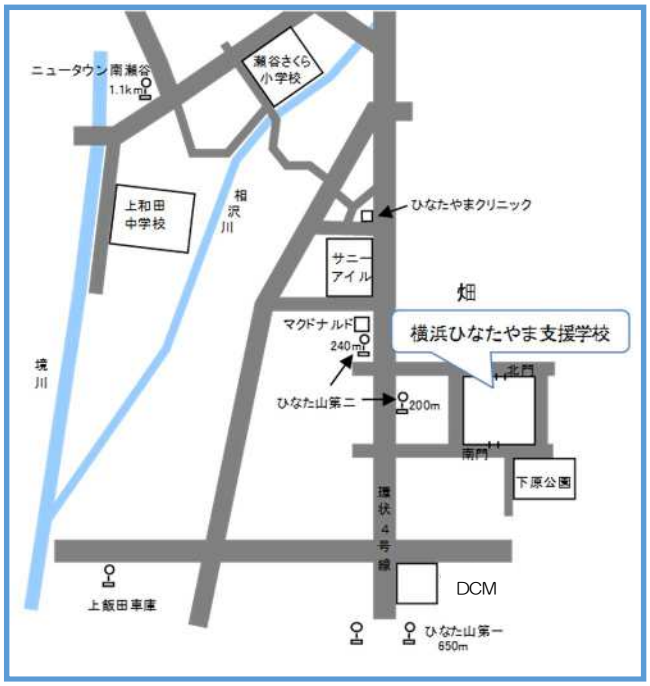
所在地：〒 246-0034　横浜市瀬谷区南瀬谷 2-20
電　話：(045)300-5611
ＦＡＸ：(045)303-2330
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-hinatayama-sh/
創　立：平成 25 年４月１日
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	40	42	43	125

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜アクセス＞
① 立場駅・いずみ野駅より：神奈中バス「瀬谷駅南口」行または「下瀬谷」行に乗車し、「ひなた山第２」バス停下車徒歩３分
※上飯田車庫行に乗車した場合は、「ひなた山第一」下車徒歩9分
② 瀬谷駅より：神奈中バス「立場ターミナル」行に乗車し、「ひなた山第２」バス停下車徒歩３分
③ 大和駅より：相鉄バス「ニュータウン南瀬谷」行に乗車し、「ニュータウン南瀬谷」下車徒歩15分



＜基本理念＞
自己実現※1する人を学校と家庭と地域で支え、育む

※１　自己の可能性を最大限に発揮して、地域社会で幸福に生きること。

○ 豊かな人間関係をつくり、深め、広げる

生徒が他者と協働することの楽しさを実感したり、仲間と協力して物事を達成する喜びを共有したりし、豊かな人間関係の形成を目指します。
「コミュニケーション」の授業では、集団の中で他者と協調することや、他者を尊重しながら自分を表現し、よりよい人間関係をつくることを学びます。

○ 学校生活から社会生活へのソフトランディング

体験的・実践的な授業を重視し、地域の人的・物的資源を活用した学習を展開することで、社会人として必要な責任感、使命感のある姿勢・態度を育てます。

○ 判断する力の育成、余暇活用スキル、社会活動スキルの充実

「チャレンジ」の授業では、いくつかの内容から選んで活動する時間を設定します。余暇活用スキル、社会活動スキル、選ぶ・考える力を伸ばします。

○ 面談および教育相談の充実

面談をとおして本人の意思を聞く機会を設け、「今の自分」「なりたい自分」を自分で感じ、考えられることを大事にします。また、１年生全員に教育相談する場を設定し、気持ちを伝えたり、困っていることを話したり、「相談する力」を身に付けることができるように支援します。

(例)※R7年度1年生時間割

時間	月	火	水	木	金
8:55 － 9:05	日常生活の指導				
9:05 － 9:15	HR				
9:15 － 9:25	日常生活の指導				
9:25 － 9:45	課題別学習				作業
9:45 － 9:50	休憩時間	課題別学習	休憩時間		
9:50 － 10:15	体力づくり		体力づくり	体力づくり	
10:15 － 10:25	休憩時間				
10:25 － 11:10	体育	社会生活／美術	チャレンジ	家庭生活	
11:10 － 11:20	休憩時間				
11:20 － 12:05	国語	社会生活／美術	数学	家庭生活	
12:05 － 12:20	日常生活の指導				
12:20 － 13:00	給食・昼休み				
13:00 － 13:05	日常生活の指導				
13:05 － 13:50	コミュニケーション／職業	美術／社会生活	日常生活の指導/生徒会	音楽／体育	作業
13:50 － 14:00	休憩時間		日常生活の指導	休憩時間	
14:00 － 14:45	音楽	美術／社会生活	HR 14:15下校（部活）	LHR	
14:45 － 15:00	日常生活の指導			日常生活の指導	
15:00 － 15:10	HR	HR		HR	HR

	神奈川県立	な　か　は　ら　し　え　ん　が　っ　こ　う 中　原　支　援　学　校	

所在地：〒211-0035　川崎市中原区井田３-13-１

電　話：044-755-1632㈹

ＦＡＸ：044-752-7786

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/nakahara-sh

創　立：昭和 49 年１月１日

学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
　　高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	31	32	26	89
肢体不自由教育部門	12	9	7	28

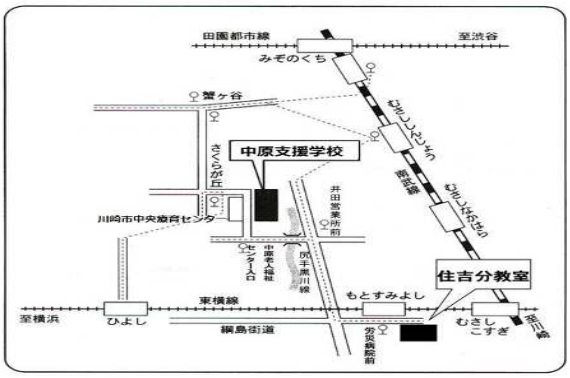
（生徒数については、令和7年5月1日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●東急東横線日吉駅よりバス　さくらが丘行き
　さくらが丘（終点）下車　徒歩５分

●ＪＲ南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝の口駅よりバス　蟹ヶ谷行き　蟹ヶ谷（終点）下車
　徒歩 15 分



神奈川県立中原支援学校は、川崎市中原区に位置し、肢体不自由教育部門と知的障害教育部門（平成 15 年度より高等部のみ設置）の知肢併置校です。平成 21 年度より住吉高等学校に分教室を開設しました。通学地域は、主に川崎市南部・中部方面と横浜市の東部地域の広範囲にわたっています。小、中、高、分教室合わせて、現在 203 名の児童生徒が在籍し、内５名の児童生徒が訪問による指導を受けています。

高等部Ａ【肢体不自由教育部門】

・個に応じた集団教育
　肢体不自由教育と重度重複障害教育への対応。51 年の歴史は川崎市では本校のみ。
・カリキュラム
　自立活動を主とする授業及び教科学習授業を設定。
・過去の主な進路先
　福祉施設（生活介護、就労継続Ｂ、地域活動支援センター）、職業・生活訓練施設

高等部Ｂ【知的障害教育部門】

・生徒の自主性を引き出し、小集団のメリットを生かす教育課程。「作業学習」、「職業」等を設定。
・目指すは、充実感のある楽しい学校生活、卒業後を見通した学校生活。
・過去の主な進路先　一般企業　特例子会社　福祉施設（生活介護、就労継続ＡＢ、就労移行、地域活動支援センター）、職業訓練施設等

学校教育目標

自ら考え、自分らしく生きる人を育てる

豊かに…自立して、心豊かに生きる人を育てる
伝える…自分の気持ちを表現する力を育てる
広げる…地域の中でよりよく生きる力を育てる

学校のめざす姿

誰一人取り残さない、「ともに生きる社会」づくりに地域とともに貢献する学校

〈めざす学校像〉
楽しい学校・安全な学校・安心な学校・信頼される学校

◎校章の由来

校名の頭文字「中」を図案化し、児童生徒の自立しようとする姿勢を表しています。「丈夫に生きようたのしもう」「豊かに生きようほおえもう」「仲良く生きよう働こう」という開校時の三つの学校教育目標を、もろ手をさしのべて立ち上がる子どもたちの姿に表しています。

	神奈川県立	なかはらしえんがっこうすみよしぶんきょうしつ 中原支援学校住吉分教室	

所在地：〒211-0021　川崎市中原区木月住吉町 34-1
（県立住吉高等学校内）

電　話：044-430-1016

ＦＡＸ：044-430-1017

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/nakahara-sh

設　置：平成 21 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

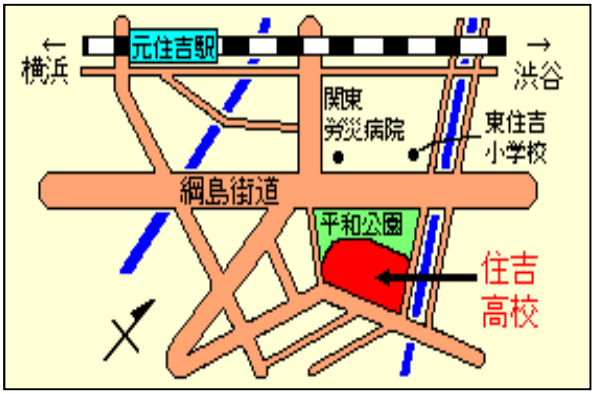
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	6	15	14	35

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●東急東横線 元住吉駅　下車 徒歩８分
●ＪＲ南武線　東急東横線　武蔵小杉駅　下車 徒歩 15 分
●ＪＲ南武線　平間駅　下車 徒歩 15 分



学校教育目標

自ら考え、自分らしく生きる人を育てる

豊かに…自立して、心豊かに生きる人を育てる
伝える…自分の気持ちを表現する力を育てる
広げる…地域の中でよりよく生きる力を育てる

学校のめざす姿

誰一人取り残さない、「ともに生きる社会」づくりに地域とともに貢献する学校

〈めざす学校像〉

楽しい学校・安全な学校・安心な学校・信頼される学校

住吉分教室の教育目標

1　自ら健康・体力の維持増進に努められるように促す
2　様々な情報をもとに自己選択・自己決定する力を育てる
3　自分の気持ちを伝えながら集団の中で協調して過ごせるようにする
4　自己肯定感を育て、何事にも意欲的に取り組めるようにする
5　地域社会と関わりながら自分らしく生活していく力を育てる

就労を目標に、授業や日常の指導の中で、「社会の中の様々な枠組み（人間関係、コミュニケーション、時間、場所、状況等）の理解」、「基本的な生活習慣の定着、自分の得意、不得意を理解し、不得意な部分は得意な部分で補う、支援を受ける、ツールを活用する力を育てる」ことを目指しています。

●住吉高校との交流

住吉高校文化祭への出店や体育祭の一部種目への参加をしています。

●高校・近隣の資源活用

住吉高校の協力により特別教室・施設（体育館、音楽室、コンピュータ教室、調理室、図書室等）を使用し授業を行っています。高校の施設を利用することで、幅広い活動につながっています。

また住吉高校の隣にある中原平和公園内周回路で朝のランニング（運動）を行い、職業Ⅰ（作業学習）では、中原平和公園内だけでなく、東住吉小学校へも出かけ、清掃活動を行っています。

	神奈川県立	たかつしえんがっこう 高津支援学校	

所在地：〒213-0035 川崎市高津区向ヶ丘 16
電　話：０４４－８６５－０４７７（学校代表）
　　０４４－８６５－０４１４（高等部直通）
ＦＡＸ：０４４－８７７－２６２６
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh
創　立：昭和 52 年１月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

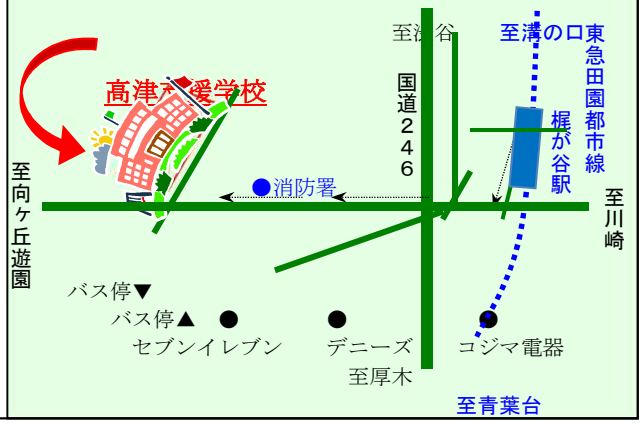
	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	20	19	16	55

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●東急田園都市線「梶が谷駅」徒歩 15 分
●小田急小田原線「向ヶ丘遊園駅」より梶が谷駅行きバス 20 分「向丘南原」バス停下車すぐ



☆小・中学部が開校した翌昭和 53 年に高等部が開設されました。
今年度入学した 20 名は、48 期生となります。

「よりよく豊かに生きる力」を育むために

① 豊かな青年期をつくる学習

各授業「よりよく豊かに自分らしく生きる力」を育むことをめざし、個に視点を置きながら、課題に応じた様々な学習集団で学習をすすめます。

② 卒業後の社会参加を見据えた取り組み

作業学習 作業を通して挨拶、報告、連絡、相談等のコミュニケーション手段を獲得し、集中力や持続力を育成し、働く意欲、姿勢、態度を培い、生きる力と働く力を育むことを目的に、１～３年がクリーン班、木工班、手工芸班、紙工班の４班に分かれて学習します。

校内実習 １年で１回、２年・３年で２回「働く学習」の中で１～３週間の作業体験を校内で実施します。
現場実習 一般就労を希望している生徒は２年の１学期にグループで３～５日間、３学期に１週間、福祉事業所を希望している生徒は３学期に半日～１日の体験実習があります。３年では全員が福祉施設や事業所（企業）等で進路先を見据えた実習を行います。１、２年では卒業後をイメージするために施設や企業等の見学学習、３年ではグループホームの見学も行います。

余暇や暮らし 卒業後につながる余暇や自分の暮らしを豊かにする学習について、生活単元学習や総合的な探究の時間等で取り組みます。
部活動 特別支援学校体育連盟主催の大会（ティーボール）を目指して練習しています。運動能力・競技能力の向上を図るのが目的です。

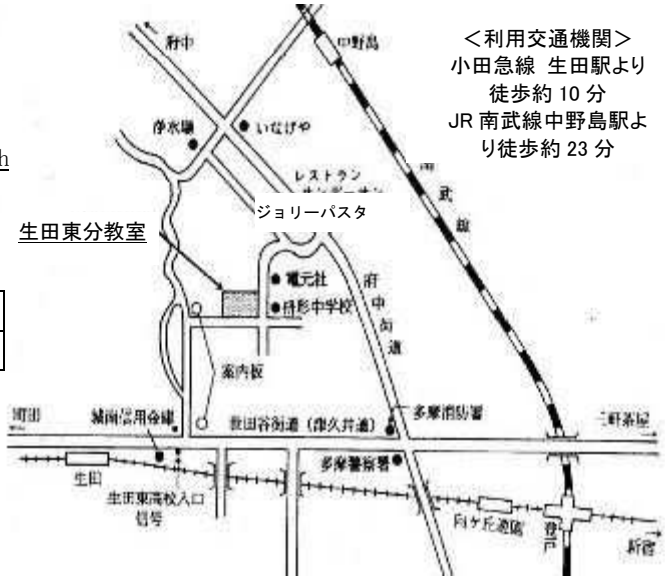
	神奈川県立	たかつしえんがっこういくたひがしぶんきょうしつ 高津支援学校生田東分教室	

所在地：〒214-0038 川崎市多摩区生田４丁目 32-1
（県立生田東高等学校内）
電　話：０４４－９３１－１０２０（FAX 共通）
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh
設　置：平成 22 年４月１日
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	15	14	44

（生徒数については令和７年５月１日現在）



高津支援学校生田東分教室は、平成 22 年４月１日に設置されました。
今年度入学した 15 名は、16 期生となります。

＜分教室の指導目標＞

・自己肯定感・自己表現力、他者と関わる力をはぐくみ、豊かな学校生活・社会生活につなげます。
・職業観を育成し、地域で生き生きと働く生活の実現を目指します。
・地域や生田東高校との交流を通して、幅広い活動を図るとともに、生徒への理解と支援の深化を目指します。

○生活に直結した授業

・社会生活に必要な知識や技術を身につけるために基礎的な教科指導を行います。
※分教室は一斉授業が中心です。

○体験・実習中心の授業

・様々な体験学習や実習を通して、興味関心を広げ、社会のルールやマナー、働く喜びを学びます。
・実習の積み重ねにより、働くことへ意識を高め、個々の適性を生かせる進路を考えていきます。

○コミュニケーション能力の育成

・話し合いや発表を行い、自分の考えを伝える力、他者の意見を尊重する力、様々な意見をまとめる力を育てます。
・音楽、美術、体育や国語などの表現活動を通して、自己表現力や他者と協同する力を養います。

○自己選択・自己決定力の育成

・個別教育計画の作成に当たっては、本人・保護者を交えて協議し、本人が自覚して目標達成に向けて活動できるように指導します。
・自己の個性や能力を踏まえて将来を思い描き、自分で進路を選択できる力を育てます。

	神奈川県立	たかつしえんがっこうかわさききたぶんきょうしつ 高津支援学校川崎北分教室	

所在地：〒216-0003 川崎市宮前区有馬３－22－１
（県立川崎北高等学校内）

電　話：０４４－８７０－１０４０

ＦＡＸ：０４４－８７０－１０４１

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh

設　置：平成 23 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	12	12	13	37

（生徒数については令和７年５月１日現在）

高津支援学校川崎北分教室は、平成 23 年４月１日に設置されました。
今年度入学した 12 名は、15 期生となります。

＜分教室の指導目標＞

・自分を知り自己を表現する力、他者を知り人とやり取りする力（コミュニケーション力）を育み、社会の中で一人の人間として、豊かに自分らしく生きる力を身につける。
・職業観を育成し、自分の生き方について主体的に考える力を養い、社会でいきいきと働く生活の実現を目指す。
・地域や川崎北高校との交流及び共同学習を通じ、より良く豊かに生きる力を育む。

○コミュニケーション能力の育成

・話し合いや発表の時間を通して、聞く・話す力、自分の考えを伝えるとともに他者の意見を尊重してまとめる力を育てていきます。
・学校生活全般において、自分で考えて物事を解決する機会を設定し、自己表現力や仲間と協同する力を養います。

○卒業後の社会生活を見すえた取り組み

・社会生活を送る上で必要な力を身につけることを目指した教科学習を行います。また、インターンシップなどの職業体験学習をはじめ、さまざまな体験学習を通じて興味関心を広げるとともに、マナーやルールについて実践的に学びます。

○自己選択・自己決定力の育成

・個別教育計画の作成にあたっては、生徒本人・保護者・担任で協議する機会を持ち、生徒自身が自分の課題に気づき目標達成に向けて活動することができるように指導します。
・自己の個性・能力を踏まえて将来を思い描き、自分で進路を考えることができるように指導します。

○楽しむ力を育てる学習

・芸術やスポーツ等、自分にとっての楽しみを見つけるなど、余暇活動の広がりを目指した学習を考えています。

神奈川県立

あ さ お し え ん が っ こ う

麻 生 支 援 学 校

所在地 ：〒215-0013
川崎市麻生区王禅寺 303－１

電　話 ：044-980-4855

ＦＡＸ ：044-986-2517

ＵＲＬ ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/asao-sh

創　立 ：平成 17 年 11 月 1 日

学　部 ：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	25	23	29	77
肢体不自由教育部門	7	4	5	16

※肢体不自由教育部門３年に１名訪問を含む

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

＜利用交通機関＞
●小田急線　柿生駅　南口下車　川崎市バス　溝口駅南口・鷲ヶ峰営業所行　東急バス　たまプラーザ駅・すすき野団地行バス所要約 10 分「琴平下」下車徒歩２分
●田園都市線　横浜市営地下鉄線　あざみ野駅西口下車　東急バス　すすき野団地・虹ヶ丘営業所行　バス所要約 15 分「虹ヶ丘小学校」下車徒歩５分

■本校の特色

高等部のコースにおける授業の一環として校内の清掃活動、近隣校外の清掃活動等、環境美化活動に例年取り組んでおり、いつもきれいな学校であることを心がけています。また、地域支援センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた支援も行っています。

■教育目標

○ 児童・生徒一人ひとりが「わかった」「できた」を実感できる授業の実践・研究の推進

○ 児童生徒一人ひとりが「自分を大切にする力」「他者を思いやる力」「社会とかかわる力」を育成する児童生徒指導・支援の実践

○ 児童・生徒一人ひとりの障害の状態、発達の段階に応じた進路指導・支援の実践

○ 児童・生徒一人ひとりが日々の学習で得た成果を地域に向けて発信し、培った力を地域社会に貢献する等、地域との協働を実践する取組の推進

■教育目標実現の手だて

高等部では教育目標を実現し、生徒が自信を持って明るい未来に一歩踏み出せるように、教育的ニーズに応じて、コース別の授業も行っています。

ワークコース：一人ひとりがより良く生きる力を育て、
ニーズに応じて自己実現に必要な力をつけることをめざす。

アートコース：表現活動を通して、主体的に行動することや、
社会参加に向けた力をつけることをめざす。

王禅寺虹子さん　ジョンくん　柿生あさおさん

	神奈川県立	あさおしえんがっこうもといしかわぶんきょうしつ 麻生支援学校元石川分教室	

所在地：〒225-0004
横浜市青葉区元石川町 4116 番地
（県立元石川高等学校内）

電　話：045-905-0037
ＦＡＸ：045-905-0038
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/asao-sh
設　置：平成 21 年４月
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門 （分教室）	10	11	11	32

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●あざみ野駅から：バス５番乗り場
「あざみ野ガーデンズ経由
たまプラーザ駅行き」乗車
「元石川高校」バス停下車　徒歩１分

●たまプラーザ駅から：バス５番乗り場
「元石川高校経由
あざみ野ガーデンズ循環」乗車
「元石川高校」バス停下車　徒歩１分

●新百合ヶ丘駅から：小田急バスまたは東急バス
「あざみ野駅行」乗車
「あざみ野ガーデンズ」下車徒歩約 15 分

元石川分教室では麻生支援学校の教育目標のもとに、「働く喜びを知る」「社会で暮らす、生きる、貢献する」「豊かに学ぶ」の３つを教育の柱とし、将来の就労実現に向けた指導、支援に重点をおいた教育活動を行います。

【元石川分教室　教育目標】

（１） 基本的な生活習慣、健全な生活態度を身につけ、心身の健康を保持増進する力を育てる。
（２） 社会で生きる基礎となる知識と課題解決力を培い、主体的に学習する態度を育てる。
（３） 企業就労・職業自立に必要な知識、技能、態度を習得し、活用する力を育てる。
（４） 豊かに暮らし、自ら社会に参加、活躍、貢献できる力を育てる。

神奈川県立

津久井支援学校（つくいしえんがっこう）

所在地：〒252-0175 相模原市緑区若柳 44 番地

電　話：042-684-4860

ＦＡＸ：042-684-4861

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsukui-sh

創　立：平成 15 年 11 月 1 日

学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	14	15	44
肢体不自由教育部門	1	1	1	3

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

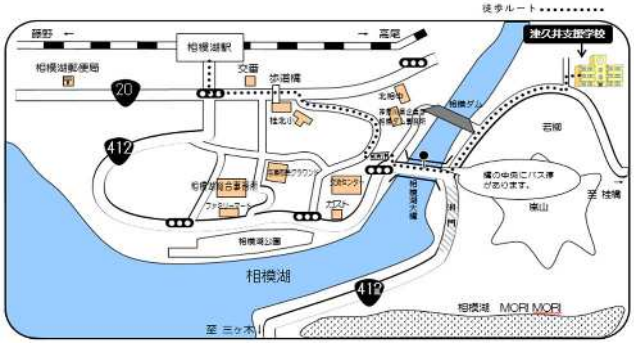
利用交通機関

●JR 中央線「相模湖駅」から徒歩 22 分

●「相模湖駅」から神奈中バス利用の場合は「三ヶ木」行き「相模湖大橋」下車　徒歩 10 分

●橋本、城山、津久井方面からは「三ヶ木」乗換「相模湖駅」行き「相模湖大橋」下車　徒歩 10 分

※千木良経由のバスは「相模湖大橋」を通りません。



◇学校教育目標

・「社会とかかわる力」「思いやる力」「たくましく生きる力」の育成

・自立と社会参加をめざし、小中高の一貫した教育の実践

・専門性の高い教育活動の実践・研究・発信

・地域の学校等へのセンター的機能による組織的なコンサルテーションの推進

◇高等部の教育目標

・卒業後の家庭生活・社会生活に向けた「生活力」を育てる

・集団のルールやマナーを身につけ、豊かなコミュニケーション力を育てる

・社会人として自立し、豊かな人生を育むことのできる意欲・態度を育てる

◇施設の概要

① 施設規模等：敷地面積 約 4,400 ㎡　延床面積 約 3,700 ㎡　　鉄筋コンクリート３階建

② 教室等：普通教室、自立活動室、パソコン室、プレイルーム、音楽室兼視聴覚室、木工室、環境整備室、調理実習室、縫製室、保健室兼ケアルーム、食堂、教育相談室、進路相談室

③ 体育施設等：体育館、室内温水プール、グラウンド

◇スクールバスの運行

児童・生徒の登下校のためにスクールバスを城山、二本松方面、鳥屋方面に計３コースで運行しています。

	神奈川県立	さがみはらしえんがっこう 相模原支援学校	

所在地：〒252-0336 相模原市南区当麻814番地
電　話：042-778-0331
ＦＡＸ：042-778-4957
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamihara-sh
創　立：昭和50年
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

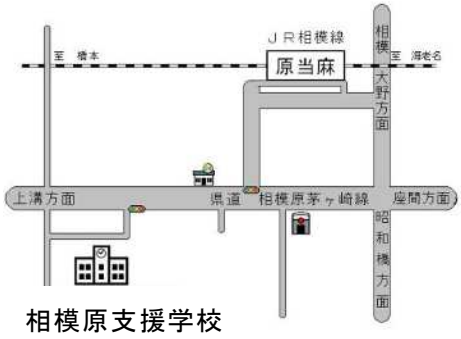
高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	32	36	37	105

（生徒数については令和７年５月１日現在）

〈学校案内図〉

ＪＲ相模線原当麻駅下車、徒歩７分



本校高等部の教育活動

(1) 日常生活の学習
身辺の自立を含め、自主・自立の力を育てます。また、さまざまな集団活動を通して心身の調和の取れた発達を促します。

⑵ 教科別指導　（国数/情報、音楽、美術、保健体育）
生活に必要な力や豊かな情操を養います。国数/情報は課題別のグループで学習します。

⑶ 社会生活・進路
将来、より自立した生活をするための力を育て、社会人としての意識を高めます。

⑷ 家庭
日常生活に必要な実践的な力を育てます。必要に応じて課題別グループで学習します。

⑸ 職業
働く意欲や態度、能力を高め、社会人として必要な力を育てます。学部全体を縦割りグループにして行います。

⑹体験実習
１年では事業所や福祉施設で一日体験実習や校内実習を行い、２年・３年では校内や企業等産業現場での実習を行います。

⑺ 宿泊学習（２年）、修学旅行（３年）
２年は１泊の宿泊学習を行います。３年は２泊の修学旅行を行います。

⑻ 部活動「放課後運動部」
月２回程度活動します。分教室と一緒に活動する日もあります。

令和7年度　相模原支援学校　本校高等部　日課表

	月			火			水			木			金		
校時	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
8:55	日常生活の学習（更衣・身支度・係活動）														
①	ＨＲ														
9:50	体力づくり												職業		
10:00 ② 10:50	音楽	進路	国数/情報	進路	国数/情報	国数/情報	国数/情報	国数/情報	音楽	国数/情報	音楽	国数/情報	職業		
10:55 ③ ④ 12:05	家庭	体育	美術	美術	家庭	音楽 清掃	体育	美術	社会生活	社会生活	社会生活	家庭	職業		
12:20	日常生活の学習（給食準備）														
12:35	給　食														
12:50	日常生活の学習（片付け・歯磨き）														
	余暇活動														
13:15 ⑤ 14:05	LHR/学部活動		国数/情報	音楽	体育		日常生活の学習（更衣・身支度・係活動） 帰りの会 13:40下校			音楽	国数/情報	進路	職業		
	清掃									清掃					
⑥	日常生活の学習（更衣・身支度・係活動）									日常生活の学習（更衣・身支度・係活動）					
15:00 下校	帰りの会									帰りの会					

	神奈川県立	さがみはらしえんがっこうはしもとぶんきょうしつ 相模原支援学校橋本分教室	

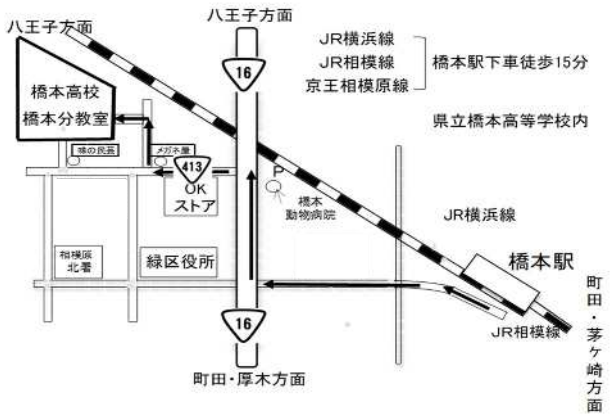
所在地　：〒252-0143
相模原市緑区橋本８－８－１
（県立橋本高等学校内）
電　話　：042-700-1621
ＦＡＸ　：042-774-0870
ＵＲＬ　：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamihara-sh
設　置　：平成18年
学　部　：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	12	13	15	40

（生徒数については令和７年５月１日現在）

分教室までの道順



相模原支援学校橋本分教室の教育活動

⑴　相模原支援学校高等部の教育活動をもとに自立と社会参加を目指します。橋本駅から徒歩 15 分という立地を生かし、橋本高校をはじめ地域の事業所等との連携・協力を図りながら教育活動を行います。

⑵　基本的な生活習慣を身につけ、卒業後社会に出て必要となる基礎的な知識の獲得や体験を重視した教育課程を編成しています。

⑶　授業の形態は一斉授業が中心になりますが、個別教育計画に基づき、一人ひとりの指導目標や指導内容を明確にし、授業の工夫を行いながら取り組んでいます。

⑷　自立と社会参加に向けての体力づくりとして、15 分間走や柔軟運動、敏捷性や瞬発力等を養う運動に重点的に取り組んでいます。

⑸　働くために必要なことについて、様々な授業や職業体験（毎週金曜日職業の授業で７つのグループに分かれて作業活動）、校内・現場実習、進路面談や外部講師による講話等の機会を通して学びます。進路指導については、個々の生徒の実態に応じ、卒業後の生活にむけた進路指導を行います。

⑹　交流･共同学習として、本校高等部との合同部活動や橋本高等学校の文化祭等への参加、近隣の大学との音楽や美術、体育の授業を通した交流等を行っています。

⑺　部活動を週に１回、放課後に体育館でバスケットボールやグラウンドでティーボールや陸上、サッカー、教室で美術等の活動を行っています。
本校と一緒に活動し、大会に参加する場合もあります。

令和7年度　相模原支援学校　橋本分教室　日課表

		月	火	水	木	金
1	8：50 9：10	ホームルーム				
	9：45	体力づくり				職業
休憩	9：50					
2	10：35	総合／進路	1年 保健 2年 国語／情報 3年 数学／情報	音楽	家庭	職業
休憩	10：40					
3	11：25	1年 国語／情報 2年 数学／情報 3年 社会／理科	1年 国語／情報 2年 数学／情報 3年 保健	美術	家庭	職業
休憩	11：30					
4	12：15	1年 社会／理科 2年 国語／情報 3年 数学／情報	1年 数学／情報 2年 保健 3年 国語／情報	美術	社会／理科	職業
	12：30	昼食				
休憩	12：40	休憩				
	13：00	余暇活動				
5	13：45	音楽	体育	総合／進路	総合／進路	職業
休憩	13：50			ホームルーム		
6	14：35	1年 数学／情報 2年 社会／理科 3年 国語／数学	体育	14:00	LHR	職業
	15：00	清掃 ホームルーム	ホームルーム		清掃 ホームルーム	ホームルーム

	神奈川県立	さがみはらちゅうおうしえんがっこう 相模原中央支援学校	

所在地：〒252-0221　相模原市中央区高根１－５－36
電　話：042-768-8510
ＦＡＸ：042-768-8519
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamiharachuo-sh/

創　立：平成 23 年４月１日
学　部：幼稚部・小学部・中学部（視覚障害教育部門）
幼稚部・小学部・中学部（聴覚障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	39	30	34	103
肢体不自由教育部門	7	10	7	24

※肢体不自由教育部門２年１名、３年１名は訪問
（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●JR横浜線「淵野辺」駅南口より徒歩14分
バス(淵53、淵34、淵35) 乗車時間2分
「淵野辺十字路」バス停下車後、徒歩5分
●JR 相模線「上溝」駅よりバス(淵 53) 乗車時間 10 分「淵野辺十字路」バス停下車後、徒歩５分
●小田急線「相模大野」駅北口よりバス(相02系統)
乗車時間20分「宇宙科学研究本部」バス停下車後、徒歩5分

本校の基本理念（コンセプト）:「子どもの未来をみんなで創る」
障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが地域で育ち、地域で生きる人であると考え、その子どもたちの未来を、子ども本人を含め、保護者はもちろんのこと、学校の教職員、地域の関係者や関係機関等、みんなで力を合わせて創る学校です。

本校の使命（ミッション）
・本校に在籍する子どもが地域で育ち、地域で生きるために、子どもたち個々の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための支援を行います。
・地域の方と一緒に、障がいのある人もない人も共に暮らす社会づくりをすすめます。
・四つの教育部門の豊かな専門性を生かし、各学校や関係機関との相互のネットワークの中心として、地域の多様な学びの場における支援体制整備に取り組みます。

本校の基本方針（ポリシー）
・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由の各教育部門がそれぞれの専門性を高め、連携しながら、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の実現に取り組みます。特に高等部においては、作業や職業に関する教科等に関連した「コース制」を導入し、自立と社会参加を目指して一人ひとりの「自分らしく生きること」を支援します。
・すべての子どもたちが地域で生活する人であると考え、保護者（家庭）や地域の幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校等それぞれの場と連携しながら、地域で一貫したキャリア教育の実践をすすめます。
・子ども一人ひとりの学びや育ちを地域で支えるために、地域を支援するセンター的機能を高め、保護者や地域の関係機関に向け、ニーズに応じた支援の充実を図ります。
・本校の特徴である４学部４部門の学部部門をこえた「交流及び共同学習」を大切にし、校内のミニ共生社会づくりをすすめるとともに、地域の共生社会づくりに貢献できる子どもを育てます。
・施設開放や福祉避難所等の仕組みづくりや、本校幼児児童生徒が地域の方と一緒に教育活動を展開することを通じて、地域に開かれた学校、地域に貢献できる教育活動の展開を目指します。

	神奈川県立	い わ と し え ん が っ こ う 岩 戸 支 援 学 校	

所在地：〒239-0844　横須賀市岩戸５丁目６番５号

電　話：046-839-4500

ＦＡＸ：046-849-3200

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/iwato-sh

創　立：平成22年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

　　高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	30	50	37	117
肢体不自由教育部門	1	5	5	11

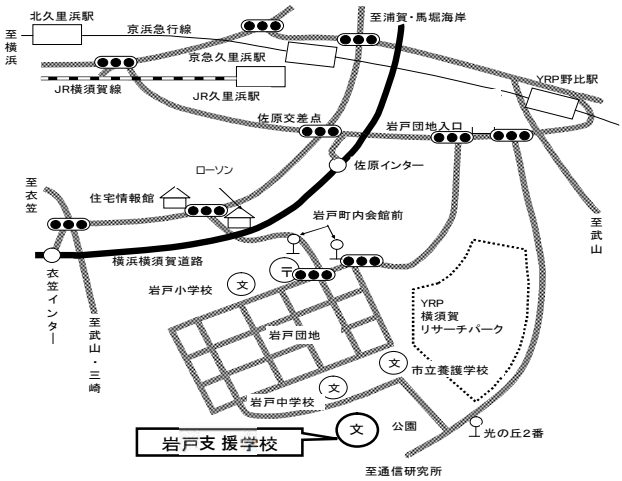
（生徒数については、令和7年5月1日現在）

＜学校案内図＞　利用交通機関

●京浜急行 YRP 野比駅より YRP ｾﾝﾀｰ・光の丘２番方面バス 10 分光の丘２番下車徒歩７分

●京浜急行北久里浜駅よりバス乗り場２番　大矢部四丁目・岩戸団地循環、バス 15 分　岩戸町内会館バス停下車徒歩 15 分（本数は少ないが大矢部・岩戸支援学校行きバスもあり）

●ＪＲ衣笠駅より徒歩５分衣笠十字路バス停より岩戸団地経由 YRP 野比駅行きバス 20 分岩戸町内会館下車徒歩 15 分



【学校の理念】

・生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、自立と社会参加するための生きる力を育成します。

・学校から社会への移行を支援するための取り組みを充実させます。

・進路先拡充や地域生活を充実させるために様々な機関と連携します。

・社会参加をめざして体験を重視した学習を充実させます。

○知的障害教育部門の取り組み

社会生活への移行に向けて個々の教育的ニーズを見据え、生きる力の向上を図ります。

集団生活を基本とし、ＳＳＥ（Social Skills Education）等の学習を大切にしています。また、生徒一人ひとりの実態に応じた日常生活の指導等の学習も行っています。

「職業」の授業は週１回、３学年縦割りで６つの班に分かれて実施し、実際に働く活動を通して、「働く喜び」「働くことの大変さ」「頑張る気持ち・体力」「報告・連絡・相談」等の卒業後に必要となる基本的な態度を学習しています。

○肢体不自由教育部門の取り組み

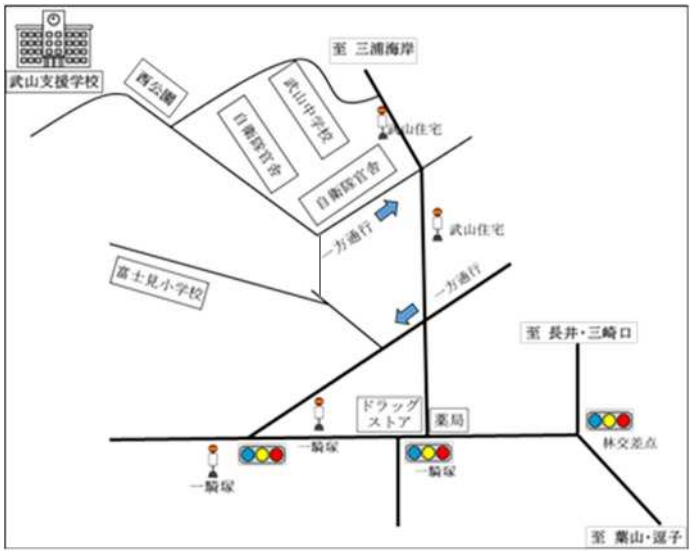
健康面・身体面・学習面などにおいて一人ひとりのニーズに沿った教育活動を行っています。校内支援だけでなく、地域資源との連携によって、それらの機関に所属する専門家の支援による指導の充実を図っています。

自立と社会参加に向けて、「誰もが社会の中で役割を持ち、適切な支援のもとに、自分らしく、豊かに生きる」ことを目指し、「職業」の授業では、知的障害教育部門と一緒に行う、又は、分業制で作業を行う等、学校生活のあらゆる場面で、生きる力の向上に取り組んでいます。

	神奈川県立	たけやましえんがっこう 武山支援学校	

所在地：〒238-0313 横須賀市武３-35-１
電 話：046-856-5800（代表）
ＦＡＸ：046-857-6367
ＵＲＬ：
https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takeyama-sh
創 立：昭和51年
学 部：小学部・中学部・高等部
（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部
（肢体不自由教育部門）

＜学校案内＞
利用交通機関
● 京急横須賀中央駅または衣笠十字路よりバス
一騎塚下車徒歩１０分
● 京急三浦海岸駅よりバス　武山住宅下車徒歩５分



高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	23	17	16	56
肢体不自由教育部門	1	2	1	4
合計	24	19	17	60

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

「明日に向かって羽ばたこう！」

校歌にあるこの歌詞が本校の子どもたちの大きな目標になっています。武山支援学校は、横須賀市の西にある標高 200m 程の小高い「武山」のふもとにあります。山頂からの眺望はすばらしく、遠くは富士山から相模湾、反対方向には東京湾が一望できます。30～40 分あれば登れるので体力づくりにも活用されています。

昭和 51 年に開校し、昭和 52 年８月に現在の校舎が完成しました。平成 17 年度より全学部に知的障害教育部門と肢体不自由教育部門を併置し、平成 20 年度から県立津久井浜高校内に高等部知的障害教育部門の分教室を設置しました。令和７年度は小学部 85 名（知的 85 名、肢体０名）、中学部 56 名（知的 56 名、肢体０名）、高等部 60 名（知的 56 名、肢体４名）の合計 229 名（内分教室 28 名）の児童・生徒が横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町等から通学しています。通学支援として全学部を対象に登校時には、９台のスクールバスが運行されています。高等部知的障害教育部門のカリキュラムは、自立活動や日常生活の指導を中心に据え、生活に関連した内容の国語・数学および音楽・美術・保健体育（トレーニング含む）・作業学習・生活単元学習等の内容を学習しています。また、知肢統一を掲げ、知的障害部門と肢体不自由教育部門の児童・生徒がそれぞれのニーズに合わせて、共に学んでいく校内インクルーシブの取組を推進しています。

「作業学習」では将来社会人として働くために必要な内容を学習します。令和７年度は工芸、事務・受注、園芸・環境、リサイクル、の４つの作業学習班に分かれ学習を行っています。

なお、次の表は、令和６年度本校の卒業生進路状況です。

	就職	就労支援				生活介護	地域作業所	進学	地域活動センター	家庭	その他	合計
		就労継続A	就労継続B	自立訓練	就労移行							
6年度	1	0	1	1	0	14	0	0	0	0	4	21

	神奈川県立	たけやましえんがっこうつくいはまぶんきょうしつ 武山支援学校津久井浜分教室	

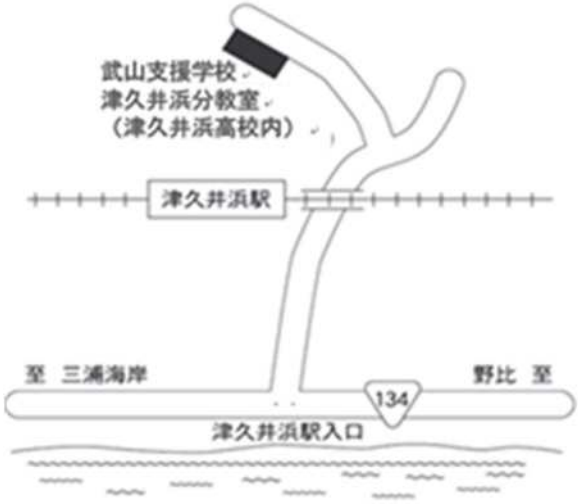
所在地：〒239-0843 横須賀市津久井４－４－１
（県立津久井浜高等学校内）
電 話：046-848-2137
F A X：046-848-2147
U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takeyama-sh
設 置：平成20年
学 部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	12	8	8	28

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

＜学校案内＞
利用交通機関
● 京急津久井浜駅より徒歩５分



（１） 分教室の教育

三浦半島地域における、急激な生徒増への対応として、平成20年度から県立津久井浜高等学校内に武山支援学校高等部の分教室を設置し、分教室による教育が始まりました。地域の暖かな風土と特性を活かし、高等学校の生徒とのふれあいと相互尊重の中から、新しい特別支援の教育を展開しています。

（２） 分教室の特徴

分教室では、地域に活動の場を求め、社会参加と自立の実現のため「共に尊重しあう豊かな心の育成」「社会で生きる力の育成」を教育課程の骨子に据え、柔軟性のあるしなやかな学習に取り組んでいます。また、本校の主要な学校行事等の活動にも参加しながら、津久井浜高校生との行事や授業等の交流、高齢者施設での音楽活動、観光農園や企業での職業学習、地域での販売活動、三浦国際マラソンでのボランティアと幅広く交流活動を行っています。

（３） 分教室の施設

分教室は、授業の内容に応じて各教室や特別教室を使用するなど、高校と連携しています。

（４） 分教室の進路

次の表は、令和６年度　分教室卒業生の進路状況です。

	就職	就労支援				生活介護	地域作業所	進学	地域活動センター	家庭	その他	合計
		就労継続A	就労継続B	自立訓練	就労移行							
６年度	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

神奈川県立

ひらつかしえんがっこう
平塚支援学校

所在地：〒259-1215　平塚市寺田縄５９０番地
電　話：０４６３（５８）０４５６
ＦＡＸ：０４６３（５９）４２４８
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsuka-sh/
創　立：昭和４４年４月１日（開校）
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
　　小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
高等部生徒数：（令和７年５月１日現在）

	１年	２年	３年	計
肢体不自由教育部門	2	9	6	17
知的障害教育部門	24	27	30	81

<学校案内図>
利用交通機関
●ＪＲ平塚駅より「秦野駅行き」
神奈川中央交通バス乗車
「平塚支援学校前」下車徒歩７分

＜学校のミッション＞

共生社会の実現に向け、地域とともに、児童・生徒の自立と社会参加を目指して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行う。

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、小学部・中学部・高等部を通した一貫した教育を行うとともに、一人ひとりの障がいの状態等に応じた就労支援の取組を充実させる。医療的ケアを必要とするなど、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の教育活動全般について、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障がい及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導を実践する。

また、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通した、児童・生徒の相互理解を図る。加えて、児童自立支援拠点との連携をはじめ、地域の支援体制整備に取り組む。

＜学校教育目標＞

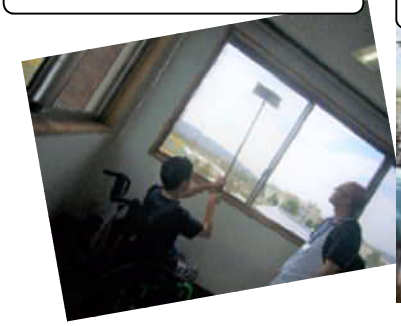
○健康で安全な生活を送る
○自分の可能性を出来るだけ広げる
○気持ちや要求を伝えようとする意欲を持ち、表現を豊かにする
○社会のあり方を知り、社会人として求められる力を身につけ、進んで参加する
○社会とのかかわりの中で、社会に貢献できるよう自己を成長させる

創立 50 周年記念
マスコットキャラクター
ひらひらちゃん

＜子どもたちの自立と社会参加を全力で目指します＞

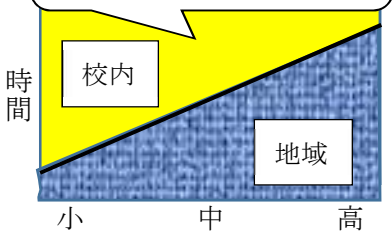
社会貢献をすること！

人との関わりを楽しむこと！



自分らしく生き生きと生活していくこと！

学年が上になるほど地域で学習する時間が増えるカリキュラムになっています



地域を「第２の教室」として、近隣施設や公園の清掃活動など「地域に出て、人と関わり、考え、学ぶ」ことを大切に考え、教育課程を編成しています。そして、共生社会の実現を目指しています。

	神奈川県立	しょうなんしえんがっこう 湘　南　支　援　学　校	

所在地:〒254-0061
平塚市御殿４丁目14番１号

電　話:0463-34-7212

ＦＡＸ:0463-34-8707

ＵＲＬ:https://www.pen-kanagawa.ed.jp/shonan-sh

創　立:昭和55年５月１日

学　部:小学部・中学部・高等部
（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	23	32	22	77

（生徒数は、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

〔交通〕
◆平塚駅より神奈中バス（7番乗り場）
「伊勢原駅南口行」
大縄橋下車10分（89.90.91.94系統）
新大縄橋下車12分（87.88.92.93系統）
◆伊勢原駅より神奈中バス「平塚駅行」
大縄橋下車10分（89.90.91.94系統）
◆秦野駅より神奈中バス「平塚駅行」
長瀬下車10分（71.74系統）
◆二宮駅より神奈中バス「平塚駅行」
南原土手下車15分（平32系統）

【校章の由来】
Ｓのラインは、湘南の陸地と灘を、中心に県の鳥「かもめ」を配し、飛翔による、自由と希望をこめたものです。

【基本理念(目指す学校像)】「地域に開かれた明るく楽しい活力ある学校」
社会の一員として、たくましく、より豊かに生きる子どもの育成を目指して、人間尊重の精神を基盤に据え、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた学習活動を行うために◎児童生徒には「授業がおもしろく楽しい学校」◎保護者には「毎日通わせたい学校」◎地域や関係機関には「信頼できる、手をつなぎたい学校」◎教職員には「働きがいのある学校」と言われる学校づくりをすすめます。

【高等部教育目標】
① 生活を豊かにするために、健康な身体と健全な心を育てる。
② 社会生活を営むための習慣形成を基本とし、基礎的な知識や技能を習得させる。
③ 自立と社会参加に向け、自己の役割の理解と自己選択及び自己決定の能力を育成する。

【高等部教育の特色】
高等部では、卒業後の社会自立に向けた進路支援を、次の３つの活動を柱にすすめています。
①進路学習・作業学習
高等部３年間を見通した系統的・継続的な学習
本校で作成した「進路の本（キャリアハンドブック）」を基に指導しています。
作業学習は３学年たて割りで７つの班で取り組んでいます。（木工班、窯業班、織工手芸班、清掃班、紙工班、農園芸班、調理班）
②進路相談
生徒本人および保護者に対してきめ細かい相談や情報提供を行っています。

③産業現場等における実習（現場実習）
地域企業や福祉事業所の協力を得て、働く経験をすることにより、仕事の楽しさや厳しさ、人間関係や社会のルールやマナーを学びます。

【　主な学校・学部行事（予定）　】

４月	入学式　　新入生歓迎会
５月	保護者面談　　学校説明会　　宿泊学習（高２）
６月	産業現場等における実習　水泳指導
７月	終業式
８月	PTA夏季レクリエーション
９月	始業式　　保護者面談
10月	産業現場等における実習
11月	作業班販売　修学旅行（高３）
12月	高等部入学者選抜(前期)　遠足（高１）（高３）
１月	始業式　遠足（高２）　生徒会役員選挙 高等部入学者選抜(後期)
２月	３年生を送る会　保護者面談　入学説明会（２/25）
３月	高等部卒業式(３/12)　修了式、離･退任式

	神奈川県立	はだのしえんがっこう 秦　野　支　援　学　校	

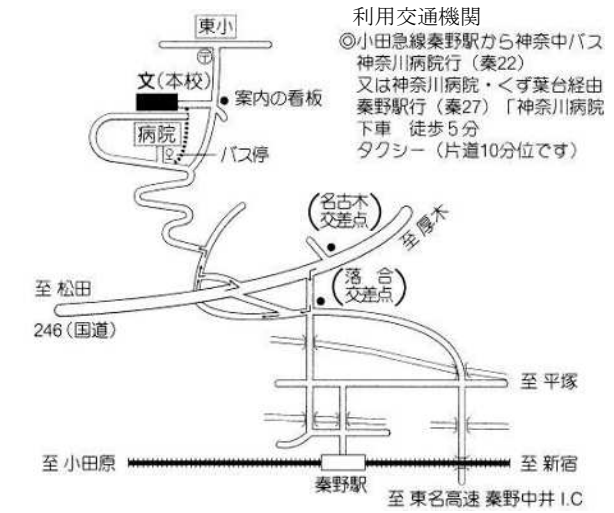
所在地：郵便番号２５７－００２５　秦野市落合５００
電　話：0463-81-0948（代）
ＦＡＸ：0463-83-4118
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hadano-sh
創　立：昭和 33 年 10 月１日
学　部：＜病弱教育部門＞
【A課程】落合校舎:病弱教育(準ずる教育)
小学部・中学部
【B課程】落合校舎:病弱教育（重複障害教育）
小学部・中学部・高等部(高等部は在施設訪問のみ)
【C課程】 神奈川ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院かもめ学級:訪問教育
小学部・中学部
＜知的障害教育部門＞
【D】　弘済学園:訪問教育　小学部・中学部
【E】　落合校舎　高等部
【F】　末広校舎　小学部・中学部
＜肢体不自由教育部門＞
【G】　落合校舎　小学部・中学部・高等部

高等部生徒数

	１年	２年	３年	合計
病弱教育部門（在施設訪問:重複障害教育）	0	1	0	1
知的障害教育部門	18	26	31	75
肢体不自由教育部門	3	3	2	8

（令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞



＜本校の紹介＞

大山丹沢の山懐（やまふところ）にある本校は、桜の花、桃の花など季節に合わせて素敵な花が見られる山里にあり、ウグイスをはじめ様々な小鳥達のさえずりがいつも聞こえてきます。秦野支援学校高等部では、生徒たちが社会の中で自立し、充実した生活を送るための力を育んでいます。

＜めざす学校像＞

○児童生徒が「毎日行きたい」と感じる学校
○保護者が子どもを「毎日登校させたい」と感じる学校
○地域や関係機関が「利用したい、応援したい、手をつなぎたい」と感じる学校
○教職員が学び合い、支え合い、働きがいを感じる学校

＜めざす児童生徒像＞

○めあてを持って、やりぬく子
○「よさ、強み・持ち味」を十分に発揮できる子
○自分を大切にし、他の人の幸せを願える子

秦野支援学校キャラクター　いぶきちゃん

＜本校のグランドデザイン＞

○自分の可能性をきりひらく子を育てます　～すこやかに、しなやかに、そしてたくましく～
○児童生徒を地域のフロントへ送り出します　～もっとアクション、いっしょにチャレンジ、みんなでとびだそう～

～高等部の特色～

○知的障害教育部門Ｅ高等部
・地域を学びの場とした活動の充実　・個に応じた進路指導
○肢体不自由教育部門Ｇ高等部
・自分のことを「伝える力」の向上　・心と体を的確にとらえた学習の充実

	神奈川県立	かまくらしえんがっこう 鎌倉支援学校	

所在地：〒247-0075　鎌倉市関谷566番地

電　話：0467-45-1482（代表）

ＦＡＸ：0467-43-4804

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kamakura-sh

創　立：昭和54年1月

学　部：高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数（本校のみ）

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	30	26	28	84
肢体不自由教育部門	12 (2)	11 (2)	6 (0)	29 (4)

※（　）は内数で、訪問籍生徒数

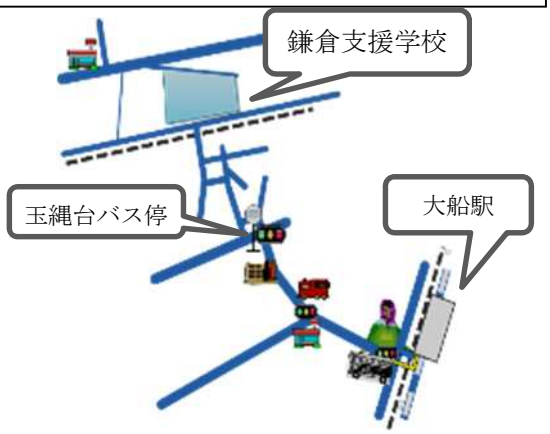
（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●大船駅西口バスターミナルより　神奈川中央交通バス
栄光学園経由清泉女学院行き　玉縄台下車
徒歩７分

●藤沢駅北口より　神奈川中央交通バス
関谷ｲﾝﾀｰ経由大船駅行き　関谷ｲﾝﾀｰ下車　徒歩７分



＜学校紹介＞

大船駅から北へ約2.5km、鎌倉市立関谷小学校に隣接。昭和54年に肢体不自由養護学校として開校しました。昭和60年には高等部に知的障害学級が設置され、昭和62年より知的障害教育部門高等部が併置となりました。平成20年度から県立金井高等学校内に分教室を開設しています。

本校の生徒は、鎌倉市、藤沢市、横浜市、逗子市等から通学しています。

目指す学校像

夢や希望を持ち、実現を目指す学校
たくましく生きる力を育む学校
地域と一緒につくる、共生社会の学校

目指す子ども像

１健康を大切にする
２今ある自分となりたい自分を大切にする
３学びを力にかえる
４他者を大切にできる

目指す教職員像

１子どもの人権を尊重したかかわり
２子どもの主体性を生かす授業作り
３共生社会の学校に向けた意識改革
４教職員の働きがいと健康

	神奈川県立	かまくらしえんがっこうかないぶんきょうしつ **鎌倉支援学校金井分教室**	

所在地：〒244-0845　　横浜市栄区金井町 100 番地
（県立金井高等学校内）

電　話：045-852-4722

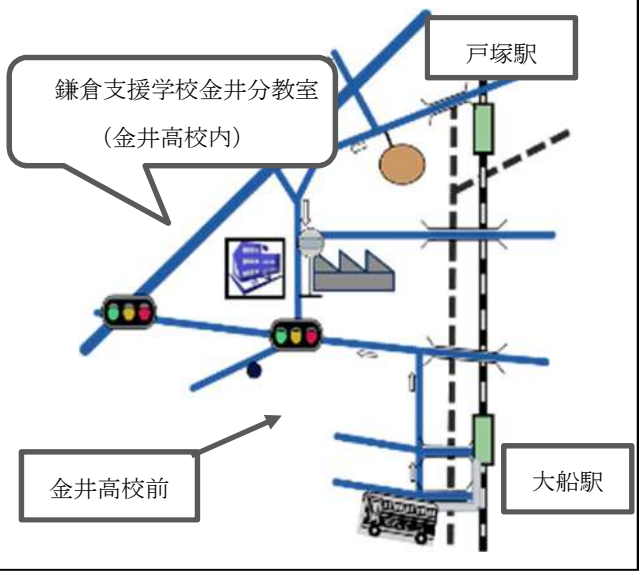
F A X：045-852-4738

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kamakura-sh

設　置：平成 20 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

＜学校案内図＞
●**大船駅西口バスターミナル**：神奈中バス「戸塚バスセンター行」乗車約 10 分、「金井高校前」下車
●**戸塚駅**：戸塚バスセンターから
神奈中バス「大船駅西口行」又は「金井高校前行」乗車約 15 分、「金井高校前」下車



高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	10	13	14	37

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

令和７年度　高等部分教室日課表

		月			火			水			木			金		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
8:50～9:10		更衣/HR														
9:15～10:10	1	体力作り						朝学習			職業			体力作り		
								美術	情報	家庭						
10:20～10:50	2	朝学習			朝学習									朝学習		
11:00～11:50	3	情報	美術	数学	家庭	国語	国語	国/数	数学	家庭				数学	家庭	美術
12:00～12:50	4	総合	国/数	総合	家庭	進路	進路	昼食/休憩 11：50～12：50						国語	家庭	国/数
		昼食/休憩						体育 12:50～13:40			昼食/休憩					
13:35～14:25	5	進路	総合	情報	LHR/余暇			更衣/HR 13:40~13:50			職業			音楽		
14:25~14:35		清掃												清掃		
14:35~15:00		更衣/HR									更衣/HR					

〈分教室の取り組みの重点〉
・安心できる居場所になる
・生活スキルの習得
・ソーシャルスキルの習得
・達成感のある取り組み
・体験と人とのつながりに重きを置いた取り組み
・自己決定・自己選択の重視
・約束・規範を守る取り組み

	神奈川県立	ふじさわしえんがっこう 藤沢支援学校	

所在地：〒252-0813　藤沢市亀井野 2547-19

電　話：0466-82-9418(高等部)
ＦＡＸ：0466-83-3520
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/fujisawa-sh/

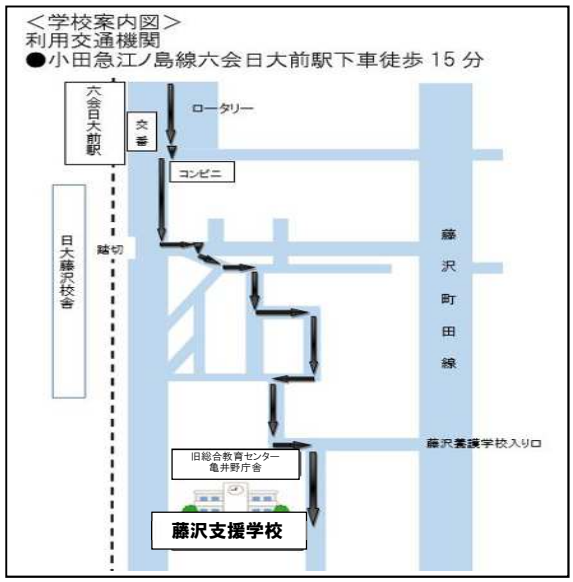
創　立：昭和 52 年４月

学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	38	36	34	108

（生徒数については令和７年５月１日現在）



高等部（本校）の重点教育目標

自立と社会参加に向けて、生徒一人ひとりが、生きる力と豊かな生活を実現できる力を育成する。

高等部（本校）の指導方針

1　健康で安全な暮らしを送るための力を育成する。
2　自分自身を理解し、周りの人と適切に関わる力を育成する。
3　地域や社会の中で「共に生きる」「働く」ための力を育成する。
4　自分の意思で選ぶ力、心豊かな生活を送るための楽しむ力を育成する。
5　「暮らす」「働く」「楽しむ」をバランスよく生活に取り入れる力を育成する。

高等部（本校）の生活

【日課】通常の登校時刻は 8 時 40 分～8 時 50 分です。下校時刻は月・火・木・金曜日は 15 時 00 分、水曜日は 14 時 30 分です。給食があります。短縮日課は 11 時 40 分に下校です。
【作業】６班（清掃受注、紙製本、陶芸、布工、農園芸、木工）の中から生徒の適性等を考慮し作業班を決めます。１・２年生は週に２回午前中、３年生は週に１回、１日通して行います。仕事への興味、関心、意欲を高め、働くために必要な態度や持久力を身につけることを目指しています。
【実習】１年生は「校内実習」、２年生は「校内実習」に加えて実際に校外へ出て働く「現場実習」を行います。３年生は進路決定に向けて「現場実習」を数回行います。
【総合の時間】３学年縦割りで、８グループ（サッカー・野球、陸上、バドミントン、軽スポーツ、音楽、美術、ダンス、バスケットボール）に分かれて活動します。生徒たちで話し合い、やりたいことを決めて運営していきます。
【生徒会活動】生徒会では、学校生活をより楽しくするために生徒総会・卒業生を送る会などの行事を生徒主体で運営しています。また、給食時にリクエスト曲を募集して放送するなど、学校生活がより充実したものになるよう、自分たちで活動内容を考え主体的に取り組んでいます。生徒会役員は、選挙で選ばれます。
【その他】必要に応じて、相談担当、専門職（心理・作業療法）が身体的・心理的な相談を行っています。

神奈川県立

ふじさわしえんがっこうかまくらぶんきょうしつ

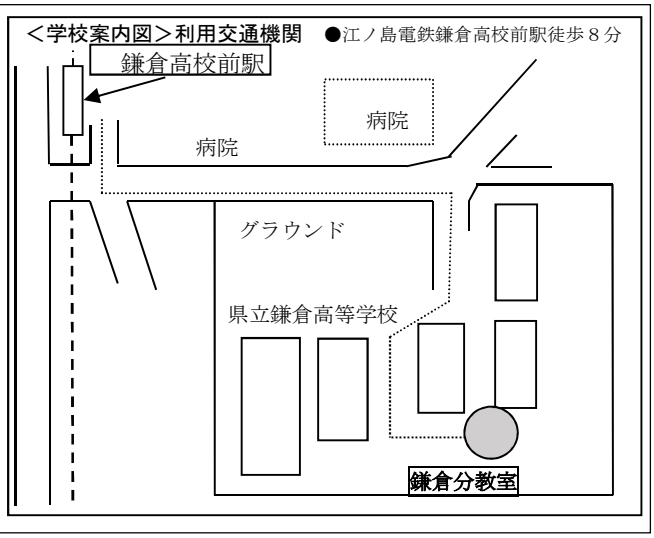
藤沢支援学校鎌倉分教室

所在地：〒248-0026
鎌倉市七里ガ浜 2-21-1
県立鎌倉高等学校内
電　話：0467-32-8721
F A X：0467-32-8722
U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/fujisawa-sh/
設　置：平成 24 年４月１日
学　部：高等部（知的障害教育部門）

鎌倉分教室　生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	13	10	9	32

（生徒数については令和７年５月１日現在）



【鎌倉分教室　重点教育目標】

自立と社会参加に向けて、生徒一人ひとりが、心身ともに豊かに過ごせる力と働く力を育成する。　「つたえる　つながる　たすけあう」

鎌倉分教室では、「自立と社会参加に向けて」生徒一人ひとりに合わせた指導を行うと共に、様々な学習活動を通して、自己理解を深め、お互いに助け合う気持ちの育成を目指しています。

鎌倉高等学校および近隣の地域と積極的に繋がり、共に学び、共に育つ学習の場を設けています。

今年度も「つたえる　つながる　たすけあう」をスローガンとして、共生社会を広げる取り組みを行っていきます。

【鎌倉分教室　指導方針】

① 心身ともに健康で安全な暮らしを送るための力を育成する。

② 自分自身を理解し、他者理解に努め、周りの人と適切に関わる力を育成する。

③ 地域や社会の中で「共に生きる」「働く」ための力を育成する。

④ 自己肯定感を高め、課題と向き合い解決する力を育成する。

⑤ 「暮らす」「働く」「楽しむ」をバランスよく生活に取り入れる力を育成する。

＊地域の老人ホーム、図書館、寺社、スーパー、保育園や幼稚園等の協力を得て、「身近な現場実習」を日々の職業の時間で実施しています。

＊鎌倉高等学校の対面式を始め、文化祭の行事参加、生徒会活動での交流があります。

＊地域で活躍されている方など外部講師の協力を得て、地域理解や社会の仕組みを学ぶ学習を行います。防災教育、福祉教育、消費生活、健康教育、金融教育、身だしなみセミナーなどです。

＊相談担当、専門職（心理・作業療法）が定期的に巡回し、身体的・心理的な相談を行っています。

神奈川県立

おだわらしえんがっこう

小田原支援学校

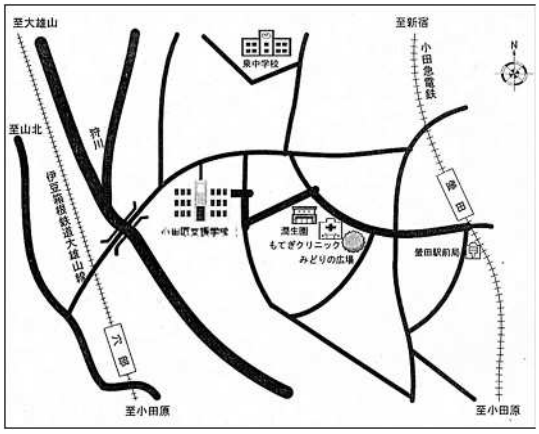
所在地：〒250-0865　小田原市蓮正寺 1021（小田原校舎）
電　話：0465-37-2755
F A X：0465-37-5356
U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh
創　立：昭和 53 年４月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
　　小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	42	37	39	118
肢体不自由教育部門	4	4	4	12

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
- 小田急線螢田駅から徒歩８分
- 大雄山線穴部駅から徒歩 15 分



一人ひとりが輝く学びの場　～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

◇　めざす生徒像

○じょうぶで 仲良く たくましく 生きていこうとする子

○自分からすすんで 自分のことを行い心豊かに働く意欲を持つ子

◇　高等部（小田原校舎）の紹介

●知的障害教育部門では卒業後の一人ひとりの自立に向け、ソーシャルスキル獲得を目指した指導に重点的に取り組んでいます。作業学習は受注、手工芸、やきもの、環境整備、木工、農園芸、ハンドメイドの７班で構成され、毎週金曜の終日、学部縦割りで活動しています。
また、水曜午後はサークル活動（アリーナレク、ダンス、イラスト、パソコンなど６サークル）を学部全体で行っています。さらに、放課後は特別支援学校体育連盟の大会に向けた練習も行われ、就労に向け体力づくりにも力を入れています。

●肢体不自由教育部門では卒業後の豊かな生活や、一人ひとりに応じた自立と社会参加をめざし、人とのふれあいや自らの気持ち・意思を表現できる学習に取り組んでいます。授業は生徒一人ひとりの課題に応じて学部全体・グループ・個別の指導形態で行っています。また近隣の中学校や高校との交流、生け花教室、音楽鑑賞会などを通して同世代や外部の人と触れ合い、自他尊重の態度を養う機会を設けています。

	神奈川県立	おだわらしえんがっこうおおいぶんきょうしつ 小田原支援学校大井分教室	

所在地：〒258-0017

足柄上郡大井町西大井 984-1（県立大井高等学校内）

電　話：0465-86-0040

F A X：0465-86-0041

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh

設　置：平成 23 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

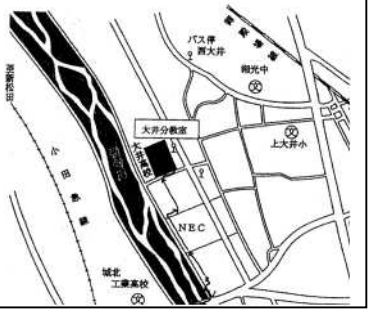
	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	27	15	12	54

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

- 小田急線栢山、開成駅から徒歩 25 分
- 御殿場線上大井駅から徒歩 25 分



分教室の設置

小田原支援学校大井分教室は、平成 23 年4月に県立大井高等学校内に小田原支援学校高等部の分教室として設置されました。

大井高等学校及び近隣施設等と連携を取りながら、より実践的な学習を展開し地域へ貢献することを目指しています。

一人ひとりが輝く学びの場

～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

1　分教室の目標

一人ひとりが**『社会的自立・職業的自立』**をするために社会で生きる力を育成します。

〇コミュニケーション能力の向上　〇自らやり遂げる経験の積み重ね　〇社会的なルールの遵守

2　指導内容

☆集団での活動場面に参加することで適応力を高め、人とのコミュニケーションを通して場にあった会話ができる力を育てます。

☆**近隣企業等での日常的な作業学習（製造業・清掃業・農業など）**を通して、働く意欲や作業能力を高め、最後までやり遂げる力を育てます。

☆社会的通念から求められる高校生としての社会的常識や身だしなみを身につけます。

☆地域社会でのいろいろな活動に参加し、自分が生活する地域についての理解を深めます。

3　教育活動

☆**就労にむけた学習（現場体験）では積極的な地域資源の活用**をはじめ、地域や産業界と連携し、職業教育やキャリア教育の充実を図ります。

☆卒業後の社会生活（豊かな生活）を見据えて、一人ひとりの特性を考慮した、教育内容の工夫や教育活動の展開に努めます。

	神奈川県立	おだわらしえんがっこうゆがわらこうしゃ 小田原支援学校湯河原校舎	

所在地：〒259-0301
足柄下郡湯河原町中央２－21－３
電　話：0465-60-1800
ＦＡＸ：0465-60-1805
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh
（小田原校舎のアドレスとなります。）
設　置：令和３年９月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	6	1	5	12
肢体不自由教育部門	1	1	0	2

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
- 東海道線湯河原駅から徒歩 17 分
- 箱根登山バス３分「中央２丁目」下車 徒歩２分

一人ひとりが輝く学びの場

～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

・一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びが実現できるよう、**地域の特色を生かす**ことや、**地域の子どもたちと学びの時間の共有**、**本校の同学部の生徒との交流**など、小田原支援学校におけるこれまでの積み上げを大切にしながらも、新たなコンセプトの湯河原校舎ならではのおおらかで夢のある学びの実現をめざします。

ゆがわらこうしゃ　ゆるキャラ
ユノッシー

自然豊かな湯河原校舎。みんなから愛されるキャラクター、イノシシをイメージし、湯河原の頭文字を入れて、親しみやすい名前「ユノッシー」と名付けました。

＜新しく開設された湯河原校舎について＞

・令和３年９月に湯河原・真鶴地区に新たに小田原支援学校湯河原校舎が開設されました。これまでの高等学校内の分教室とは違い、小中高の知肢併置ということで６学部構成となり、給食の提供やスクールバスの運行も行っています。

人を「つなぐ」・地域で「つながる」・みんなが「つながりあう」が合言葉

・地域とのつながりを大切にすることで子どもたち自身が認められ、役に立つことの経験を通して将来の自立と社会参加につなげていきます。

	神奈川県立	ちがさきしえんがっこう 茅ケ崎支援学校	

所在地：〒253-0083　茅ヶ崎市西久保 29－１
電　話：0467-57-5379　　**ＦＡＸ**：0467-57-5371
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/chigasaki-sh
創　立：平成 11 年４月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
　　小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
　　在宅訪問（小学部・中学部・高等部）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	35	27	43	105
肢体不自由教育部門	1	5	3	9

（生徒数については令和７年５月１日現在）

利用交通機関
○JR 相模線「香川駅」から徒歩 25 分
○JR 東海道線「茅ヶ崎駅」北口から神奈川中央交通バス、茅 25・26 系統「西久保」下車徒歩 16 分、茅 45 系統「番場」下車徒歩７分
○茅ヶ崎市コミュニティバス鶴嶺北コース「茅ヶ崎駅北」乗車、「茅ケ崎養護学校前」下車徒歩０分

〈学校案内図〉

本校の教育

（１）学校教育目標

平成 11 年に開校しました本校は、開校当初より「地域に根ざす開かれた学校」という理念を掲げ、共生社会の実現を目指して取組を進めています。本校の学校教育目標は、「一人ひとりが輝く教育」です。

（２）学校運営方針

学校教育目標の達成に向けて、この３つの柱を軸に教育活動を推進していきます。
☆質の高い学びを創ります。
☆児童生徒が安心できる学級を創ります。
☆地域に信頼され、地域とともにある学校を創ります。

＜イメージキャラクター＞

ちっぷ

きらら

（３）高等部の目標

社会生活に向けた確実な力の獲得をめざします。

Ａ高等部（肢体不自由教育部門）
①互いに認め合う経験を積み重ね、豊かな心を育てます。
②確かな意思伝達の方法を身につけられるようにし、自立と社会参加に向けて生きる力を養います。
③地域資源を積極的に活用し、より豊かな生活を目指します。

Ｂ高等部（知的障害教育部門）
①生活を豊かにするために健康な体と健全な心を育てます。
②日常の基礎的・基本的学習を充実させ、自立するための力を養います。
③集団生活を通して共に助け合いながら成長する力を養います。

神奈川県立

いせはらしえんがっこう
伊勢原支援学校

所在地：〒259-1116　伊勢原市石田 1390

電　話：0463-93-7916

ＦＡＸ：0463-96-2457

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/isehara-sh

創　立：昭和 53 年４月 10 日

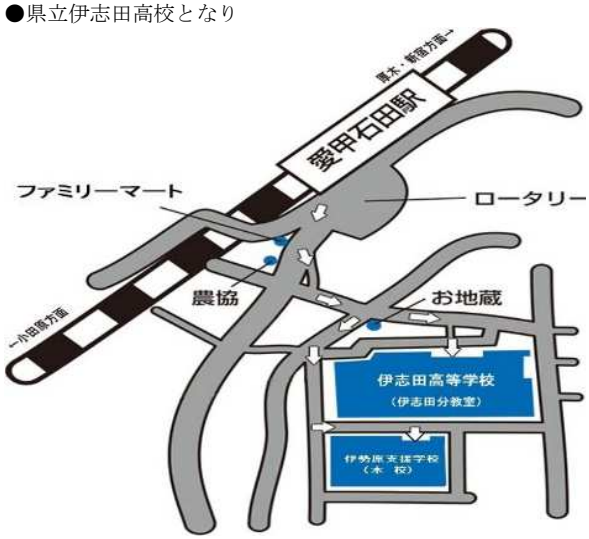
学　部：小学部・中学部・高等部
（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	38	32	37	107

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●小田急線「愛甲石田」駅　徒歩 10 分
●県立伊志田高校となり



本校は昭和 53 年４月 10 日に開校しました。

学校からは相模の名山大山を仰ぎ見ることができ、四季それぞれの美しさを感じることのできる恵まれた環境にあります。

本校には小学部から高等部までの児童・生徒が在籍し、明るく元気に学校生活を送っています。

クラフト班

農園芸班

やきもの班

高等部では、青年期にある生徒の心身共に調和のとれた発達を目指し、地域社会の中で、自分らしくいきいきと暮らすことのできる生徒の育成をめざして教育活動に取り組んでいます。

これまで培ってきた力を基盤に、基本的な生活習慣を確立し、自分らしさを探求し、社会の中で自己の役割を発揮する力や態度の育成に努めています。

一人ひとりの生徒の特性や発達に応じて学習形態や学習内容を工夫すると共に、卒業後の社会生活への意識を持つことや具体的な経験を積むことをねらいとして作業学習や現場実習等を行っています。

●校章の由来●

大山独楽をモチーフにしたデザインです。まっすぐで丈夫な材質の心棒が中心にある独楽は良く回ることから、健康で明るく、心のまっすぐな人間の育成をめざす本校の象徴としました。

	神奈川県立	いせはらしえんがっこういしだぶんきょうしつ 伊勢原支援学校伊志田分教室	

所在地：〒259-1116　伊勢原市石田 1356-1

電　話：0463-93-0082

F A X：0463-93-0083

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/isehara-sh

設　置：平成 24 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	14	12	15	41

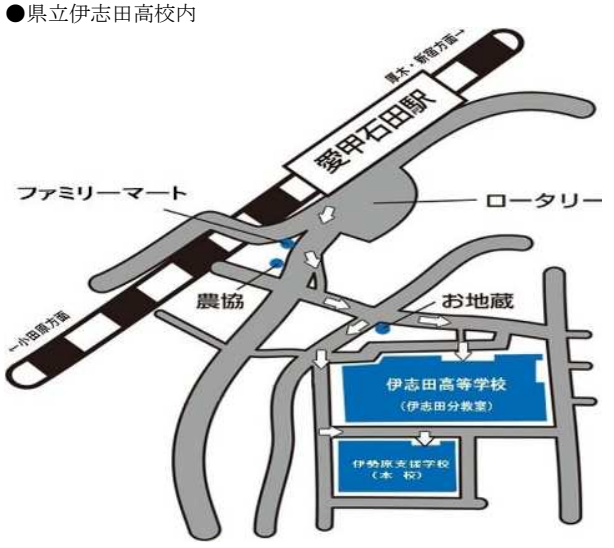
（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●小田急線「愛甲石田」駅　徒歩 10 分

●県立伊志田高校内



伊志田分教室は、知的障害教育部門の特別支援学校である伊勢原養護学校の分教室として、平成 24 年４月１日に、県立伊志田高校内に設置されました。

伊志田分教室と伊勢原支援学校本校は、道路一つを隔てた場所に向かい合うように並んでいます。

伊志田分教室では、

・自立と社会参加に向けて、生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を行い、青年期にある生徒の心身共に調和のとれた発達をめざす。

・地域社会の中で活き、活躍するために必要な基礎体力を養うとともに、知識・技能を高め、主体的に課題を解決する力及び解決しようとする態度を育てる。

を教育目標の大きな２つの柱とし、さらに５つの目標を設定しています。

（１）　情緒の安定を図り、健全な心と健康な心身の発達を目指す。

（２）　基本的な生活習慣を確立し、自立するための力を育てる。

（３）　自分を大切にし、他者を尊重し、助け合える力を育む。

（４）　地域とのかかわりを通して豊かな人間性を養い、社会に貢献できる力を育てる。

（５）　職業自立するために必要な知識・技能・態度の習得をめざし、将来、幸せな生活が送れる力を育む。

教育目標を実現するために、伊志田分教室では、職業自立に向けた計画的な進路指導・進路支援を充実させるとともに、生徒一人ひとりのニーズを把握し、そのニーズに応じた個別の支援計画、個別教育計画を作成して、一人ひとりの目標達成を目指し、継続した指導・支援を行います。そして、生徒の社会自立を目指すことを念頭に置いた教育課程を編成し、社会で生きるために必要なこと、余暇の楽しみ方等、生きがいのある生活をするための学習を学校生活の中で行います。

神奈川県立

え び な し え ん が っ こ う

えびな支援学校

所在地:〒 243-0422 海老名市中新田４－５－１

電　話:046-292-5612

ＦＡＸ:046-292-5620

ＵＲＬ:https://www.pen-kanagawa.ed.jp/ebina-sh

創　立:平成28年４月１日

学　部:小学部・中学部・高等部(知的障害教育部門)

小学部・中学部・高等部(肢体不自由教育部門)

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	46	42	37	125
肢体不自由教育部門	6	2	9	17

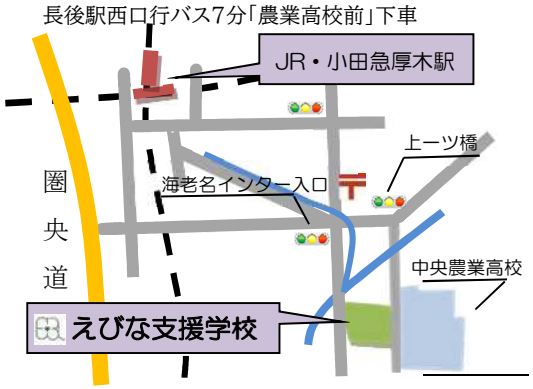
(生徒数については、令和7年５月１日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

●小田急小田原線および JR 相模線
「厚木」駅より徒歩20分

●小田急小田原線
「海老名」駅東口より路線バス6番乗り場
長後駅西口行バス7分「農業高校前」下車



地域で豊かに暮らし、働く

目標達成に向けた主な方策

広げる

○中央農業高校等、近隣の学校と連携した教育活動(作業・交流)
○地域との交流及び共同学習<ふれあいサロン・えびなタイム(クラブ活動)・作業>

未来へつなぐ

○中央農業高校等、近隣の学校と連携した教育活動(作業・交流)
○地域との交流及び共同学習<ふれあいサロン・えびなタイム(クラブ活動)・作業>

いのち
=子ども

知肢合同学習
(授業や行事)

○新学習指導要領による小・中・高の系統性のある教育課程
○個別教育計画に合理的配慮を明記
○「考えて」「わかり」「できる」授業の実践

育む

○いのちを大切にする心を育む「いのちの授業」
○地域の皆さんの避難も想定した実際的な防災計画・防災教育

守る

すべての一人ひとりに質の高い教育

地域の方と…
食品加工・喫茶班
「ふれあいサロン」

すべての一人ひとりを尊重する

中央農業高校の生徒と…
「共同学習」
「動物とのふれあい」

神奈川県立

ざましえんがっこう

座間支援学校

所在地：〒252-0029　座間市入谷西５-10-１
電　話：046-255-2251
ＦＡＸ：046-252-5379
ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh

創　立：昭和54年４月１日
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
　　：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数（本校）

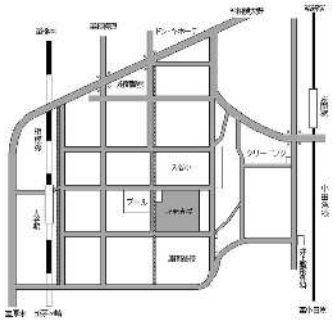
	１年	２年	３年	計
肢体不自由教育部門	4	1	4	9
知的障害教育部門	36	32	28	96

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

●小田急線　座間駅下車　徒歩６分
●JR 相模線　入谷駅下車　徒歩７分



教育・サポートシステム

共に考える個別教育計画

在学中から卒業後までの生活を見通して、どんなサービスが必要か、本人や保護者と共に考え、医療、福祉等、他機関とのコーディネートを行っていきます。

次につながる個別教育計画

９月・２月の２回個別教育計画に基づいた指導について評価し、以降の指導方法を本人・保護者の方と共に考える資料にします。

地域と連携した就労体験学習

１年生では、学校近隣の店舗や事務所に行って働く体験をします。働いた実体験から多くを学びます。

進路につながる現場実習

３年生を中心に、実際に企業や事業所等に通い実習を行います。また、２年生もニーズに応じて実習を行います。

いきいきとした生活にむけて

力をのばす授業づくり

授業は本人や保護者の方と一緒に作成する個別教育計画に基づいて行います。そのために保護者の方との面談を大切にし、今何が必要か共に考え、本当に必要な力をはぐくんでいきます。

１年生から進路を意識

１年生から本人の興味や特性に応じた進路について、夢や迷いも含めて相談していきます。

１年生から校内実習や就労体験学習に取組み、２、３年生では実際に就労場面を想定した実習を積み重ねていきます。

豊かな体験　学校行事

学校生活はそれ自体が経験の場です。学校行事は自分の力に気づくよい機会となります。遠足や校外学習、校外宿泊学習、修学旅行、ひまわりまつりは貴重な体験の場となります。

高等部（肢体不自由教育部門）　高等部（知的障害教育部門）

小学部（肢体不自由教育部門）　中学部（肢体不自由教育部門）

あなたのサポーター

学級担任

「いっしょに頑張ろう」

進路支援担当

「夢の実現に向けて走ります!!」

教育相談コーディネーター

「地域とのネットワーク作りをお手伝いします」

「自立活動教諭(OT)と一緒に、より学習しやすい環境作りをお手伝いします」

「困っていることを相談してね」

自立活動教諭（看護師）

「医療的ケアを教員とともに実施します」

担当医

「医療的ケアを担当します」

神奈川県立

ざましえんがっこうありまぶんきょうしつ

座間支援学校有馬分教室

所在地：〒243－0424　海老名市社家５－27－１
（県立有馬高等学校内）

電　話：046-238-1349

ＦＡＸ：046-238-1359

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh

設　置：平成20年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

＜学校案内図＞

生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	13	15	43

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

本校のノウハウと分教室の特徴を生かした教育活動

こんなポイント！

◇就労準備性を高める指導を展開します◇

○近隣企業や地域資源を活用したインターンシップ活動として、毎週火曜日に近隣の企業、公共施設において職業体験学習をしています。
○毎週火曜日または木曜日に、受注作業学習として企業からの受注品を扱った軽作業や校内の清掃作業に取り組んでいます。
○およそ2週間程度の校内・現場実習を年に2回実施しています。

◇相談活動を通し、一人ひとりを大切にします◇

○カウンセリング室を常備し、生徒の相談を受けています。また、専門職による相談日も設けています。
○生徒、保護者との面談を年間計画の中に位置づけています。互いにじっくり話す機会を通し、自分に向き合う時間を大切にします。
○福祉行政機関や福祉支援事業所などの各支援機関と連携、協働し、福祉サービスの利用や就業生活へのサポートを相談できます。

◇ 社会性・協調性を育て、自分を高めます ◇

○就業生活に欠かせない身体づくりに取り組んでいます。朝のトレーニングではランニングや各種運動に取り組んでいます。
○教科学習全般で実生活に役立つ授業を展開します。
○生徒会・委員会活動や月に一度の余暇学習において生徒同士の話し合い活動や協力して取り組むことを大切にしています。
○県立有馬高等学校との交流活動として、対面式（４月）、体育祭（６月）、有輝祭（９月）、ロードレース大会（２月）、合唱コンクール（３月）等の行事に参加しています。
○本校や相模向陽館分教室との交流活動を行っています。

教室

カウンセリング室

神奈川県立

ざましえんがっこうさがみこうようかんぶんきょうしつ

座間支援学校相模向陽館分教室

所在地：〒252-0003　座間市ひばりが丘３-58-１
（県立相模向陽館高等学校内）

電　話：046-298-0038

ＦＡＸ：046-298-0039

ＵＲＬ：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh

設　置：平成 22 年４月１日

学　部：高等部（知的障害教育部門）

生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害教育部門	15	14	5	34

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞　利用交通機関
●相鉄線　さがみ野駅下車　徒歩 20 分
●小田急江ノ島線　鶴間駅下車　徒歩 30 分

いきいきと自ら学ぶ意欲を大切に、自立と社会参加に向けて、
身体作りと体験学習を重視し働き続けることのできる力を育てます

自立と社会参加を進める力を育てる教育

（取組む方法）　（取組む内容）　（取組む視点）

体　験
目標の設定
日常の繰り返し
相　談

他者との関わり

働く　くらす　楽しむ

自分を知る

将来の生活

現在必要な力

校内作業
（週１回）
企業から受注した仕事や環境整備などに取組みます

職業体験
（週１回）
学校近隣の企業へグループで出かけ教員と一緒に働きます

現場実習（１年生から）
１～２週間の期間、毎日、１日を通して働きます
校内実習から始め、段階的に校外実習に臨みます

進路決定に向けた実習
経験を広げる実習
働く意欲を育む実習

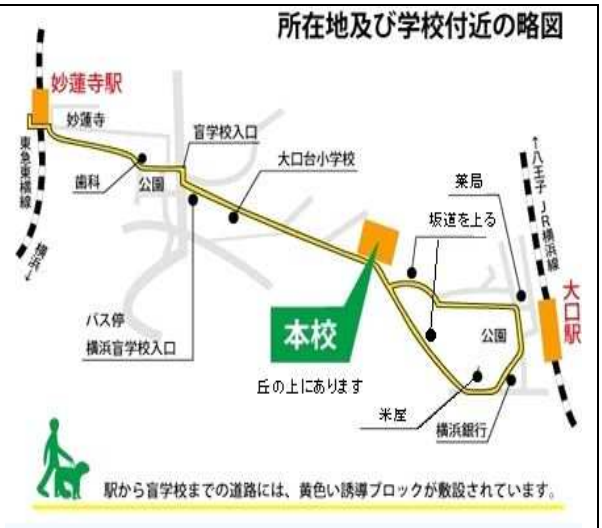
１階部分が分教室です

そのほかにも

●自分を知ることや、情報を活用し将来を考える力、周りの人と良い関係を結ぶ力などキャリア教育の視点を踏まえた取組みを進めます。
●一人１台のパソコンで情報の学習に取組みます。
●個々のニーズに合わせて、地域の行政機関や福祉施設等との連携を行います。

横浜市立

盲特別支援学校



所在地：横浜市神奈川区松見町１丁目 26 番地　〒221-0005
電　話：045-431-1629
ＦＡＸ：045-423-0284
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/yokomou
創 立：明治 21 年２月１日（鍼灸柔按医術講習学校）
学 部：幼稚部・小学部･中学部・高等部(視覚障害部門)

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
本　科　普　通　科	５	３	１２	２０
専　　攻　　科	６	１０	５	２１

（生徒数については令和７年５月１日現在）

利用交通機関
- ●東急東横線「妙蓮寺駅」より徒歩 12 分
- ●ＪＲ横浜線「大口駅」より徒歩８分
- ●京浜急行線「子安駅」より徒歩 24 分
- ●市営バス 59 系統「盲学校入口」下車より徒歩６分

１　日本で三番目に創立された盲特別支援学校

「みなとみらい地区」を望む神奈川区大口の丘の上に本校はあります。
目が見えにくかったり・見えなかったり・見えなくなる可能性があるために、特別な支援を必要とする幼児児童生徒のための学校です。幼稚部、小学部、中学部、高等部本科普通科・高等部専攻科があり、77 名の在校生が、将来の「社会参加・自立」を目指して、多くの教職員・スタッフとともに毎日学習しています。

２　本科普通科の教育

高等学校に準じた教科学習を行うとともに、「自立活動」の時間で、見えにくくても上手に生活・学習していく方法を学びます。また、視覚障害以外の障害を併せ有する生徒に対しても能力・特性に応じた指導をしています。

〇生徒の実態と一人一人の進路を踏まえて、次のコース・グループ制をとっています。
・生活コース：自立活動を中心に日常生活に必要な力の向上を図り、社会の中で生きる力を身につけます。
・職業コース：義務教育段階の教科学習を基礎として、働く姿勢や働くための知識・技能を身につけます。
・総合コース：高等学校に準じた学習を中心として、それぞれの進路に向けた知識・技能を身につけます。

３　運動部での活発な活動

本校では運動部の活動が盛んです。バレーボール、卓球のルールを視覚障害者が行いやすいように変えたフロアバレーボール、サウンドテーブルテニス（STT)などに取り組んでいます。国体など全国大会や関東大会に出場し優勝するなど好成績をあげています。

４　卒業後の進路

面談や実習、作業学習などを通じて自らの長所や課題を見つけるとともに、一人一人の希望や障害の特性に応じた進路を選べるよう、個に応じた支援を行っています。また、社会人・職業人として自立していくために必要なルールやマナーを学んでいます。進路先は、大学･専門学校への進学や就職、福祉的就労などさまざまです。

５　専攻科保健理療科および理療科（大学の入学資格を有する方が対象です）

高等部専攻科は視覚障害者の職業的自立を目指し、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧（三療）の技術を身につけ、国家試験の受験資格が得られる学科です。
あん摩マッサージ指圧師の免許取得をめざす「保健理療科」と、 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の免許取得をめざす「理療科」の２つのコースがあります。ともに修業年限は３年です。

横浜市立

ろう特別支援学校

とくべつしえんがっこう

所在地：〒 240-0067　横浜市保土ヶ谷区常盤台８１－１

電　話：　０４５－３３５－０４１１（代）

ＦＡＸ：　０４５－３３３－４８０７

ＵＲＬ：https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/ro/

創　立：大正１５．３．１５

学　部：幼稚部・小学部・中学部・高等部

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
本　　科	6	7	8	21
ビジネス科	0	1	0	1

（生徒数については、令和7年5月1日現在）

高等部の学習の目標

普　通　科	・義務教育で学習した基礎的内容についての定着と伸長を図り、高等教育機関へ進学したり職業に就いたりするにあたって必要な一般教養を習得する。 ・生徒の特性に応じた科目を履修するなど、卒業後を見据えて個々のニーズに合わせた教育を行う。
ビジネス科	・実社会で生きていくための専門的な知識・技能の習得と、全商情報処理検定・全商ビジネス文書実務検定・日商簿記検定・全経簿記検定の資格取得を目指す。

＊見て分かる授業に力を入れています。

一人ひとりの聴覚障がいに応じた指導方法に基づいて、高等学校の教育課程に準じたカリキュラムや自立活動を重点に置いたカリキュラムで学習しています。また、学習習熟度に合わせたグループ編成の上、TV や書画カメラなどの視覚機器やロイロノート・スクールといった協働学習ツールを活用し、見て分かる教科指導を行っています。

＊資格取得に力を入れています。

学習の目標の一つとして資格取得を推奨しており、各種の検定に合格者を出しています。日本漢字能力検定や英語検定は本校を準会場として受験することがあり、特に英語検定のリスニングテストは、聴覚障がい者対応の特別措置のもとで受検することができます。

《　最近３年間における取得実績　》

漢字検定２級、数学検定準２級、英語検定２級、日商簿記検定２級、全経簿記検定（商簿・工簿）各 2 級複数名、全商ビジネス文書検定１級複数名、全商情報処理検定２級複数名　等

＊部活動もあります。

部員数少数の良さを生かした指導をしますので、技量の上達のみならず、他学部他学年との交流を通した精神的成長も期待できます。ろう学校の各大会（関東地区・全国）や、中高等学校の大会にも参加し、成果を収めています。

《　令和６年度実績　》

全国聾学校卓球大会男子個人戦・団体戦出場、全国聾学校陸上競技大会男子総合５位

＊自立と社会参加をめざし、進路指導にも力を入れています。

自立活動を通して、自らの障がい理解を深め、自発的に行動し解決しようとする能力や態度の育成を目指しています。進路に関しては、生徒の希望や特性を考慮し、進路希望調査の実施や職場見学、体験実習、オープンキャンパス見学などを通して勤労観を育む取組をしています。卒業後のアフターフォローにも力を入れています。

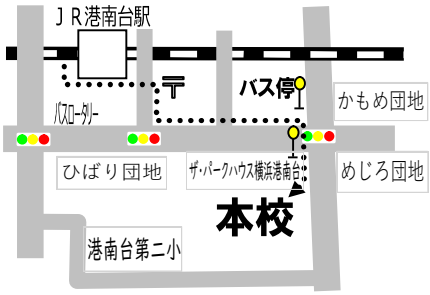
	横浜市立	こうなんだいひのとくべつしえんがっこう 港南台ひの特別支援学校	

所在地：〒234−0054
横浜市港南区港南台五丁目3番2号
電　話：045-830-5826
FAX：045-830-5753
URL：http//www.edu.city.yokohama.jp/sch/konandai-hino/
創　立：昭和 46 年4月
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
高 等 部 生 徒 数

	1 年	2 年	3 年	合計
知的障害教育部門	23	27	23	73

（生徒数は令和7年5月1日現在）

〈学校案内図〉
利用交通機関
● JR港南台駅徒歩 8 分
● 市営バス 45/64 系統
「港南台中央」下車、徒歩 1 分



●学校教育目標

「たくましく　こころゆたかに　生きていく子」

○ いろいろなことにとりくみ、できることをひろげよう。（知）
○ じぶんをたいせつにし、ひとにやさしくしよう。（徳）
○ じょうぶなからだをつくろう。（体）
○ ともだちをつくり、たすけあおう。（公）
○ あたらしいことにチャレンジしよう（開）

●教育内容
本校では、各教科・領域指導の充実を目指し、大きく3つの学習形態で指導を展開しています。
具体的には、①教科・領域の指導
②教科・領域を合わせた指導（日常生活の指導・課題学習・作業学習・道徳）
③学習活動全般にかかわる指導（余暇の指導・社会性の学習・キャリア教育）
です。学校教育目標の達成を目指し、これらの学習形態を効果的に活用しながら、学びの定着、発展に取り組んでいます。

●高等部教育目標
「地域・社会へ貢献し、自己の有用性を実感できる豊かな社会生活を送るために必要な力を身につけます」

●高等部の成長過程の目標
○ 学びが社会へ繋がっていくことを目指し、自分で考え、行動する意欲・力を育てます。（知）
○ 自他を認め、まわりの人に優しく接する気持ちを育みます。（徳）
○ 運動やスポーツへの多様なかかわり方を知り、健康的な毎日を過ごせる体を育てます。（体）
○ 地域や社会の中で互いを認め合い、他者と協働して生きていく力を育てます。（公）
○ 多様性を尊重し、地域・社会に貢献する力を育てます。（開）

	横浜市立	ほんごうとくべつしえんがっこう 本郷特別支援学校	

所在地：〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷三丁目37番12号
電　話：045-894-2952
ＦＡＸ：045-894-2954
ＵＲＬ：
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/hongo/
創　立：昭和54年４月
学　部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
生徒数	23	12	18	53

（生徒数については令和７年５月１日現在）

１　高等部の教育

・学校教育目標　「わかって動ける力を身につけます」
「適切なコミュニケーション力を身につけます」
「心身ともに健康・安全に生活する力をみにつけます」

ほっくん
本郷特別支援学校
マスコットキャラクター

高等部の主な行事

【　前期　】

４月	５月	６月	７月	９月
入学式 新入生歓迎会 家庭訪問 （３年宿泊学習）	運動会 生徒会選挙 ３年現場実習 →	個人面談 水泳指導 →	地域公共施設訪問 →	個人面談 （１年宿泊学習）

【　後期　】

１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
３年現場実習 → 授業参観・懇談会 （２年修学旅行）	ほんごう祭	個人面談 → １・２年校内実習 高等部入学検査	２年体験実習 →	遠足 卒業生を送る会 個人面談	卒業式 修了式 →

２　卒業後の進路

日々の学校生活や作業学習、実習などを通じて自らの長所を伸ばし、課題に向き合うとともに、一人ひとりの希望や障害の特性に応じた進路を選べるよう、個に応じた支援を行っています。また、社会人として必要なルールやマナーを学んでいます。進路先は、福祉的就労、生活介護事業所への通所など、さまざまです。

横浜市立

日野中央高等特別支援学校

（ひのちゅうおうこうとうとくべつしえんがっこう）

所在地：〒234-0053
横浜市港南区日野中央 2-25-3
電　話：045-844-3015
ＦＡＸ：045-846-8448
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/hinochuokoto/
創　立：昭和 56 年 4 月 1 日
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障害部門	64	63	66	193

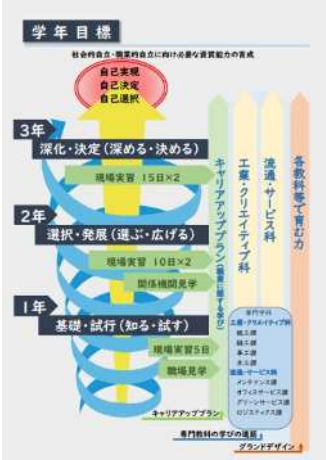
(生徒数については令和７年５月１日現在)

＜学校案内図＞
利用交通機関
●京急・市営地下鉄上大岡駅より市バス 111 系統「洋光台北口」下車徒歩１分
●ＪＲ根岸線洋光台駅より市バス 111(上大岡行き)・112 系統(上永谷行き)「洋光台北口」下車徒歩１分

＜学校教育目標＞
○自ら学び、人と共に、より良い明日をつくる生徒を育成します。

日野中央高等特別支援学校では、スクールポリシーを基本として学校教育目標の具体な取り組みを進めていきます。

学年目標を設定することで学びの道筋を示し、グランドデザインに基づき、全教科で教育活動を展開し本校に関わる全ての人にとって優しく、分かりやすい学校を目指します。



＜本校の特色＞
○専門学科○

専門実習：工業・クリエイティブ科（木工課、紙工課、縫工課、革工課）と流通・サービス科（メンテナンス課、グリーンサービス課、オフィスサービス課、ロジスティクス課）の８課から選択し学習します。１・３年と２・３年で縦割り（合同）学習をします。

１年：各学科から１課を選択し、２課での取り組みで基礎的基本的な態度や技能を身につけます。

２年：１年時に履修した２課から１課を選択し、自分の役割を理解し、仲間と協力して、主体的に働く意欲や態度を育てます。

３年：自己の力を確かなものとし、主体性や協調性の向上を目指します。

○職業に関する学習○

職業情報：働くことの意義について理解を深め、実習に取り組むための意識を育て、職場に必要な態度を身につけます。

現場実習：１年の後期から企業や関係機関の方々の協力の下、現場実習を実施します。学習の中で培ってきた力を現場で実践し、地域社会の中で、自立した生活をする力が備わっているかを確認する総仕上げと位置づけています。

卒後支援：関係機関等とも連携をとりながら、進路先への定着を図っています。

	横浜市立	ふたつばしこうとうとくべつしえんがっこう 二つ橋高等特別支援学校	

所在地：〒246-0021
横浜市瀬谷区二ツ橋町470番地
電　話：045-391-2131
ＦＡＸ：045-391-2193
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/futatsubashikoto/

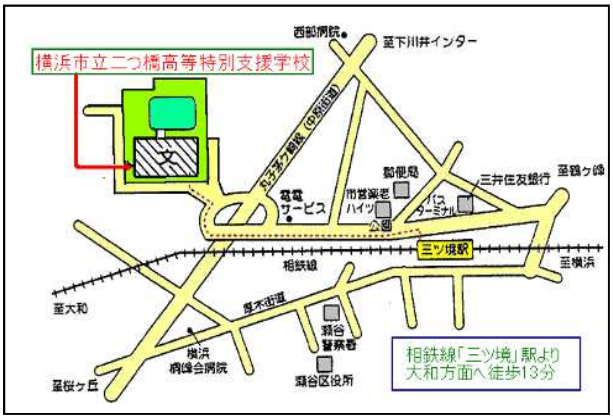
創　立：平成19年４月１日
学　部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	１年	２年	３年	合計
知的障害部門	48	43	46	137

（ 生徒数については　令和７年５月１日現在 ）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●相鉄線三ツ境駅より線路沿いに徒歩13分



●学校教育目標　（**上は生徒たちの目標**、◎は教職員の目標です。）

（１）**「働　く」：主体的に社会貢献できる職業人をめざします。**
◎働くことを目指した学びを通して、働く意味や喜びを知り、主体的に社会とつながり、もてる力を発揮し貢献する力を育てます。

（２）**「自　立」：社会や他者とつながりがもてる自立した社会人をめざします。**
◎社会とつながり、多様な人々との交わりを通して、自己の理解を深め、他者と協働しながら自分らしく社会生活を送ることができる力を育てます。

（３）**「自己実現」：自分の幸せを思い描き、実現していく人をめざします。**
◎社会や他者を尊重し、自己の夢や希望に向かって、自分らしく幸せに生活するために自分の人生を自分で選び、決定し、実現していく力を育てます。

●指導・支援の重点

（１）自ら考えを深め、自己表現、自己決定の力を育てます。
○自分らしく豊かな生活を送るために、ものごとを捉える視点や考え方（教科等を中心として見方・考え方）を働かせて、生きた知識を習得し、思考力・判断力・表現力を豊かにする教育をすすめます。
○自分らしく社会生活を送るための力を育成することをめざします。

（２）一人ひとりのキャリア発達と社会的ニーズに応じた職業教育を進めます。
○一人ひとりのキャリア発達を踏まえ、社会状況の変化に応じて、多様化している就労ニーズに基づいた職業教育を進めます。

（３）地域、関係機関、企業等との協働による就労支援を進めます。
○働くことに意義や喜びを見出せるように、地域・関係機関・企業等との協働による取組を進めます。

（４）自己理解を深め、自立生活の実現をめざします。
○一人ひとりの教育的ニーズに応じた活動を通して、自己理解を深め、自分の課題や社会的な課題の解決に向けた態度の育成を進めます。

（５）文化やスポーツを、自ら「学び」「創り」「協働」する機会を重視した教育を進めます。
○生涯を通して 芸術やスポーツと豊かにかかわり、他者と協働しながら自分らしく幸せに生活する素地を育む教育を進めます。

上菅田	横浜市立	かみすげたとくべつしえんがっこう 上菅田特別支援学校	

所在地：〒240-0051

横浜市保土ヶ谷区上菅田町 462

電　話：045-382-0420

ＦＡＸ　：045-382-0413

ＵＲＬ　：

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/kamisugeta/

創　立：昭和 49 年 4 月 1 日

学　部：小学部、中学部、高等部（肢体不自由教育）

本校高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
肢体不自由教育部門	12	17	24	53

（生徒数については令和７年５月１日現在）

交通

◎横浜駅西口バスターミナルより

(1)市バス 92 系統　急行「笹山団地」行にて
寺下橋下車、徒歩５分。

(2)相鉄バス浜 13「上星川駅」行　七里堰下車、徒歩６分

(3)相鉄バス浜 83 系統「上菅田東部公園」行
終点下車、徒歩１分

◎相鉄線上星川駅下車　国道 16 号バス停より

(4)相鉄バス浜 13「横浜駅西口行（羽沢経由）」
七里堰下車、徒歩６分

学校教育目標

自分らしく豊かに学び 輝き 生きる力を育てます

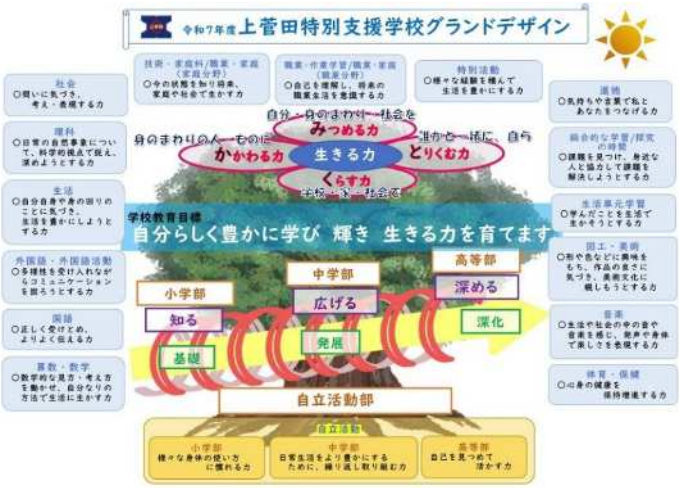
○自らの思いや考えを深め豊かに表現する力を育てます（知）

○自分を大切にし、人を思いやるやさしさを育てます（徳）

○健康で心豊かに安全に生活する力を育てます（体）

○地域・社会の一員として生きる力を育てます（公）

○様々な人と共に生き、未来をつくる力を育てます（開）



高等部年間行事計画（予定）

4	前期始業式 入学式　保護者会　新入生歓迎会 避難訓練 防災学習会
5	個人面談・家庭訪問
6	高２宿泊学習
7	授業参観　高等部入学希望者説明会
8	
9	個人面談
10	前期終業式　　後期始業式　高１宿泊学習 総合防災訓練　スポーツフェスティバル
11	高２修学旅行
12	＊高等部入学検査 ＊高等部入学検査結果発表 高等部オープンスクール　授業発表会
1	保護者会
2	マーケット　高３卒業遠足 個人面談　卒業を祝う会
3	卒業証書授与式　修了式 ＊新転入生保護者説明会

	横浜市立	なかむらとくべつしえんがっこう 中村特別支援学校	

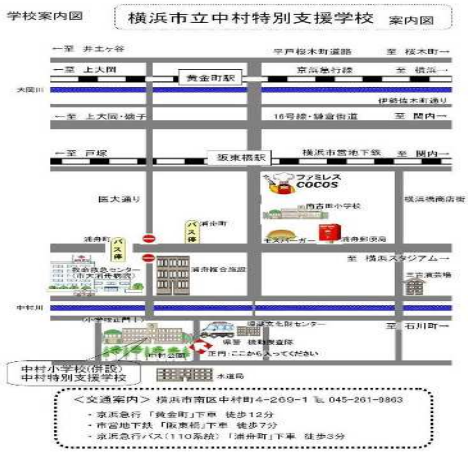
所在地：〒232-0033 横浜市南区中村町４-269-１
電　話：045-261-9863
ＦＡＸ：045-261-9872
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/nakamura/
創　立：昭和 57 年４月
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
＊平成 28 年に横浜医療福祉センター港南内に港南分教室を開設

高等部生徒数

肢体不自由教育部門	1年	2年	3年	計
本校	4	9	3	16
港南分教室	3	3	0	6

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関



横浜市立中村特別支援学校のめざす教育

保護者　地域　教職員　関係機関

思い・願い

学校教育目標

ともに学び、ともに生きる力を育み、一人ひとりが共生社会の中で自分らしく生きる力を高めます。

（知）自分の強みを生かし、主体的に学ぶことで、選択・決定する力を育む
（徳）自分や他人を思いやり、自他を大切にする心を育む
（体）自分の心と身体に向き合いながら、安心安全に生活する力を育む
（公・開）自立や社会参加に向けて、コミュニケーションの力を育む

「個別の教育支援計画」個別の教育支援計画を充実させて、一人ひとりに応じた教育を進めます。
「連　　携」保護者や福祉・医療等の関係諸機関との連携を密にして、児童生徒の学習や社会参加、地域生活がより充実したものになるように支援します。
「交流教育」同年代や同地域の子どもたちとの関わりを大切にした、副学籍による交流を積極的に推進します。
「進　　路」社会参加を推進して、卒業後の生活を見据えた教育を進めます。
「医療的ケア」健康状態に留意して適切な配慮のもと、養護教諭、看護師、教員が連携して学校生活を快適に過ごせるようにします。
「コミュニケーション」 ふれあいを通して気持ちや要求を伝えようとする意欲をはぐくみます。

高　等　部

(知)　小学部、中学部で培った力を発揮し、夢の実現に向けて、仲間や教員と一緒に充実した学校生活を送ることができるように支援します。
（徳・体）医療や福祉との連携の中で、安定した健康状態で過ごせるよう支援します。
（公・開）社会参加をする中で、自分の感情や要求を積極的に表現する力を高められるように支援します。

	横浜市立	わかばだいとくべつしえんがっこう 若葉台特別支援学校 （横浜わかば学園）	

所在地 ：〒241-0801 横浜市旭区若葉台2丁目1－1
電話 ： 045-923-1300
FAX ： 045-923-1305
URL ： http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/wakabadai/
創 立 ：平成25年1月1日 肢体不自由教育部門（A部門）
緑区新治町から移転・校名変更し開校
4月1日 知的障害教育部門（B部門）高等部を開設
学 部 ：A部門；小学部、中学部、高等部
B部門；高等部

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体A部門	8	6	5	19
知的B部門	28	28	25	81

（生徒数については令和7年5月1日現在）

<交通機関>
JR十日市場駅 バス「若葉台近隣公園前」
東急田園都市線 青葉台駅
バス「若葉台近隣公園前」
相鉄線「三ツ境駅」 バス「若葉台南」

学校教育目標

○一人ひとりを大切にした教育を行い、地域とともに歩み、自立と社会参加を目指す教育を充実させます。

教育方針［A部門］

○個に応じた指導を行います。
○集団づくりを目指した指導を行います。
○子どもをとりまく人々との連携をはかります。
○学校や地域の特色を生かした指導を行います。
○全教職員の協力のもと充実した指導を行います。

教育方針［B部門］

○3年間で就労を目指します。
○キャリア教育によりコミュニケーション力・マナー・折れない心を育てます。
○特色；横浜市立3校目の高等特別支援学校として設置され、現在10期生までが卒業し、社会で活躍しています。
① 地域に展開する校内実習（オフィスサポート・ビルメンテナンス・パン工房（カフェわかば））
② A部門との交流及び共同学習
③ 現場実習の積み重ねで育てる「進路選択できる力」
④ 現場実習と校内実習をつなげる「キャリアデザイン」
⑤ 教科学習の充実（社会自立に必要な基礎学力・基礎体力）

高等部の主な年間行事計画

4	入学式 始業式 対面式 ☆スポーツデー
5	運動会 ☆高2修学旅行
6	○高3進路校外実習 ☆職場見学・現場実習
7	○夏季施設見学
8・9	○高1遠足 ○高2進路面談 ☆期末テスト
10	ふれあい交流デー 前期終業式 後期始業式 ☆現場実習 ○高3修学旅行
11	オープンスクール週間
12	○学習発表展覧会 ☆スポーツデー
1	☆現場実習 ☆職場見学
2	卒業を祝う会 ☆期末テスト
3	卒業証書授与式 修了式 ☆学習発表会

○はA部門 ☆はB部門

	横浜市立	きたつなしまとくべつしえんがっこう 北綱島特別支援学校	

所在地：〒223-0053
横浜市港北区綱島西5－14－54
電　話：045-545-0126
ＦＡＸ：045-545-0146
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/kitatsunashima/
創　立：昭和60年横浜市立大綱養護学校として開設
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由障害部門）
＊平成19年 済生会横浜市東部病院 重症心身障害児(者)施設
サルビアに分教室を開設

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	3	5	3	11

（生徒数については、令和７年５月１日現在）

学校へのアクセス
●横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉本町駅」下車　徒歩１０分
●東急東横線「綱島駅」下車　徒歩１７分 ／ 東急新横浜線「新綱島駅」下車　徒歩１８分

本 校 の 特 色

1　交流教育

本校では、次のような交流に取り組んでいます。
（１）隣接校である北綱島小学校との交流
（２）近隣の小学校・中学校との交流
（３）地域交流（ふれあい教室、トマト狩り、買い物、地域の諸団体との交流）

2　訪問教育

本校は、重度の重複障害のある児童生徒が多く在籍しています。健康上の理由等で通学できない児童生徒のために、教員が家庭に訪問して学習を行う訪問教育を行っています。

3　摂食機能に応じた学校給食

本校の給食は、「健康の保持増進」「摂食機能の改善と向上」「食事動作の獲得」「食事に対する意欲的な態度の育成」「人間関係の育成」の五つの目標をもとに、一人ひとりに応じた個人目標を設定し、指導にあたっています。

4　地域関係機関との連携

本校では、ニーズに応じた5つの地域支援活動に取り組んでいます。
（１）子どもたちへの支援（地域資源を活用した学習、各区の生活支援事業への継続的な参画等）
（２）家庭への支援（学校資源の家庭や訓練会への提供）
（３）小中学校への支援（センター的機能の確立、相談機能の充実）
（４）地域関係機関との連携（地域への広報、公開授業、就学前機関や進路先との連携充実）
（５）ボランティア（ボランティア組織の確立、ボランティアに関する啓発、障害理解の推進）

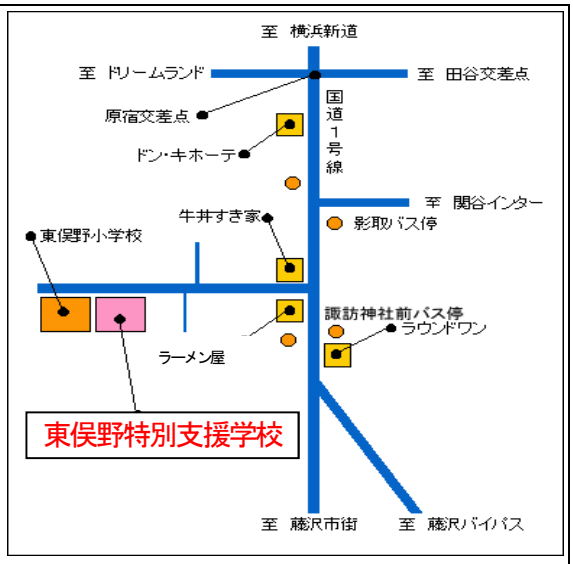
横浜市立

ひがしまたのとくべつしえんがっこう

東俣野特別支援学校

所在地：〒245-0065　横浜市戸塚区東俣野町1103-1
電　話：045-851-9631（代）
ＦＡＸ：045-851-9632
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/higashimatano
e-mail：yse-mata@edu.city.yokohama.jp
創　立：昭和61年４月１日
学　部：小学部、中学部、高等部
＜主に肢体不自由教育＞
（高等部は平成23年４月１日より自校化）

① ＪＲ戸塚駅西口　戸塚バスセンターより
神奈中バス藤沢行き　「影取」下車７分
② ＪＲ藤沢駅北口　さいか屋前より
神奈中バス戸塚バスセンター行き
「諏訪神社前」下車８分



高等部生徒数

	通　学			訪　問			
学年	１年	２年	３年	１年	２年	３年	計
人数	1	3	1	0	0	0	5

（生徒数は令和７年５月１日現在）

＜学校教育目標について＞
○学校教育目標
「えがおいっぱい」「ふれあいいっぱい」「あたたかさいっぱい」
・気持ちや思いを表現する力を育てます。　（知）（徳）
・健康な体と豊かな心を育てます。　（体）（徳）
・地域の一員として、自立する力を育てます。　（公）（開）
○高等部教育方針
東俣野特別支援学校高等部は小・中学部の教育をふまえ、高等部までの一貫した教育を通して、教育目標の具現化をはかることを教育方針としています。
＜高等部進路について＞
・「個別の教育支援計画」をもとに、生徒一人ひとりにあった進路を支援します。
・社会参加と自立の観点から、自己の個性や興味、関心を生かした進路に関する見学や実習を行い、将来を自ら選択できるように支援します。
・特別支援教育コーディネーターと学級担任が中心となり、関係諸機関との連携を密に進めていきます。
・生徒と家族の生活全般を考える視点で、福祉サービスの利用、関係諸機関と家族の連携などを深めるよう働きかけます。

高１ 高２	・進路説明会 （４月　学級懇談会、９月　高全体） ・見学・実習希望調査 ・進路個別面談（随時） ・事業所見学（夏季、冬季、随時） ・進路懇談会（12月ＰＴＡ主催）	・１日体験実習　適宜 ・高２進路面談（２月）
高３		・ＣＷ懇談会 ・進路面談（９月、11月） ・現場実習（６～11月）

＜交流教育＞
本校は、同時開校した東俣野小学校と同一敷地内にあります。校舎がつながっているため、子どもたちは自由に行き来できるようになっています。本校の交流は大きく４つに分けることができます。
１．東俣野小学校（隣接小学校）との交流
①ペアクラス交流（本校小学部と小学校１年・４年で１年間一緒に計画的・継続的に行う）
②ふれあい交流（中休み、昼休み）　③運動会交流（小中高等部と小学校低中高学年）
２．学校設置地域との交流　（地域行事への参加、出店や散策など、地域の方々との触れ合い）
３．近隣学校との交流
４．居住地域の学校との交流（副学籍による交流教育）

横浜市立

さこんやまとくべつしえんがっこう
左近山特別支援学校

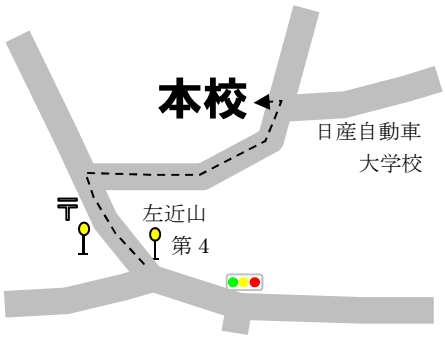
所在地：〒 241-0831
横浜市旭区左近山 1011
電　話：045-352-1580
ＦＡＸ：045-352-1582
ＵＲＬ：http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/sakonyama/
創　立：平成 31 年４月
学　部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	合計
肢体不自由教育部門	1	2	6	9

（生徒数は令和７年５月１日現在）

〈学校案内図〉
利用交通機関
※相鉄線「二俣川駅」南口より
相鉄バス「旭１or 旭６」に乗車
「左近山第４」下車、徒歩５分



1　学校教育目標

「一人ひとりが持てる力を発揮し、みんなと一緒に育つ」

～一人ひとりの願いや思いを大切にし、生きる力を育む～

（１）主体的に学び活動することで、将来必要となる力を育む。・（知）
（２）自分ができそうなことに挑戦する力を育む。・・・・・・・・・・・・・（徳）
（３）自分の体と向き合いながら、明るく活動する力を育む。・・・（体）
（４）友だちや様々な人と共に活動する力を育む。・・・・・・・・・・・・・（公）
（５）自分の考えや思いを伝え合う力を育む。・・・・・・・・・・・・・・・・・（開）

2　指導内容と指導形態

【指導内容】
・教科
・知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校に設定されている教科
・自立活動
・特別活動
・総合的な探求の時間
・特別の教科 道徳

【指導形態】
・学部や学年・クラスで学ぶ
　➡ ホームルーム、特別活動、総合的な探求の時間 など
・グループ等で学ぶ
　➡ 各教科 など
・個々で学ぶ
　➡ 自立活動 など

3　訪問教育

障害の状態や家庭の事情等で通学が困難な児童生徒には、訪問教育を行っています。保護者と相談しながら、児童生徒の実態に応じて訪問の回数、時間、指導内容等を定めて指導を行います。

川崎市立

聾（ろう）学（がっ）校（こう）

所在地：〒211-0053　　神奈川県川崎市中原区上小田中３－１０－５
電　話：044-766-6500
ＦＡＸ：044-766-5174
ＵＲＬ：http://kawasaki-edu.jp/4/20101rou/
創　立：昭和 28 年４月１日
学　部：幼稚部（乳幼児相談含）
　　小学部・中学部・高等部

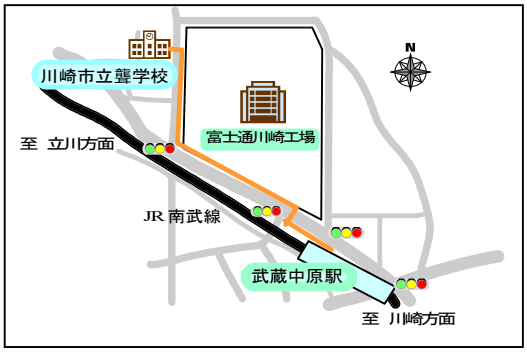
高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
普通科	１	０	０	１
ﾗｲﾌｸﾘｴｲﾄ科	７	１	３	１１

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関：JR 南武線
武蔵中原駅より徒歩８分



＜ 学校教育目標 ＞

◎豊かな言語力と確かな基礎学力
◎自他ともに大切にする心と自主的に行動する力
◎心身ともに健康で、社会を生きぬく力

＜ 全校研究テーマ ＞

「学ぶ意欲を引き出す
　　授業づくりの工夫」

＜ 高等部重点目標 ＞

◎基礎的な知識・技能を獲得し、応用する力を育む
◎互いを尊重し、協働する力を育む
◎健康な心身を維持し、自分らしい豊かな生活を送る力を育む

＜ 部活動 ＞

陸上部　　卓球部
創作部　　パソコン部

＜ 高等部の主な行事予定 ＞

＊学校説明会	６月　３日（火）
＊修学旅行	６月２４日（火）～
	６月２６日（木）
＊かしわ祭（文化祭）	１１月　１日（土）
＊入学検査	１月１５日（木）
＊入学説明会	２月１０日（火）
＊卒業遠足	２月２６日（木）
＊卒業式	３月１２日（木）

＜ 卒業後の進路状況 ＞

就職：菱信データ株式会社
　　住友ベークライト株式会社
　　横浜建物管理協同組合
　　株式会社ＪＡＬサンライト
　　株式会社ＪＡＬメンテナンスサービス　他
福祉：ダンウェイ　ウイングビート　はたらいふ　他
進学：国立筑波技術大学　　亜細亜大学　明治大学　他

川崎市立

ちゅうおうしえんがっこう

中央支援学校

所在地：〒213-0011　川崎市高津区久本３－７－１
電　話：044（844）1275
ＦＡＸ：044（822）7072
ＵＲＬ：http://kawasaki-edu.jp/4/30105tyuou/
創　立：昭和３７年４月１日
学　部：中学部・高等部（知的障害教育部門）

生徒数

	１年	２年	３年	計
高等部	48	47	44	139

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●JR 南武線武蔵溝ノ口駅・
東急田園都市線溝の口駅下車
徒歩 10 分

【学校教育目標】

「自己理解」「自己選択」「自己決定」

＜めざす児童生徒像＞
・自分を大切に、友だちを大切にする児童生徒　＜自己理解＞
・自分の好きな事、得意なことを大切にする児童生徒　＜自己選択＞
・自分の未来を大切にする児童生徒　＜自己決定＞

＜重点取組目標＞
(1)「人権尊重教育」：主体者である児童生徒一人ひとりの「願い」を実現させる教育活動に取り組みます。そのため、「自立活動」の目標を横断的に捉え、育てたい力を学校教育活動全体を通して育む指導に取り組みます。
(2)生徒が「楽しい」「わかった」「できた」と実感できる授業。学びの「必然性」の意識した取り組み。ICT 機器の有効活用に取り組みます。
(3)一人ひとりのライフステージに応じた進路指導・支援を充実させます。
(4)「安全教育」：児童・生徒の安全や健康に配慮し、生命を大切にした教育を行います。

＜ 高等部教育目標 ＞
(1)基本的な生活習慣を身につけ、自ら選び判断する力を育てる。
(2)一人一人の将来の目標に向けて、体験・学習を通して社会生活力を育てる。
(3)仲間を大切にし、集団の中で協力し合い、自らの思いを表現できる力を育てる。
(4)働くために必要な知識・技能・態度を養い、社会の中で自立できる力を育てる。

川崎市立

ちゅうおうしえん　がっこう　ぶんきょうしつ

中央支援学校分教室

所在地：〒213-0053　川崎市中原区上小田中３－10－５
（川崎市立聾学校内）

電　話：044-755-5666

ＦＡＸ：044-755-5666

ＵＲＬ：http://kawasaki-edu.jp/4/20308tyuou-koubun/

設　置：平成 23 年４月

学　部：高等部（知的障害教育部門）

生徒数

	１年	２年	３年	計
高等部	20	21	19	60

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●JR 南武線武蔵中原駅　徒歩８分

＜教育目標＞

１．企業就労に必要な知識・技能・態度を養い、職業自立ができる力を育てる。
２．地域・社会で生きるための課題解決及び自己表現の力を育てる。
３．健康安全の意識を高め、それぞれの生活習慣を確立し、自己管理できる力を育てる。
４．自他ともに認め合い大切にできる、豊かな心を育てる。

＜職業及び社会的な自立にむけての取り組み＞

	校内授業	校外授業及び実習	職業1・総合的な探求の時間
1年次	ビルクリーン作業 ・清掃用具の基本操作 ・色々な場所の清掃 ・コミュニケーション	・働くことへの意識づけ ・社会マナーの学習 ・企業見学　・校内実習 ・エポックなかはら 大戸分教室で週1回の体験的作業（2業種）	・自己理解 ・仲間作り ・生活習慣作り ・社会生活マナー ・ビジネスマナー ・問題解決力
2年次		・他企業で週1回の体験的作業（2～3業種）	
3年次	・後輩への技能伝達 パソコン練習	・前期体験実習 ・後期体験実習 ・前期現場実習 ・後期現場実習	・自己表現 ・伝達 ・プレゼンテーション

川崎市立

たじましえんがっこう
田島支援学校

所在地：〒210-0853　川崎市川崎区田島町２０－５
電　話：044-355-1240
ＦＡＸ：044-333-6103
ＵＲＬ：http://kawasaki-edu.jp/4/70102tazima/

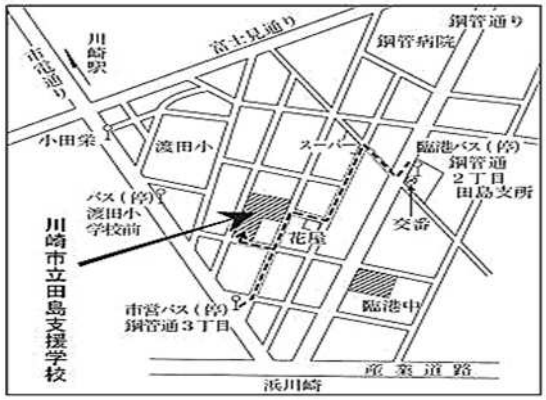
創　立：昭和 61 年４月１日
学　部：高等部（知的教育部門・肢体教育部門を設置）
※田島支援学校桜校に小・中学部、さくら分教室に小学部があります。

― 高等部生徒数 ―

	１年	２年	３年	計
肢体教育部門	1	3	1	5
知的教育部門	46	52	53	151
計	47	55	54	156

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞
利用交通機関
●JR 川崎駅より【川崎市営バス】川 40 系統
＜JFE 行＞＜水江町行＞＜塩浜営業所行＞
「鋼管通３丁目」下車 徒歩３分
●JR 川崎駅より【臨港バス】川 24 系統
＜鋼管循環＞
「鋼管通２丁目」下車 徒歩５分



川崎市立田島支援学校の教育理念と教育目標

豊かなかかわり合いを通して育ちあう
～　相互輔生（互いに優しく、互いに育ちあう）の関係を構築します～

田島支援学校では、児童生徒を学習面・行動面・対人関係において、総合的に教育することが大切であると考えています。そのためには、児童生徒と教職員の豊かなかかわりが必要となります。学校においては、子どもたち同士やかかわる大人が、互いに優しく互いに育ちあう相互輔生の関係を構築することを教育の理念とします。この児童生徒と教師の関係を土台に、小学部・中学部・高等部といった連続性のある学習内容の指導、行動面、対人関係面での成長を促す指導を実施します。

高等部における“めざす子ども像”（育成する資質・能力）
○自ら興味関心の幅を広げ、相手に伝わるように発信する生徒（知育）
○人との関わりの中で、自他を認め、判断し行動する生徒（徳育）
○自分の心と身体への理解を深め、主体的に活動する生徒（体育）

教育の視点（学校教育目標）
○自分の気持ちが伝わり、分かり合える経験を通して、自分を大切にする力を育てる。
○基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。
○人やもの・自然や社会とのかかわりを通して、共に生きる力を育てる。
○自ら考え決定する経験を通して、豊かに生きる力を育てる。
○自らの「からだ」と「感じる心」を大切にし、健やかに生きる力を育てる。

※高等部では、肢体教育部門Ⅰ・Ⅱコース、知的教育部門は２年次よりⅢ・Ⅳ・Ⅴコースのコース制を導入しています。

令和６年度　卒業生進路状況		
企　業		15 名
就労支援	移行	4 名
	継続	12 名
生活介護		8 名
地域活動		2 名
職業訓練		0 名
自立訓練		3 名
その他		1 名

横須賀市立

ろうがっこう
ろう学校

所在地　〒238-0023
横須賀市森崎５丁目 13 番地１号
電話　046-834-1172
FAX　046-834-0096
ことばやきこえの教室　電話 046-834-4469
E-mail　admini@rou-sd.yknet.ed.jp
U R L　https://s-rou.yokosukacity.andteacher.jp/
創立　昭和４年５月 28 日
学部　幼稚部・小学部・中学部・高等部
ひよこ教室(乳幼児)
ことばやきこえの教室（通級）
高等部生徒数（令和７年５月１日現在）

	1年	2年	3年	計
高等部	1	0	3	4

○バス　・衣笠十字路から井戸店下車　徒歩５分
・衣笠十字路から森崎５丁目下車　徒歩２分
・北久里浜駅から森崎リアンシティー前下車　徒歩６分
・北久里浜駅から森崎５丁目下車　徒歩２分
○車　横横道路　衣笠インターから衣笠方面
井戸店交差店を右折

１．聴覚障がいに対応した教育活動を実施しています。
①次の目標で自立活動を実施しています。
・日本語の力を伸ばす　・個々のニーズにあったコミュニケーション手段を活用する。
・障がいを認識し、社会に目をむける　・聴覚の活用、管理ができるようにする。
②聴覚障がいに対するさまざまな検査・指導を実施しています。
・裸耳聴力測定と補聴器装用時の聴力測定の実施
・補聴器に関する相談と管理、フィッティングの実施
・発音調査と発音指導の実施
２．さまざまな進路に対して個別対応を行っています。
・一般コース（対象：就職、訓練校等）
（高等部１年から３年まで毎年職場実習を行い、就職指導に力を入れています）
過去の進路先：神奈川県障害者能力開発校、製造業 他
・進学コース（対象：大学進学）
過去の進学先：筑波技術大学、横浜国立大学、関東学院大学、横浜美術大学
３．特別活動等
・生徒会活動、修学旅行２泊３日
・学校行事（かしわ祭、運動会）の取組
・部活動：運動部、文化部

	藤沢市立	しらはまようごがっこう 白浜養護学校	

所在地：〒251-0046　藤沢市辻堂西海岸１－２－２

電　話：０４６６（３３）１５００

ＦＡＸ：０４６６（３７）１０６６

ＵＲＬ：http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/shshi/

創　立：１９６２年（昭和３７年）４月

学　部：小学部・中学部・高等部（知的障がい教育部門）

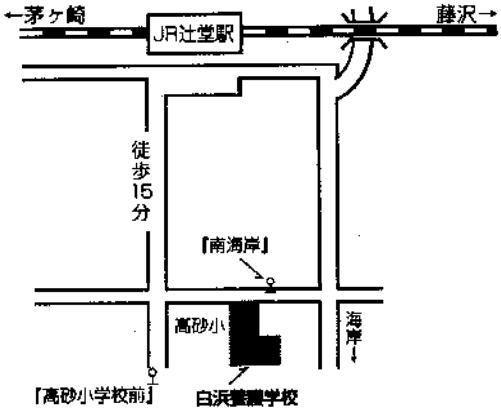
高等部生徒数

	１年	２年	３年	計
知的障がい教育部門	14	12	15	41

（生徒数については令和７年５月１日現在）

＜学校案内図＞ 利用公共交通機関

- JR 東海道線辻堂駅より徒歩 15 分
- 藤沢駅北口から「辻堂団地」行きバス 15 分
  バス停「南海岸」下車徒歩１分



学校教育目標　～子ども一人ひとりが生き生きと活動する学校生活をめざして～

児童生徒一人ひとりの能力や特性、心身の状態に応じた指導を行い、生きる力をはぐくむ。

高等部の教育目標　『主体的に生きる力と働く力を育む』

（１）日々の学習や生活に意欲的に取り組み、自分の可能性を拡げようとする姿勢を育てる。

（２）自分の意志を人に伝えると同時に、周りの人の気持ちや考えを受け止め、豊かな人間関係を築く力を育てる。

（３）社会生活に必要な基本的知識や技能を身につけ、働くことを学びながら主体的に社会参加ができる力を育てる。

（４）健康な身体と豊かな心を育み、生き生きとした楽しい生活を送ることができる力を育てる。

本校高等部の教育課程編成のポイント

一人ひとりの発達段階や特性に応じたグループ編成を行うことで、学習効果を高め、卒業後の社会生活への円滑な移行に取り組んでいきます。

○ 学年、学級グループ〈A課題、音楽、美術、体育、ＬＨＲ、総合、特別活動、日常生活の指導〉

・基礎集団としての学年や学級で、互いに理解しあい、共感しあう喜びを知る。

○ 学年を越えた課題別学習グループ〈B課題、作業、選択〉

・個別の教育的ニーズに対応し、きめ細かな指導に重点をおく学習グループ。

高等部日課表

資　　料

令和７年５月現在

神奈川県内の特別支援学校一覧（県立）

凡例

幼；幼稚部	視；視覚障害教育部門
小；小学部	聴；聴覚障害教育部門
中；中学部	知；知的障害教育部門
高；高等部本科	肢；肢体不自由教育部門
専；高等部専攻科	病；病弱教育部門

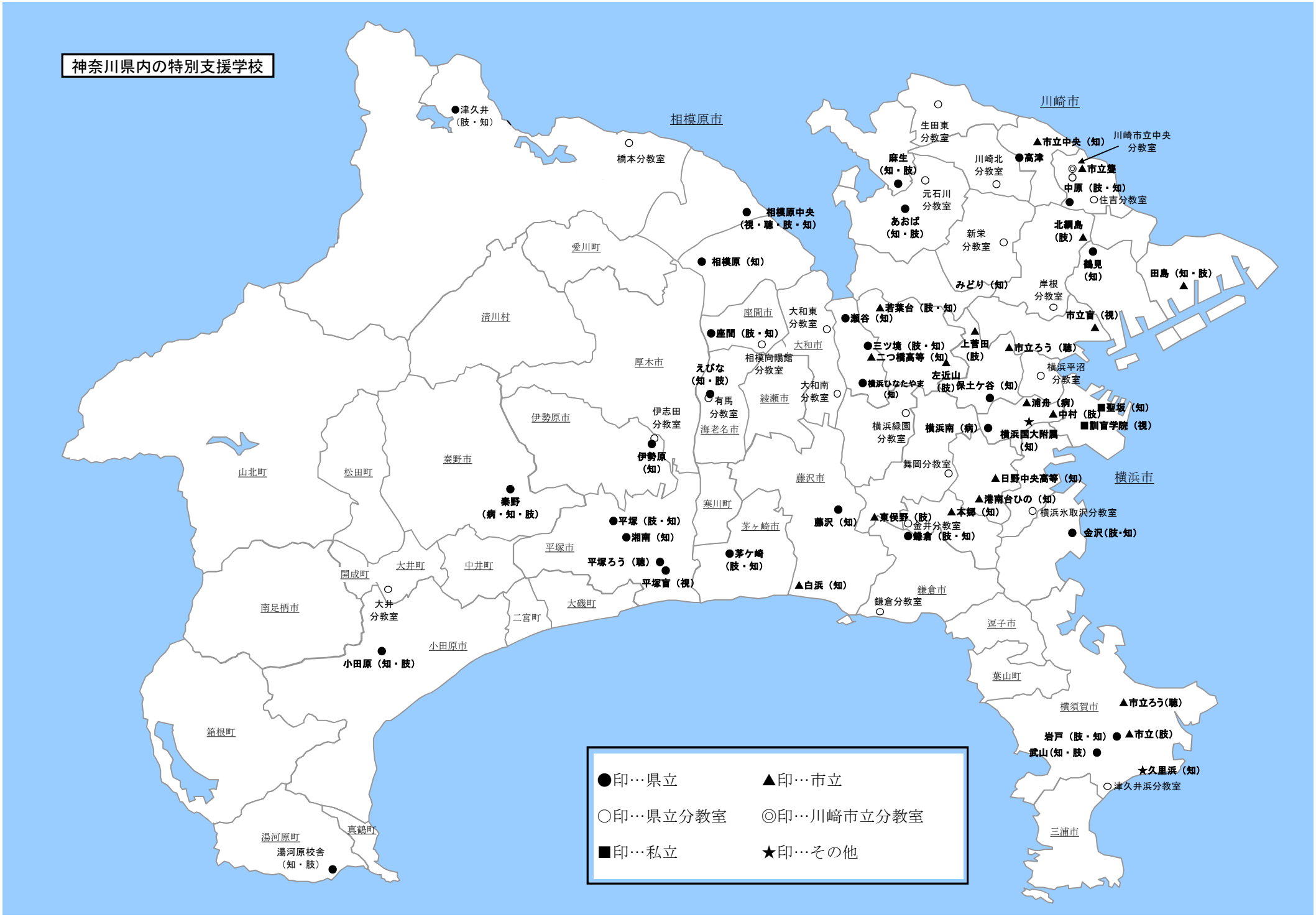
	学校名	郵便番号	所在地	電話	FAX	設置学部				
						幼	小	中	高	専
県立										
1	平塚盲学校	254-0047	平塚市追分10-1	0463(31)0948	0463(31)5996	視	視	視	視	視
2	平塚ろう学校	254-0074	平塚市大原2-1	0463(32)0129	0463(32)1646	聴	聴	聴	聴	聴
3	鶴見支援学校	230-0071	横浜市鶴見区駒岡4-40-1	045(573)4787	045(584)8502		知	知	知	
3b	〃岸根分教室〔岸根高校内〕	222-0034	横浜市港北区岸根町370	045(439)3050	045(401)0138				知	
4	横浜南支援学校	232-0066	横浜市南区六ッ川2-138-4	045(712)4046	045(742)9710		病	病	病	
5	保土ケ谷支援学校	240-0026	横浜市保土ヶ谷区権太坂1-8-1	045(714)0126	045(742)9716		知	知	知	
5b	〃舞岡分教室〔舞岡高校内〕	244-0814	横浜市戸塚区南舞岡3-36-1	045(823)9654	045(825)5412				知	
5c	〃横浜平沼分教室〔横浜平沼高校内〕	220-0073	横浜市西区岡野1-5-8	045(328)2010	045(328)2011				知	
6	金沢支援学校	236-0051	横浜市金沢区富岡東2-6-1	045(770)0456	045(775)4121		知肢	知肢	知肢	
6b	〃横浜氷取沢分教室〔横浜氷取沢高校内〕	235-0043	横浜市磯子区氷取沢町938-2	045(778)1065	045(778)1066				知	
7	みどり支援学校	226-0002	横浜市緑区東本郷5-18-1	045(471)7941	045(474)4707		知	知	知	
7b	〃新栄分教室〔新栄高校内〕	224-0035	横浜市都筑区新栄町1-1	045(591)6443	045(591)6472				知	
8	あおば支援学校	227-0041	横浜市青葉区上谷本町109	045(978)1161	045(978)1160		知肢	知肢	知肢	
9	瀬谷支援学校	246-0005	横浜市瀬谷区竹村町28-1	045(302)1617	045(304)2950		知	知	知	
9b	〃大和東分教室〔大和東高校内〕	242-0011	大和市深見1760	046(264)2061	046(264)2062				知	
9c	〃大和南分教室〔大和南高校内〕	242-0014	大和市上和田2557	046(279)6577	046(279)6578				知	
10	三ツ境支援学校	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町468	045(365)3711	045(361)9695		肢	肢	知肢	
10b	〃横浜緑園分教室〔横浜緑園高校内〕	245-0003	横浜市泉区岡津町2667	045(811)5231	045(811)5232				知	
11	横浜ひなたやま支援学校	246-0034	横浜市瀬谷区南瀬谷2－20	045(300)5611	045(303)2330				知	
12	中原支援学校	211-0035	川崎市中原区井田3-13-1	044(755)1632	044(752)7786		肢	肢	知肢	
12b	〃住吉分教室〔住吉高校内〕	211-0021	川崎市中原区木月住吉町34-1	044(430)1016	044(430)1017				知	
13	高津支援学校	213-0035	川崎市高津区向ヶ丘16	044(865)0477	044(877)2626		知	知	知	
13b	〃生田東分教室〔生田東高校内〕	214-0038	川崎市多摩区生田4-32-1	044(931)1020	044(931)1020				知	
13c	〃川崎北分教室〔川崎北高校内〕	216-0003	川崎市宮前区有馬3-22-1	044(870)1040	044(870)1041				知	
14	麻生支援学校	215-0013	川崎市麻生区王禅寺303－1	044(980)4855	044(986)2517		知肢	知肢	知肢	
14b	〃元石川分教室〔元石川高校内〕	225-0004	横浜市青葉区元石川町4116	045(905)0037	045(905)0038				知	
15	津久井支援学校	252-0175	相模原市緑区若柳44	042(684)4860	042(684)4861		知肢	知肢	知肢	
16	相模原支援学校	252-0336	相模原市南区当麻814	042(778)0331	042(778)4957		知	知	知	
16b	〃橋本分教室〔橋本高校内〕	252-0143	相模原市緑区橋本8-8-1	042(700)1621	042(774)0870				知	
17	相模原中央支援学校	252-0221	相模原市中央区高根1-5-36	042(768)8510	042(768)8519	視聴	視聴 知肢	視聴 知肢	知肢	
18	岩戸支援学校	239-0844	横須賀市岩戸5-6-5	046(839)4500	046(849)3200				知肢	
19	武山支援学校	238-0313	横須賀市武3-35-1	046(856)5800	046(857)6367		知肢	知肢	知肢	
19b	〃津久井浜分教室〔津久井浜高校内〕	239-0843	横須賀市津久井4-4-1	046(848)2137	046(848)2147				知	
20	平塚支援学校	259-1215	平塚市寺田縄590	0463(58)0456	0463(59)4248		知肢	知肢	知肢	
21	湘南支援学校	254-0061	平塚市御殿4-14-1	0463(34)7212	0463(34)8707		知	知	知	
22	秦野支援学校	257-0025	秦野市落合500	0463(81)0948	0463(83)4118		知 肢 病	知 肢 病	知 肢 病	
23	鎌倉支援学校	247-0075	鎌倉市関谷566	0467(45)1482	0467(43)4804		肢	肢	知肢	
23b	〃金井分教室〔金井高校内〕	244-0845	横浜市栄区金井町100	045(852)4722	045(852)4738				知	
24	藤沢支援学校	252-0813	藤沢市亀井野2547-19	0466(82)9418	0466(83)3520		知	知	知	
24b	〃鎌倉分教室〔鎌倉高校内〕	248-0026	鎌倉市七里ガ浜2-21-1	0467(32)8721	0467(32)8722				知	
25	小田原支援学校	250-0865	小田原市蓮正寺1021	0465(37)2755	0465(37)5356		知肢	知肢	知肢	
25b	〃大井分教室〔大井高校内〕	258-0017	足柄上郡大井町西大井984-1	0465(86)0040	0465(86)0041				知	
25c	〃湯河原校舎	259-0301	足柄下郡湯河原町中央2－21－3	0465(60)1800	0465(60)1805		知肢	知肢	知肢	
26	茅ケ崎支援学校	253-0083	茅ヶ崎市西久保29-1	0467(57)5379	0467(57)5371		知肢	知肢	知肢	
27	伊勢原支援学校	259-1116	伊勢原市石田1390	0463(93)7916	0463(96)2457		知	知	知	
27b	〃伊志田分教室〔伊志田高校内〕	259-1116	伊勢原市石田1356 - 1	0463(93)0082	0463(93)0083				知	
28	えびな支援学校	243-0422	海老名市中新田4-5-1	046(292)5612	046(292)5620		知肢	知肢	知肢	
29	座間支援学校	252-0029	座間市入谷西5-10-1	046(255)2253	046(252)5379		肢	肢	知肢	
29b	〃有馬分教室〔有馬高校内〕	243-0424	海老名市社家5-27-1	046(238)1349	046(238)1359				知	
29c	〃相模向陽館分教室〔相模向陽館高校内〕	252-0003	座間市ひばりが丘3-58-1	046(298)0038	046(298)0039				知	

令和７年５月現在

神奈川県内の特別支援学校一覧（県立以外）

	学校名	郵便番号	所在地	電話	FAX	設置学部				
						幼	小	中	高	専
横浜市立										
30	盲特別支援学校	221-0005	横浜市神奈川区松見町1-26	045(431)1629	045(423)0284	視	視	視	視	視
31	ろう特別支援学校	240-0067	横浜市保土ヶ谷区常盤台81-1	045(335)0411	045(333)4807	聴	聴	聴	聴	
32	浦舟特別支援学校	232-0024	横浜市南区浦舟町3-46	045(243)2624	045(243)2625		病	病		
33	港南台ひの特別支援学校	234-0054	横浜市港南区港南台5-3-2	045(830)5826	045(830)5753		知	知	知	
34	上菅田特別支援学校	240-0051	横浜市保土ヶ谷区上菅田町462	045(382)0420	045(382)0413		肢	肢	肢	
35	本郷特別支援学校	247-0007	横浜市栄区小菅ケ谷3-37-12	045(894)2952	045(894)2954		知	知	知	
36	日野中央高等特別支援学校	234-0053	横浜市港南区日野中央2-25-3	045(844)3015	045(846)8448				知	
37	中村特別支援学校	232-0033	横浜市南区中村町4-269-1	045(261)9863	045(261)9872		肢	肢	肢	
38	若葉台特別支援学校	241-0801	横浜市旭区若葉台2-1-1	045(923)1300	045(923)1305		肢	肢	知肢	
39	北綱島特別支援学校	223-0053	横浜市港北区綱島西5-14-54	045(545)0126	045(545)0146		肢	肢	肢	
40	東俣野特別支援学校	245-0065	横浜市戸塚区東俣野町1103-1	045(851)9631	045(851)9632		肢	肢	肢	
41	二つ橋高等特別支援学校	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町470	045(391)2131	045(391)2193				知	
42	左近山特別支援学校	241-0831	横浜市旭区左近山1011	045(352)1580	045(352)1582		肢	肢	肢	
川崎市立										
43	聾学校	211-0053	川崎市中原区上小田中3-10-5	044(766)6500	044(766)5174	聴	聴	聴	聴	
44	中央支援学校	213-0011	川崎市高津区久本3-7-1	044(844)1275	044(822)7072			知	知	
44b	〃高等部分教室［市立聾学校内］	211-0053	川崎市中原区上小田中3-10-5	044(755)5666	044(755)5666				知	
44c	〃小学部大戸分教室［市立大戸小学校内］	211-0041	川崎市中原区下小田中1-4-1	044(766)3868	044(766)3868		知肢			
44d	〃小学部稲田分教室［市立稲田小学校内］	214-0021	川崎市多摩区宿河原3-18-1	044(922)5735	044(922)5735		知肢			
45	田島支援学校（高等部）	210-0853	川崎市川崎区田島町20-5	044(355)1240	044(333)6103				知肢	
45b	桜校（小学部・中学部）	210-0832	川崎市川崎区池上新町1-1-3	044(299)2861	044(299)2874		知肢	知肢		
横須賀市立										
46	ろう学校	238-0023	横須賀市森崎5-13-1	046(834)1172	046(834)0096	聴	聴	聴	聴	
47	養護学校	239-0844	横須賀市岩戸5-6-4	046(849)6465	046(849)6559		肢	肢		
藤沢市立										
48	白浜養護学校	251-0046	藤沢市辻堂西海岸1-2-2	0466(33)1500	0466(37)1066		知	知	知	
国立大学法人										
49	筑波大学附属久里浜特別支援学校	239-0841	横須賀市野比5-1-2	046(848)3441	046(848)3740	知	知			
50	横浜国立大学教育学部附属特別支援学校	232-0061	横浜市南区大岡2-31-3	045(742)2291	045(743)4746		知	知	知	
私立										
51	横浜訓盲学院	231-0847	横浜市中区竹之丸181	045(641)2626	045(641)2627	視	視	視	視	視
52	聖坂支援学校	231-0862	横浜市中区山手町140	045(622)2974	045(622)2923		知	知	知	知

神奈川県内の特別支援学校



輝　け　き　み　の　明　日
－特別支援学校版－
令和８年度入学生にむけて

発　行　　令和７年５月
編　集　　神奈川県教育委員会教育局支援部特別支援教育課
横浜市中区日本大通１（〒231-8588）
電話　(045)210-8288（直通）